

編所輯編堂省三

理地界世近最新制

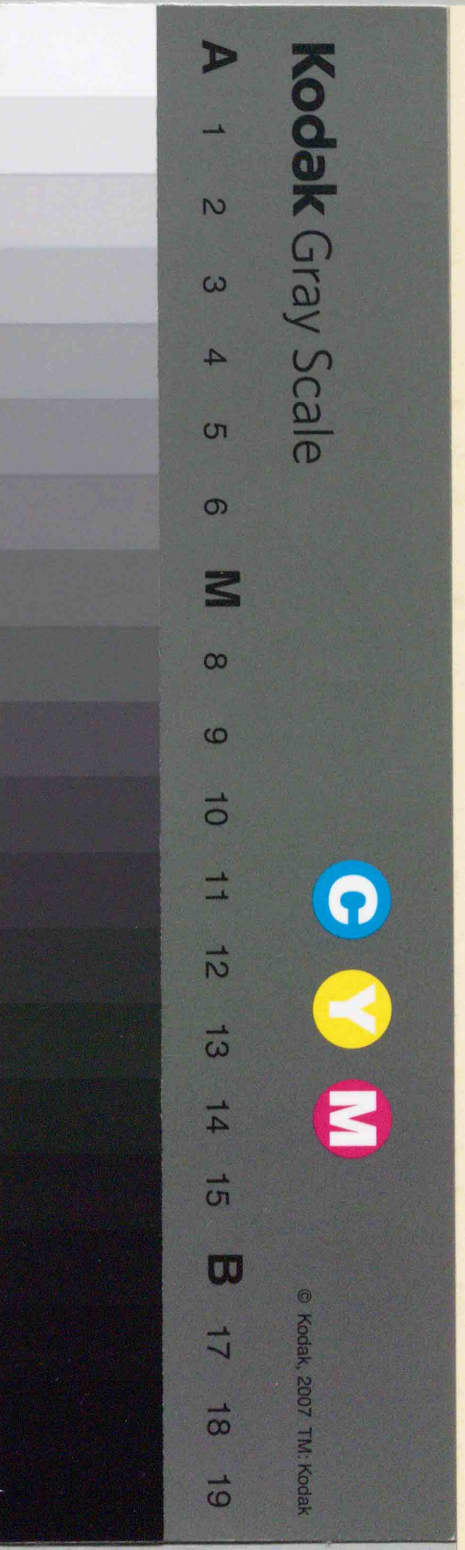
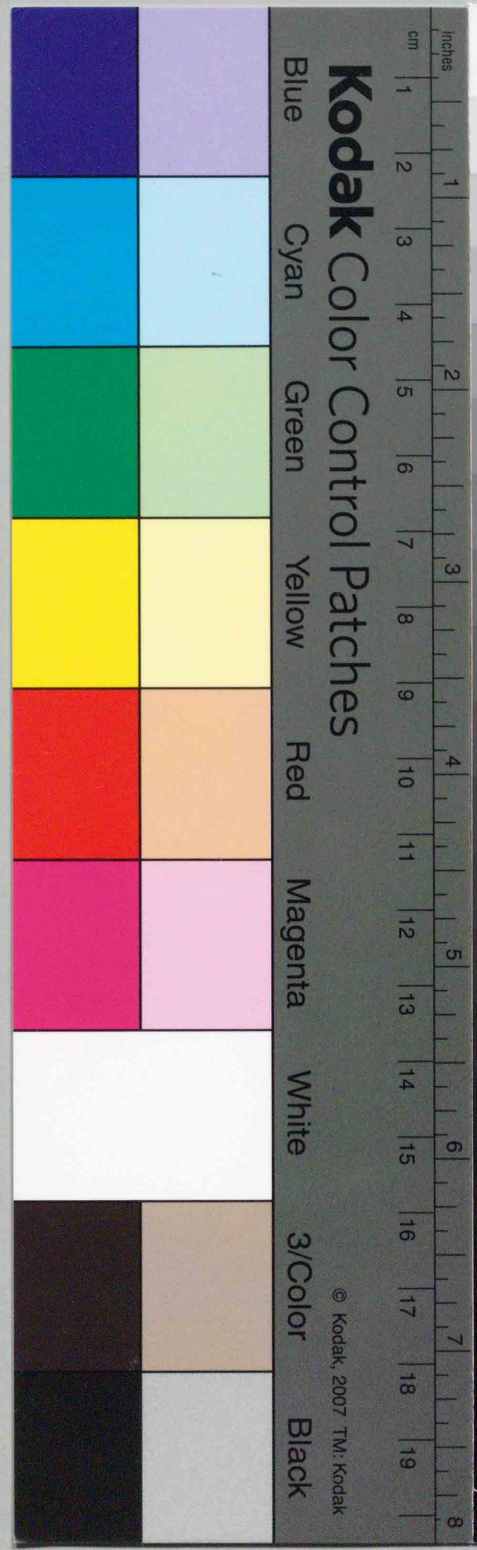
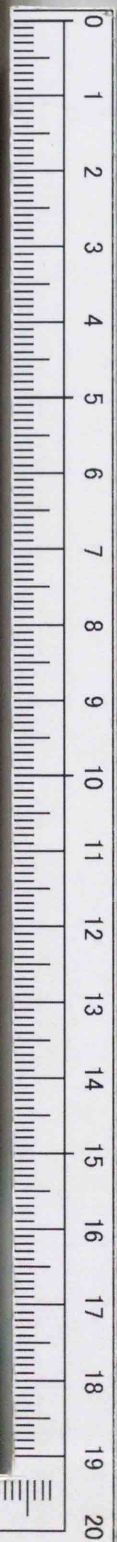
版訂改

據準表乙

375.9
Sa14
資料室

堂省

教
4
20



42829

教科書文庫

4
293
41-1935
20000 53168



資料室

日三十二月一年十和昭

濟定檢省部文

用科理地校學中

編所輯編堂省三

理地界世近最新制

版訂改

據準表乙



堂省三

教科書文庫
4
293
41-1935
2000053168

375.9

Sa 14



搬運の毛羊

ぶ運へ場市く遠りぎ横を野荒え越を丘らか場牧の部内が牛の連一



河運ズエス

るあで漠沙るた涼荒は岸兩で景光たし瞰下を近附のドイサトーボ



辯言

本書は新定の教授要目に準據し、中學校(表)の教科用書として編纂したもので、^{新制}最近日本地理及び^{新制}最近地理通論と連絡し、相待つて地理教授の本旨を達成せしめることに努めた。

本書の編纂に當り、特に意を用ひた要點は、左の通りである。

- 一、既習の知識を基礎とし、更に之を世界的に統合會得せしめる方針を採つた。即ち日本地理を中心とし、その延長として世界地理を説いたもので、大洋洲も先、日本の委任統治諸島から入ることとした。
- 一、日本と關係の親疎により、著しく教材の選擇を斟酌し、要目の趣旨を徹底せしめることに努めた。従つて排列の順序も、その便否を考慮し、或は地形から始め、或は政治から述べ、必ずしも一定の型によることを避けた。
- 一、經濟關係は國際上の最要條件であるから、殊にその記述に意を注ぎ、多數のマップ・グラフ等を加へて直觀的ならしめた。
- 一、挿畫は教授上に有益なものを厳選し、尙多數の別頁圖を加へて、記述の理解と趣味の喚起とに便ならしめた。

一、人口は最近の調査により、關東州は三萬以上、特殊關係のある滿洲は十萬以上、その他は二十萬以上の都邑を一括して欄外に列記し、又獨立國の首府は、二十萬に充たないものものを載せて参考とした。

一、統計の調査年度は一定しないが、成るべく最近の數を採つた。

一、尺度は概々メートル法を原則としたが、航路は一般の慣用により哩を用ひた。

本書は多數の當事者諸賢が教授の實際上から寄せられた貴き提案に基き、訂正を加へた所が極めて多い。茲に謹んで感謝の意を表す。

昭和九年七月

編者識

新制 最近世界地理 改訂版 (乙表準據)

目次

緒言	一
第一篇 大洋洲	
總說(其二)	三
各說	三
第一章 我が南洋諸島	三
第二章 太平洋諸島	六
第三章 オーストラリア聯邦	一〇
總說(其二)	一五
第二篇 兩極地方	一七

第三篇 アフリカ洲

總 說(其一)..... 三〇

各 說..... 三三

第一章 北部アフリカ..... 三三

第二章 西部アフリカ..... 三七

第三章 東部アフリカ..... 三〇

第四章 南部アフリカ..... 三三

總 說(其二)..... 三六

第四篇 南アメリカ洲

總 說(其一)..... 三七

各 說..... 四〇

第一章 東部地方..... 四〇

第二章 東南部地方..... 四三

第三章 西部地方..... 四五

總 說(其二)..... 四九

第五篇 北アメリカ洲

總 說(其一)..... 五三

各 說..... 五五

第一章 南部地方..... 五五

第二章 アメリカ合衆國..... 六〇

第三章 カナダ 附グリーンランド..... 七四

總 說(其二)..... 七九

第六篇 アジヤ洲

總 說(其一)..... 八二

各 說..... 八四

第一章 滿洲及び關東州..... 八四

第三篇 アフリカ洲

總 說(其一)..... 三〇

各 說..... 三三

第一章 北部アフリカ..... 三三

第二章 西部アフリカ..... 三七

第三章 東部アフリカ..... 三〇

第四章 南部アフリカ..... 三三

總 說(其二)..... 三六

第四篇 南アメリカ洲

總 說(其一)..... 三七

各 說..... 四〇

第一章 東部地方..... 四〇

第二章 東南部地方..... 四三

第三章 西部地方..... 四五

總 說(其二)..... 四九

第五篇 北アメリカ洲

總 說(其一)..... 五三

各 說..... 五五

第一章 南部地方..... 五五

第二章 アメリカ合衆國..... 六〇

第三章 カナダ 附グリーンランド..... 七四

總 說(其二)..... 七九

第六篇 アジヤ洲

總 說(其一)..... 八二

各 說..... 八四

第一章 滿洲及び關東州..... 八四

通説…………… 八四

地方誌……………

一 滿洲…………… 九二

二 關東州…………… 九四

第二章 支那(中華民國)…………… 九六

一 支那本部…………… 九六

二 西藏・青海・新疆・蒙古…………… 一〇三

第三章 南部アジア…………… 一〇五

第一節 印度支那…………… 一〇五

第二節 マレー諸島…………… 一〇八

第三節 印度及びセイロン島…………… 一一三

第四章 西部アジア…………… 一二二

第五章 北部アジア…………… 一二三

第一節 シベリヤ…………… 一二三

第二節 中央アジア及びコーカシヤ…………… 一二七

總説(其二)…………… 一三六

第七篇 ヨーロッパ洲

總説(其二)…………… 一四二

各説…………… 一四五

第一章 東歐諸國…………… 一四五

第一節 ロシヤ(ソビエト聯邦の歐洲部)…………… 一四五

第二節 フィンランド…………… 一五二

第三節 バルチック沿海諸國…………… 一五三

第四節 ポーランド附ダンチヒ…………… 一五四

第二章 北歐諸國…………… 一五五

第一節 スカンディナ비아半島…………… 一五五

第二節 デンマーク附アイスランド…………… 一五九

第三章 中歐諸國…………… 一六〇

第一節 ドイツ…………… 一六〇

第二節 スイス…………… 一六六

第三節 オーストリア附リヒテンシュタイン…………… 一六七

第四節 ハンガリー…………… 一七三

目次終

第五節 チッコスロバキヤ……………一七

第四章 西歐諸國……………一七

第一節 フランス附モナコ……………一七

第二節 ベルギー附ルクセンブルグ……………一八

第三節 オランダ……………一八

第四節 イギリス……………一八

第五章 地中海地方……………一八

第一節 イベリヤ半島附ジブラルタル アンドラ……………一九

第二節 イタリア附バチカン サンマリノ マルタ……………一九

第三節 バルカン半島……………二〇

總説(其二)……………二〇

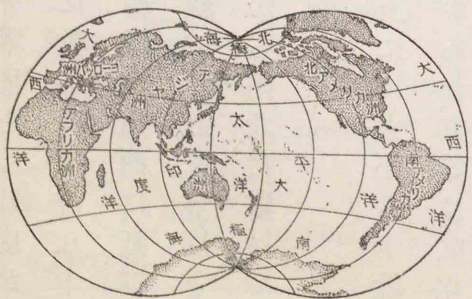
〔附〕日本帝國在外公館一覽表……………卷末

新制 最近世界地理 改訂版(乙表準據)

緒言

地球上には、我がアジヤ洲の外、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、大洋洲がある、之を六大洲と呼び、總面積は、約一億三千万方呎に及ぶ。その他南極地方には、面積未詳の陸地がある。海洋の面積は、陸地の約三倍に達し、之を太平洋、大西洋、印度の三大洋に分け、又北極海、南極海を加へて、五大洋とも呼ぶ。

地球の表面には、各地點の位置を示す爲に、便宜上、經線と緯線とを設ける。經線は南北の兩極を連ねた縦の線で、イギリスのグリニチ天文臺を通ず



我が東京の位置は
約東經百三十九度
四十四分北緯三十
五度三十九分に當
つてゐる

圖解文明人の市街
と野蠻人の聚落
(上はロンドン市
の一部、下は西ア
フリカの土人部
落)



る經線を零度とし、此處か
ら東西に數へて、各百八十
度ある。緯線は東西に延び
た横の線で、赤道を零度と
し、此處から南北に數へて
各九十度ある。

地球上には、大小六十餘
の國家があり、其等は文化
國勢等の程度が著しく違

つてゐる。近年國際間の關係が極めて密接となり、世界の一角に起つた事變も、その影響は忽ち全般に波及するやうになつた。我等は廣く外國の地理を學んで、世界に於ける日本の地位を知り、以て時代に善處する覺悟がなくてはならぬ。

第一篇 大洋洲

Oceania

總說 (其一)

面積
約九〇〇萬方
人
約九五〇萬

大洋洲はオーストラリア大陸と、廣く太平洋上にある無數の島々
とから成り、通常之をオーストララシヤ・メラネシヤ・ミクロネシヤ・ポ
リネシヤに大別するが、本書は便宜上左の三部に分ける。
Polynesia
我が南洋諸島 (我が國に統治を委任された島々)

太平洋諸島 (我が南洋諸島を除いた島々)

オーストラリア聯邦 (オーストラリア大陸・タスマニア)

各說

第一章 我が南洋諸島

面積
約二一五〇方
人
約七萬六千 (内
邦人約二萬八千
人)

マリヤナ・パラオ・カロリン・マーシャルの四諸島に
分れ、多くは火山島又は珊瑚島で、島數は六百に餘



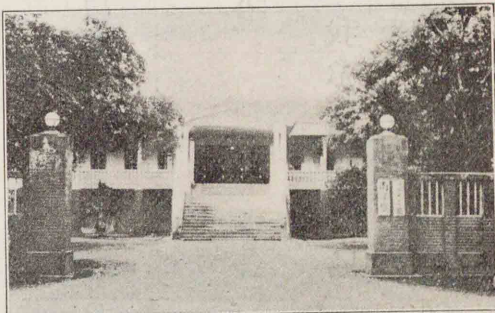
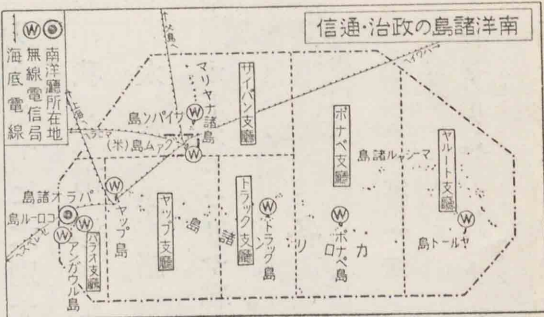
委任統治地は年報を國際聯盟に提出するのみでその他は本國の統治と異なる點はない

南洋廳

六支廳

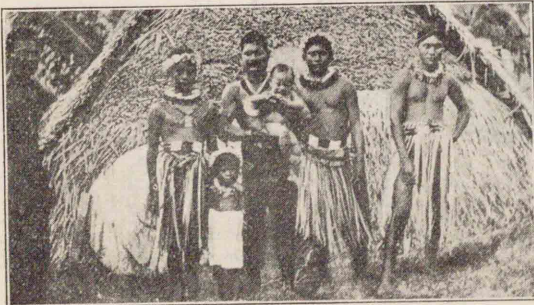
サイパン パラオ
ヤップ トラック
ポナペ ヤルート

チャモロはカナカに比べると文化の程度が遙に高い
圖 南洋諸島の土人

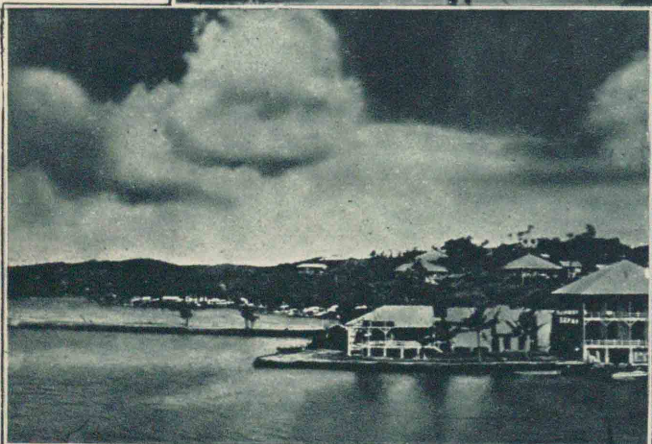


ロ人等で、何れもミクロネシヤ

族であるが、風習は處により違つてゐる。氣候は緯度の割合に涼しく、雨量が多い。面積が狭く、地味も肥沃でないから、産物は少いが、椰子樹、麩果樹、甘蔗、芋類等はよく生育し、殊に我が施政以來、産業が著しく發達して、砂糖、コブラ、燐礦等は主



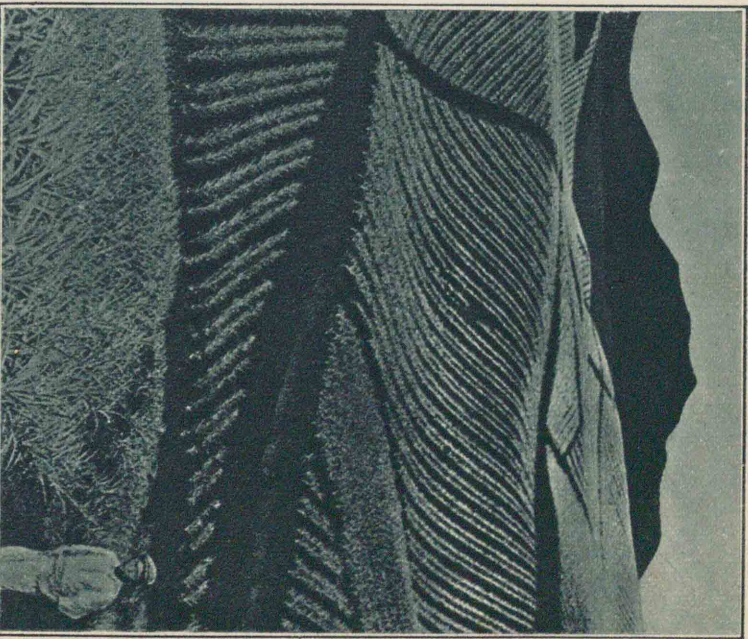
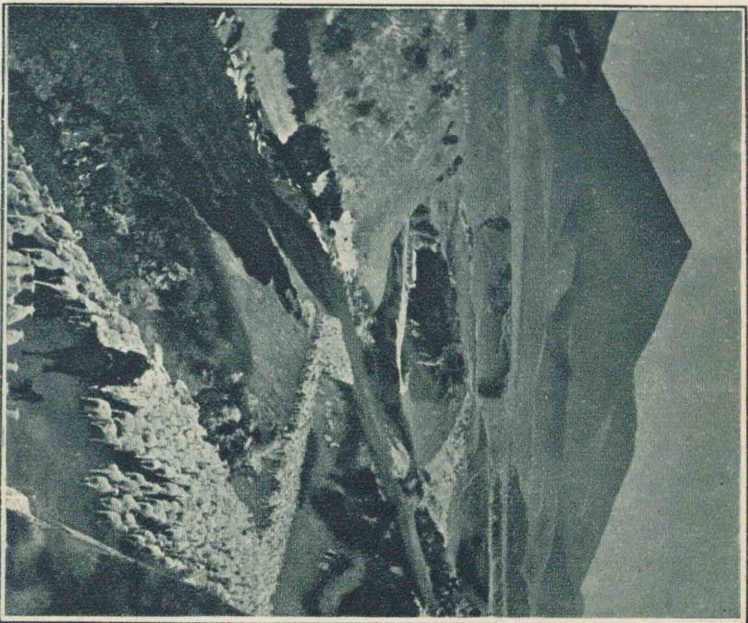
サイパン島のガラパン
サイパン支廳の所在地で、圖中の
人家は總て内地人の住宅



ヤップ島の海底電信所
南洋諸島中海底電線の集點として
最も主要な位置を占める



砂糖運搬用の鐵道
サイパン島と共に砂糖の主産地である
チニヤン島の海岸



羊牧のペンラージュニ
む進てい續く長く如の蛇長を道るせ曲屈ひ従に者牧は群の羊
爾あて品出輸要主は詰確のそれらせ培致く廣もてま腹山陵丘は梨風

梨風のイフハ

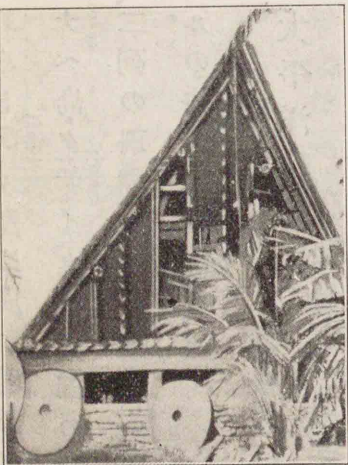
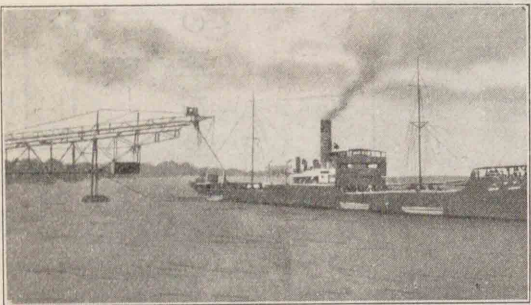
要の産物となり、貝殻・魚類等の水産もある。航路は主要島嶼の連絡線と、内地連絡線とがあり、海底電線・無線電信等も備つてゐる。

マリヤナ諸島は、富士火山帯の延長で、その多くは珊瑚礁に圍まれた火山島から成り、東側にマリヤナ海溝がある。サイパン島は附近の島と共に、甘蔗の栽培が行はれ、砂糖を産する。

パラオ諸島は概ね火山島で、東側に深い海溝がある。コロール島は我が南洋統治の中心地で、マラカール港の錨地があり、アンガウル島には燐礦の産が多い。

カロリン諸島は、多くの珊瑚島又は火山島から成り、その中のヤップ島は海底電線の要地で、土人は石貨貝

燐礦アンガウル島に於ける燐礦積出
ヤップ島にある島民集會所と石貨



トラック島に嘗て我が南洋諸島防備隊が置かれたが今は南洋諸島を南洋海軍區とし横須賀鎮守府の所屬になつてゐる

圖 キラウエヤ火山の噴火口



貨を用ひる風習がある。トラック島は、廣い礁湖内に火山群島を包み、良港を作つてゐる。ポナペ島、クサイ島は東部の主島である。マーシャル諸島は、二列の珊瑚礁群から成る。ヤルート島にはコブラの産が多く、ジャボールの舟泊地がある。

第二章 太平洋諸島

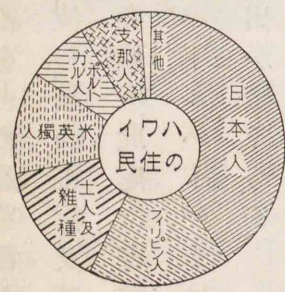
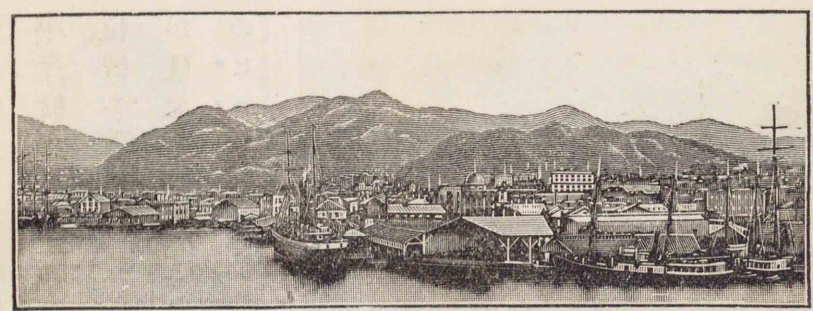
ミクロネシヤ 大部は日本の委任統治に屬してゐるが、赤道以南のナウル島は、英國の委任統治地で、オーシャン島(英領)と共に燐礦の産が多い。グアム島(米國)の太平洋に於ける活動の根據地で、海軍要港を設け、又海底電線の中繼所として名高い。ポリネシヤ 太平洋の東部に散在する無數の島々で、その中米國に屬するハワイ諸島は、最も重要なものである。

ハワイ諸島
面積 約一萬七千方呎
人口 約三七萬

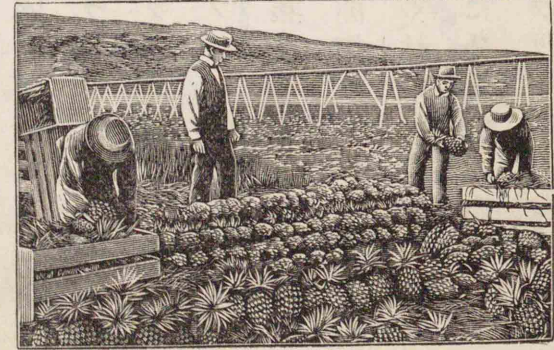
圖 ハワイ在留邦人の鳳梨栽培

圖 解 ホノルルの埠頭

ホノルル附近の無線電信局は我が國と連絡する



ハワイ諸島には八箇の大島がある。最大のハワイ島には、キラウエヤ火山があつて、その噴火口には常に灼熱した熔岩を湛へ、凄壯を極めてゐる。海風が涼味を運ぶので、熱帯にありながら、氣候が割合に溫和で、降雨も多く、植物がよく繁茂し、甘蔗、バナナ、米



鳳梨等の産物に富み、邦人の移住して農耕製糖等を營む者が多い。この地の土人は、次第にその數を減じ、現住民の六分の五は移住民で、その中日本人は最も

多く、總人口の約四割を占める。首都ホノルルは、オアフ島にあつて、太平洋航路の焦點に位し、無線電信及び海底電線の中繼地としても好位置を占める。我が商船も此處に寄港する。主要の商港で、砂糖の輸出が殊に多く、附近のパールハーバーは、米國の海軍根據地で、ハワイ島のヒロは、砂糖の輸出が盛である。



サモア諸島は米獨の二國に屬してゐたが、ドイツ領の部分は、ニューギランド政府の委任統治地となつた。アピヤはコブラの積出が多い。

メラネシヤ 西部のパプア(ニューギネヤ)は、世界第二の大島であるが、濕熱な不健康地である上に、兇暴な土人の住地で、開拓は進まず、熱帯林に被はれてゐる部分が廣く、林中に風鳥の特産がある。もと英獨蘭の三國に分屬してゐたが、ドイツ領の部分は、オーストラリア政府の委任統

パプア島の面積は約七七萬方呎、人口約六五萬

圖 100 パプア土人の水上家屋

ニッケルの産は一時世界第一であつたが今はカナダに及ばない

面積 約二六萬八千方呎

人口 約一四九萬

ニューギランドの生物は特別な一區域をなしてゐる

圖 101 マオリ人の文身

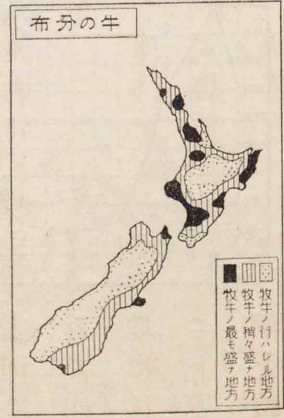
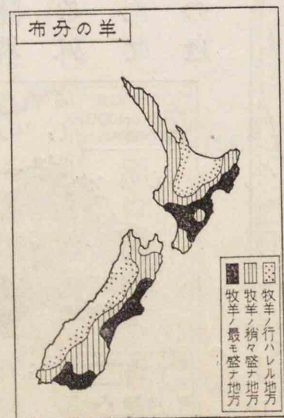
ウェリントン一四萬



その數は次第に減じて行く。北島のウェリントン

治地となつた。ニューカレドニア(佛)はニッケルを出し、フィジー諸島(英)はコブラの産が多く、スバは交通の要地に當る。

ニューギランドは英國の自治植民地で、クック海峡によつて南北の二大島に分れる。南島には高峻な南アルプスが連つて氷河が懸り、北島にはエグmont等の火山が噴起して、温泉や噴氣孔が多い。氣候は溫和であるが、西風が卓越し、西部は雨が多く、東部は乾燥する。羊・牛等の



オークランド三萬

オーストラリア聯邦

面積 約七〇萬方

人口 約六五〇萬

右の内タスマニヤは面積約六萬八千方料、人口約二二萬

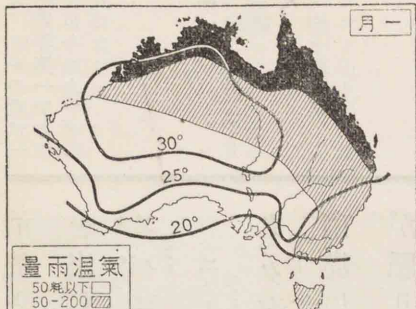
は、この地の首府で、**オ・ク・ラ・ン・ド**は主要な商港である。
Auckland

第三章 オーストラリア聯邦

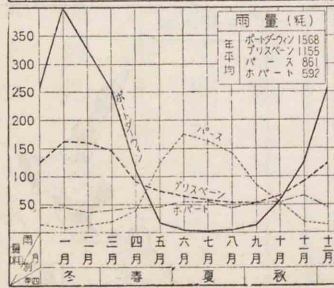
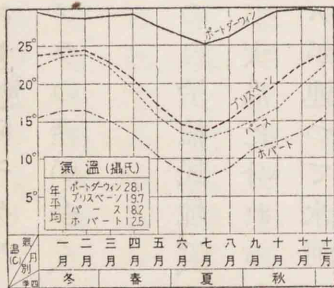
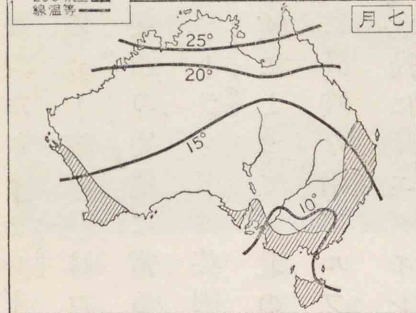
Commonwealth of Australia

地形 オーストラリアは極めて單純な陸塊で、東南部にオーストラリアアルプスの連る外は、周邊に臺地が続いて、大きな盆地状をなしてある。河の長大なのは

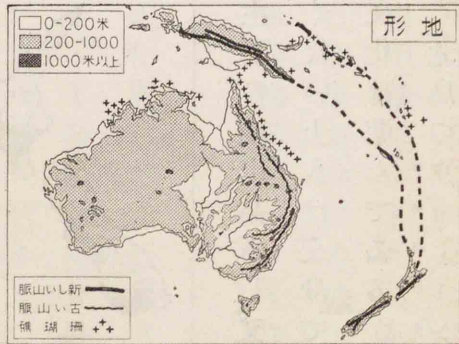
月一



月七



マールー河の内地には、**エーア湖**を始



北方ではヨーク半島とアルネムランドとに抱かれたカイペンタリヤ灣南方ではオーストラリア大灣とスペインサー灣とが稍、著しいのみである

群 圖 解 カンガルーの

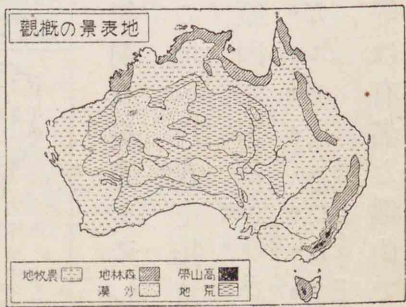


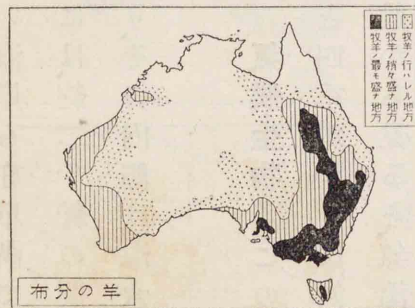
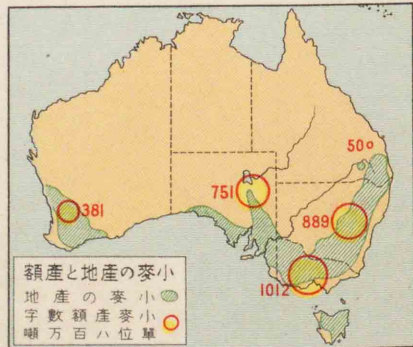
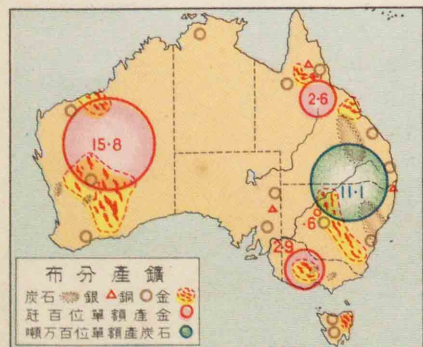
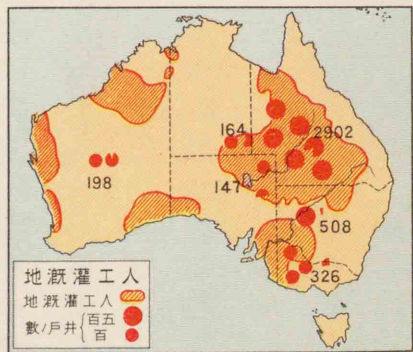
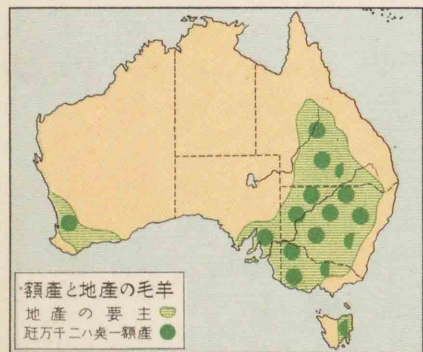
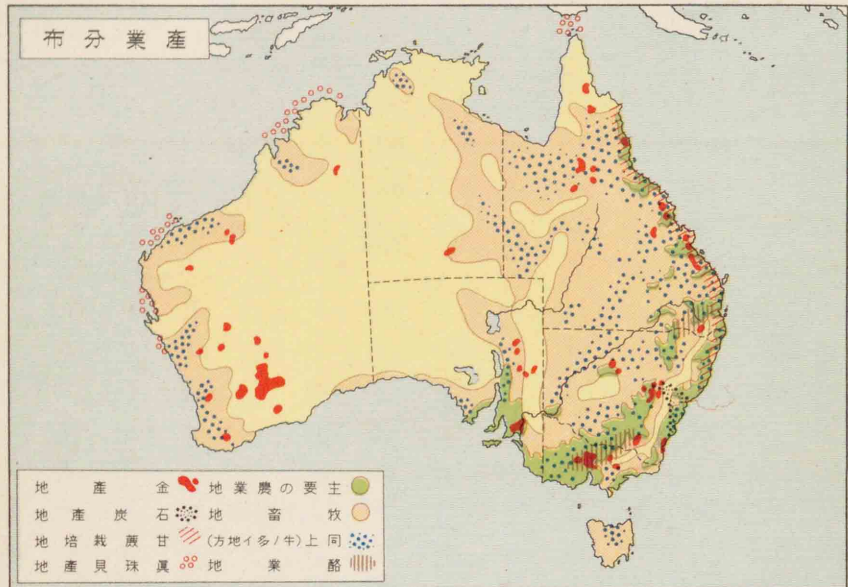
め大小の鹹湖が多い。海岸も亦單調で、著しい出入はない。東北の海上には、約二千料の間、珊瑚礁が斷續して大堡礁を作り、その内側は海水が浅く、航行には適しない。

氣候・生物 この地は我が國

と四季が全く反對であるが、一般から見ると、気温の高い處が多い。夏(月一)は北部、冬(月七)は南部に相應の降雨もあるが、内部は乾燥して、廣い沙漠や荒野となつてゐる。氣候の關係や、他大陸と離れてゐる等の爲に、生物はカンガルー、鴨嘴獸等の如き、他地方に現存しないものが棲んでゐる。

産業 固有の生物は、經濟的に價值のあるものは少いが、移民の移植により、農牧が大いに發達し

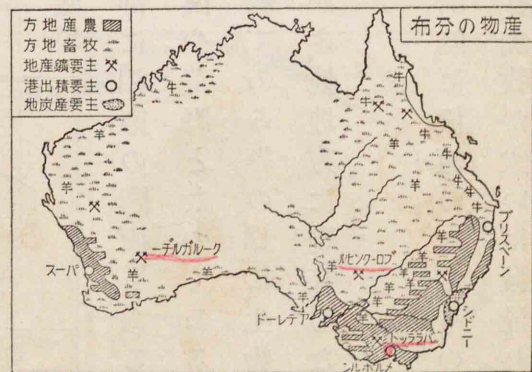


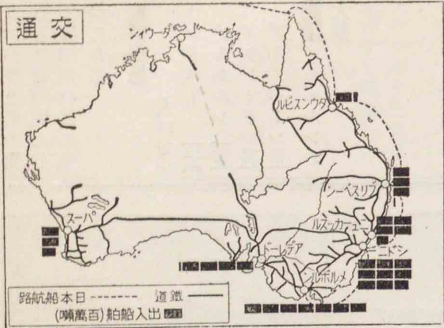


も豊富で、金・銀・銅・石炭等を産し、殊に金は、この地へ白人を招致した最大の原因である。バララット(金)・クールガール(金)・ブローケンヒル(鉛)等は有名な鑛山で、

一で、牛肉・牛酪・皮革等の産

て、東部・南部には、小麦・燕麥・玉蜀黍等の産が多く、葡萄・柑橘等の栽培も行はれる。近年井戸や貯水池等による人工灌漑の設備が施されて、その産額は益々多くなつた。農産地帯からその内部にかけては、羊・牛等の牧畜が大規模に行はれ、羊毛の産額は世界第一、





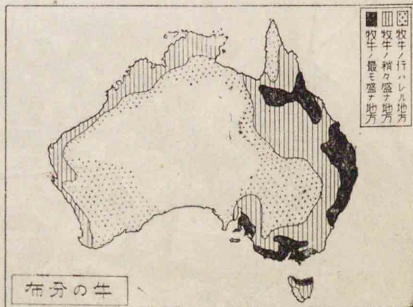
○貿易は羊毛を最大輸出品とし肉類・酪製品・皮革等の畜産品・小麦・砂糖・礦物等が之に次ぎ輸入は織物・鐵・機械類等である
土人はオーストラリア族でその数は少い

シドニーの附近からは石炭を産する。貿易は英國との間に最も盛で、我が國へも羊毛・小麦等を輸出し、絹織・綿織・生絲等を輸入する。
内地の交通は不便であるが、南部には東西横斷の鐵道が通じ、南北縦貫線も一部が出来た。産業の發達と共に、他大陸との航通は益々盛となり、航空路も次第に開け、海底電線・無線電信等の通信機關も備つてゐる。

五月十四日

住民政治 住民は英國出の白人が大部を占めてゐるが、人口が極めて疎な上に、白濠主義を唱へ、有色人の入國を固く禁じてゐるので、土地の開發を妨げる。

大陸は五の自治州(ビクトリア・ニューサウスウエールズ・クイーンズランド)と、北部地方とに分れ、之にタスマニア州を併せて聯邦を組織し、英國王を代表せる總督の統轄下に自治を行つてゐるが、本國との



カンベラとその附近とは首府區として自治州の外に立つてゐる

主要都邑

人口(萬)

- シドニー 一・三
- メルボルン 一・〇
- アデレード 一・〇
- ブリスベーン 一・〇
- メルボルンの大觀

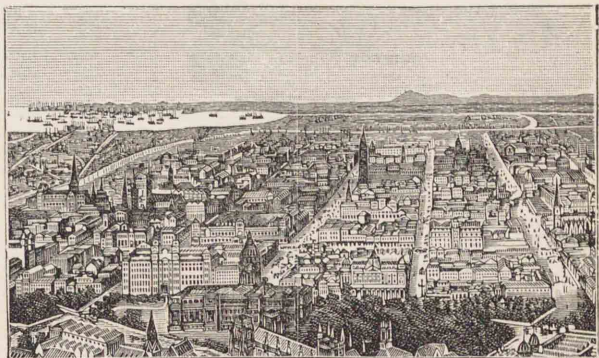
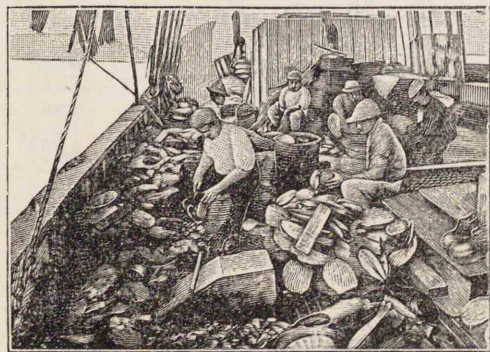


圖 眞珠貝の採集

の輸出が多い。木曜島の附近は眞珠貝を産し、邦人の採集に従事してゐる者もあるが、今はその中心が、西部のブルーム地方に移つた。中部は荒地が多く、大部分は不毛であるが、東



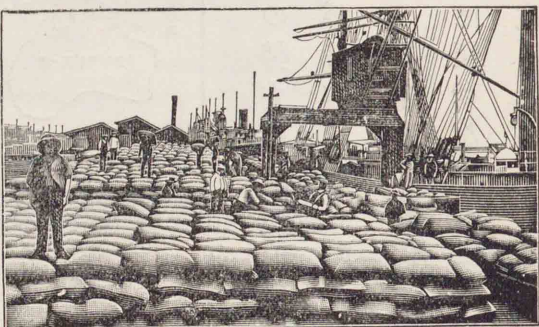
關係が次第に薄らぎ、議會や軍備もあつて、殆ど獨立に近い。カンベラはその首府である。

都邑

東部は大陸中で最も早く開けた處で、繁盛な港市が多く、メルボルン、シドニーはその二大中心で、出入の貨物は多く此處に集る。シドニーはポートジャクソンの良灣に臨み、聯邦第一の大都會で、附近に炭田を控へ、ニューカッスルと共に石炭の輸出が多く、ブリスベーン、タウンズビルは、共に畜産

圖 眞珠貝の採集の埠頭

タスマニヤ土人は近年全く絶滅した



る。ホバートはこの地の良港である。



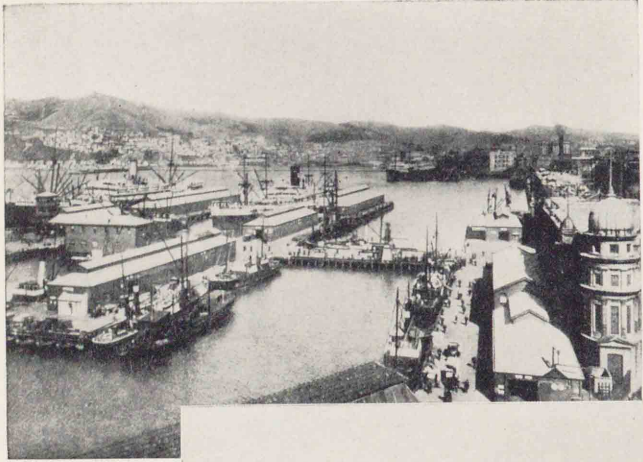
けた。パースはその中心地で、フリマントルは穀物の積出が盛である。

タスマニヤは大陸との間にバス海峽を挟み、氣候が溫和で、盛に羊を牧養し、又果樹を栽培す

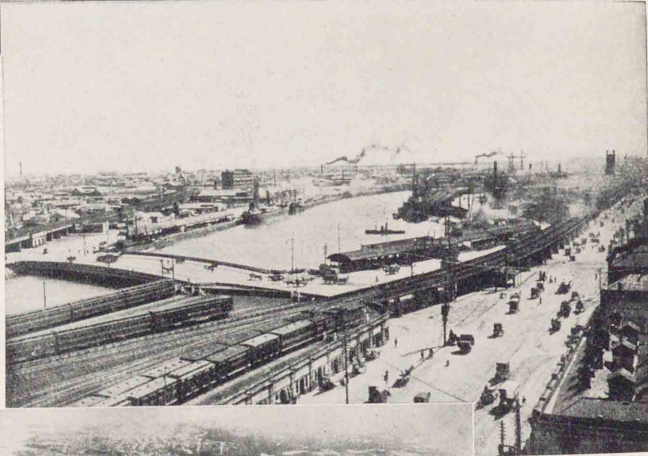
總説 (其二)

土地産業

本洲の探検は、マゼランの世界一周が行はれた後、とて、十八世紀の後半、クックの數年に互る大探検によつて、略その状態



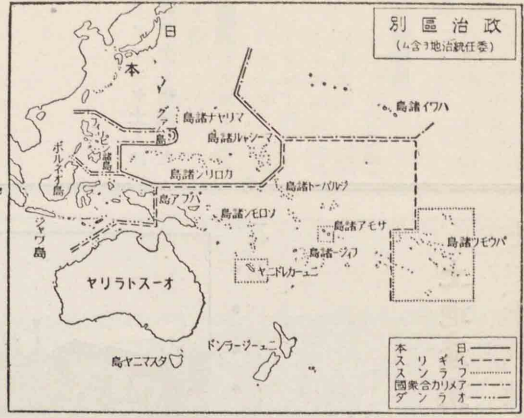
ウヰリントン
女王波止場といはれる部分で、多
数の船が碇泊してゐる。



メルボルの埠頭
フィリポ湾岸の良港で船の輻輳し
てゐる處はヤラ河



シドニーの展望
屈曲の錯雑が圖の如く最近左右の
兩岸を連ねる橋が出来た



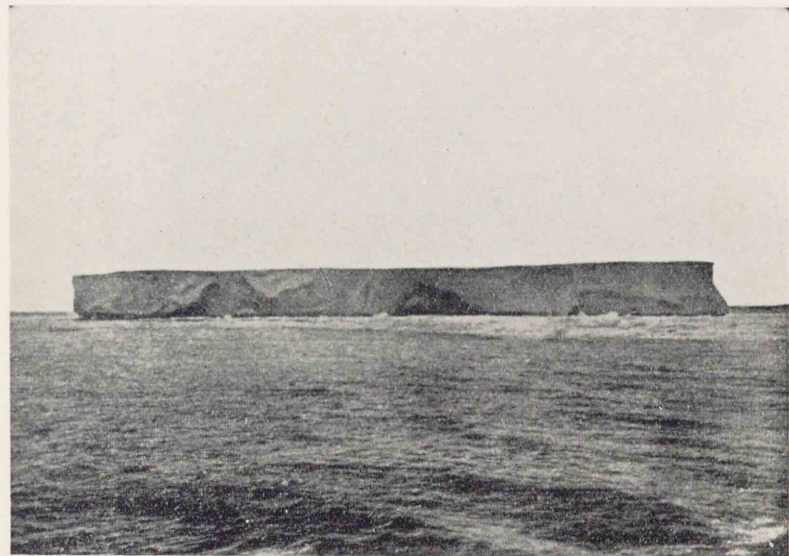
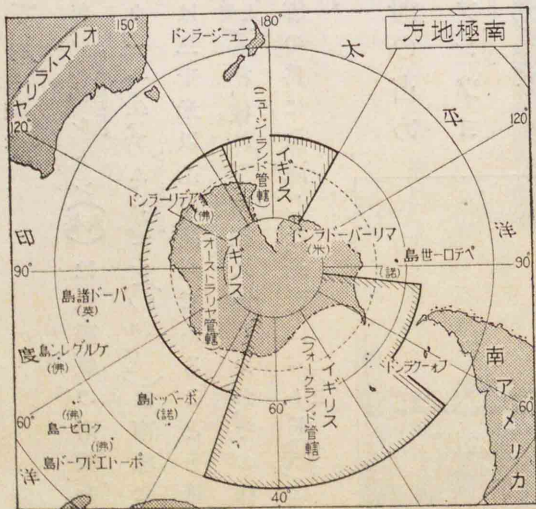
を明にするに至つた。従つて拓殖の進んだのは、新しいこ
とであるが、今は歐米へ對する原料供給地として、主要な
位置を占めてゐる。又島嶼中には、貯炭所・給水地・海底電線
の中繼所等として、重視されるものが多い。

住民現勢 住民は點々と離れた廣い區域に住んでゐ
るから、民族が頗る多く、風習も著しく異なつてゐるが、此等
を總稱して海岸島嶼住民といひ、或は主要な一民族の名
を採つて、マレー人種とも呼んでゐる。本洲には獨立國は
一もなく、英國は濠洲大陸の外、多數の島嶼を領有して、そ
の勢力は遙に他の諸國を凌ぎ、佛國・米國等の領土も處々に散在し、我
が日本も、亦その一部の委任統治を行つてゐる。

日本との關係 我が國とは距離が近く、歐米諸國よりも、通商上遙
に便利な位置にあるから、商船の來往が繁く、更に近年、我が統治權が
遠く赤道下に及んだので、關係は益々深くなつた。

第二篇 兩極地方

南極地方 オーストラリアの南方に陸地のあることは、クックの探検によつて知られてゐたが、十九世紀の後半以後、ウィルクスランド・南ビクトリアランド・エドワード七世ランド・グラハムランド等の陸地が発見された。其等の沿岸には、卓状の大氷山が多く浮流して、ペンギン鳥が群棲し、又ロス島には、エレブス活火山が氷雪中に噴煙し、壯觀を呈する。此等の陸地は、一大陸の縁邊を、各所から見るとものと認められ、この想像大陸を南極洲と呼ぶ。この地方は、夏季に渡來する漁獵者の外、住民は全くないが、近年英・佛・諾米の諸國は、夫々土地の領有權

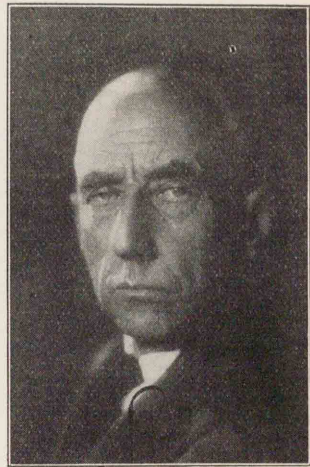


山氷大の方地極南
るあでの特の方地極南は山氷大ぶ浮く如の島大てしなを狀卓



山 ス ブ レ エ
るあで物名一の極南は鳥ンギンべぶ遊れ群、山火活るえ聳に上原氷

【圖解】アムンゼンの肖像
アムンゼンが南極に到達したのは二月十四日です。コットが到達したのは翌年の一月十八日である。



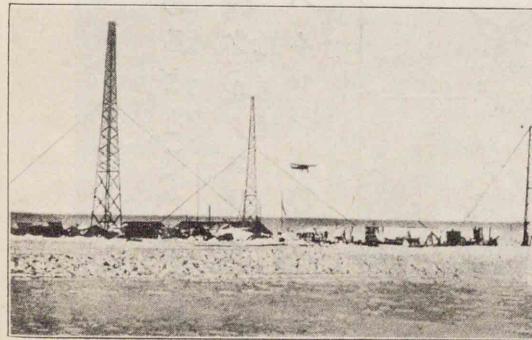
を發表してゐる。

一九〇九年、シャクルトン(人英)は地磁氣の南極を發見し、一九一一年、アムンゼン(人ノルウエ)は南極に達し、極地は三千米以上の高原であることを確め、スコット(人英)も稍、後れて南極に達したが、その探検隊は吹雪の爲に全滅した。最近にバード(人米)は、

飛行機によつて種々の研究や發見を遂げた。

北極地方 北極地方の大部は、北極海の占め

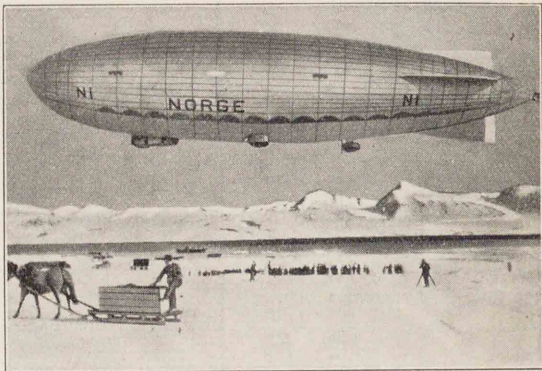
る處で、大陸附近にはニールシベリヤ・フランツヨセフ・ノバヤゼムリヤ・スバルバード(スウェーデン)・グリーンランド・北極諸島等の島嶼が多く、スバルバード島(ノルウェ)では石炭の採掘が行はれる。北極は堅く凍結した深海であるが、海流等の關係から、氣候の寒極ではなく、却つてシベリヤの東北部・北米の北部等よりも、溫度は高いといふ。



【圖解】バードが根據地とした小アメリカ村

【圖解】アムンゼンが北極横斷に使用したノルゲ號

【圖解】探検服を着たペアリー



は終に北極に到達し、その後アムンゼンは飛行船を利用して此處を横斷した。近年航空機による探検が大いに進み、將來北半球の文明國を連ねる最短の航空路が、この地方に實現されんとしてゐる。

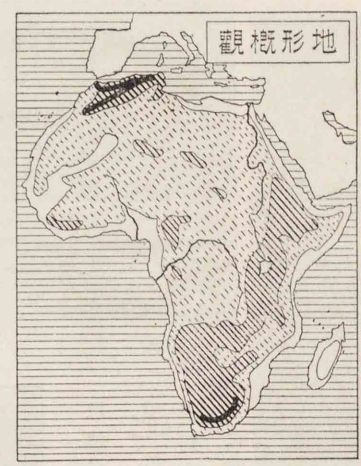
北極海は大陸間の捷路を發見せんとて、その探検は早く十九世紀の頃から試みられたが、ナansen(人ノルウエ)によつて大いに進み、一九〇九年、ペアリー(人米)は、

第三篇 アフリカ洲 (アフリカ)

總説 (其二)

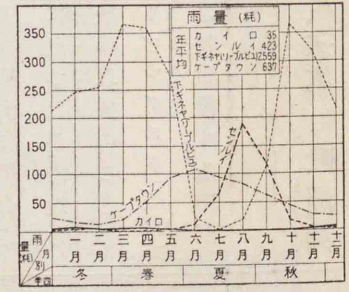
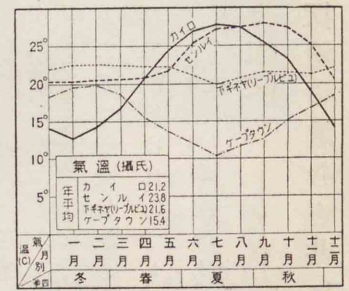
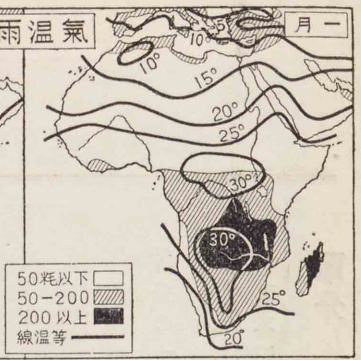
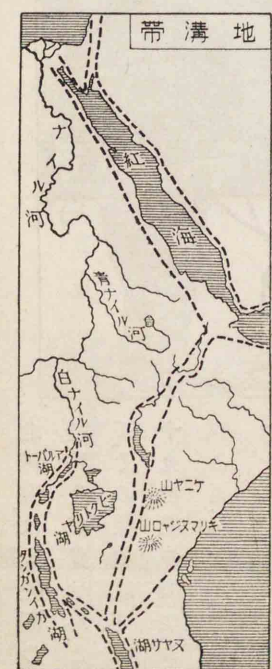
面積 約二九八〇萬方
人口 約一五〇〇〇萬

山脈の主要なのはアトラス山脈だけで海岸は北岸のガベス・シドラの二灣と西方のギネヤ灣の外には著しい屈曲がなくマングロープの森林や絶壁の處もあつて船を近づけるに不便である



地形 アフリカ大陸は全體が殆ど一塊の臺地をなし、海岸の出入も少く、大部が熱帯にあつて、乾燥地域の廣いこと等が、總てオーストラリヤと似てゐる。山脈は大陸の西北部と東南部とに連り、東部には大地溝帯が略南北に互つて、大小の湖

水が列び、又この地溝帯に沿つて、多くの火山が噴起してゐる。
本洲には大河も多く、水量も少くないが、地形の關係で、



下流に急湍を伴ひ、之が爲に舟行を妨げられる。
氣候 大部は熱帯に屬して気温が高く、一部は世界の最熱地である。

河馬の群

の南と北とは雨が少いので、サバンナやステップと呼ばれる草原

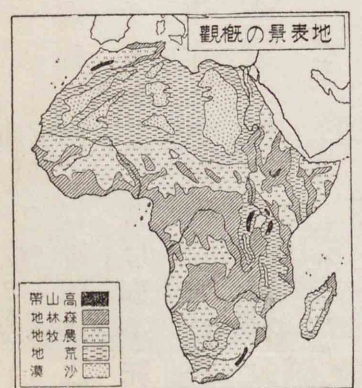
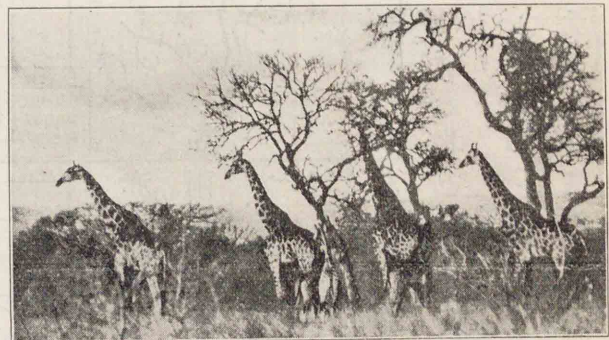


圖 叢中に立つ親子數匹のジラフ

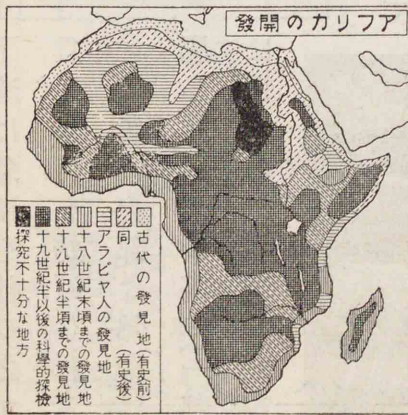


が廣く、斑馬・ジラフ・羚羊等の草食獸が多い。兩回歸線の附近は降雨が乏しく、廣い沙漠をなし、スエズ地方と共に獅子・駝鳥等が棲んでゐる。地中海岸と南部海岸とは、冬に雨量が稍多く、溫暖で産業が開け、本洲中最も發達した地方である。

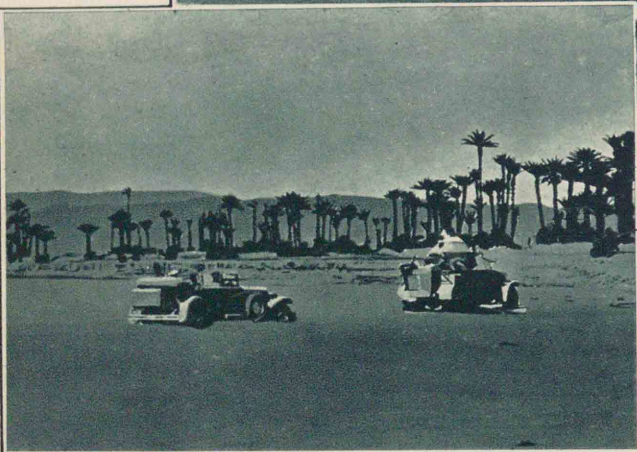
探検 北部は古代に文明が開け、歐洲文化の先驅をなしたが、沙漠の爲に交通を遮られ、中部以南の地方は、久しく暗黒大陸として残されてゐた。十五世紀の末葉に、本洲迂回の航路が発見され、海岸地方は歐洲に紹介されるに至つたが、内地の

探検が進んだのは、十九世紀の後半以後のこと、幾多の大探検が行はれ、中でもリビングストン(英)スタンリー(英國生れの米人)の兩氏は、之に貢獻する所が最も著大であつた。

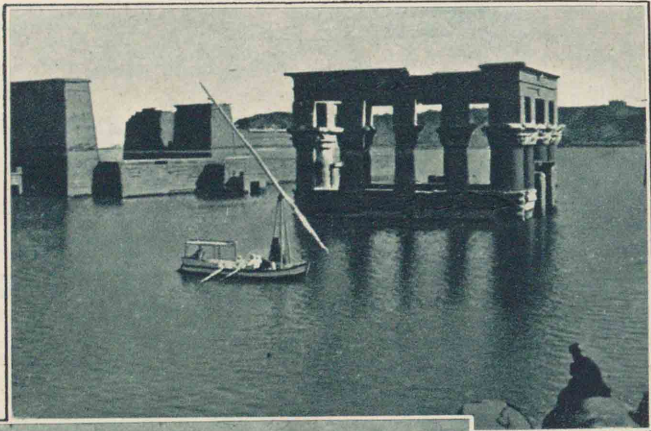
区分 探検の進むと共に、次第に歐洲列



沙漠中の自動車
自動車運搬が開かれて陸商路も次第に變つて行く



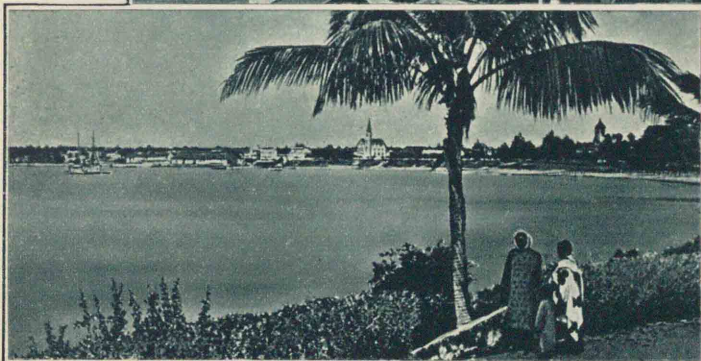
沙漠中の泉地
沙漠中の島といはれ陸商の港で多數の駱駝隊が諸方から集つてゐる



増水期のナイル河
堰堤の爲に一大湖水となり舊時の建物は水に浸されてゐる



アルジェの遠望
丘陵の斜面に密集せる人家は強い
陽光に白く輝いて銀都と呼ばれる



ダルエスサレム
鐵道の起點で内部への重要な
門戸である



ケープタウンの市街
南阿の最大都で市の背後には著名なテーブル山
が聳え圖の左方にその半が見えてゐる

強の領土と化し、今は二三の微弱な獨立國を残すのみである。本書は之を左の諸地方に分ける。

- 北部アフリカ エジプト バーバリ地方 附サハラ
- 西部アフリカ 上ギネヤ及びスダン 下ギネヤ及びコンゴ 西岸の諸島
- 東部アフリカ ソマリ地方 東アフリカ 東岸の諸島
- 南部アフリカ 南アフリカ聯邦 内部地方

各 説

第一章 北部アフリカ

エジプト Egypt (埃及) ナイル河の下流を占め、面積は廣いが、大部分は乾燥・不毛の沙漠で、經濟上に價値のあるのは、ナイル河の河谷と、その三角洲に屬する約三萬方呎の地に過ぎない。

ナイル河の上流は、白ナイルと青ナイルとに分れる。青ナイルの上流地方では、夏季に豪雨があつて、下流に氾濫を起し、沃土を沈積するので、早く農業が發達して、古代文明の發祥地となつた。即ち「エジプトの文明はナイルの賜」といはれる所以である。

面積
約九萬方呎
人口
約一四二〇萬

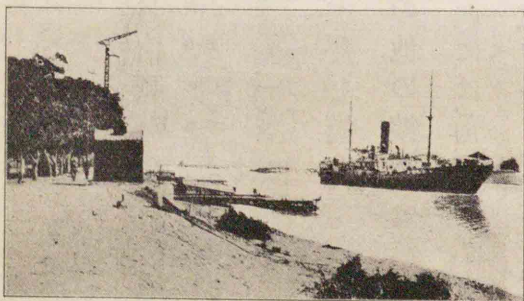
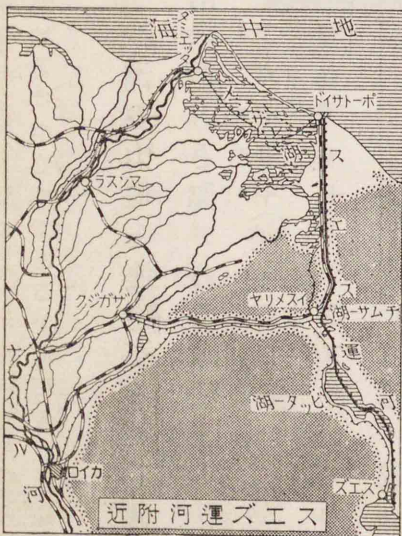
圖解スエズ運河

圖解カイロ市の大通

カイロ 二、三萬
アレキサン ドリヤ 五萬

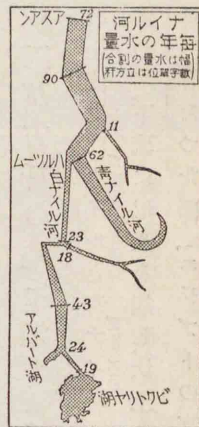
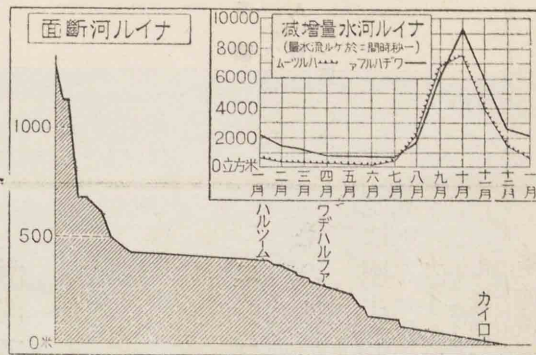


より、十年餘の歳月を費し、一八六九年に開通したもので、延長百六十料に達する。この運河の開通は、世界の交通上



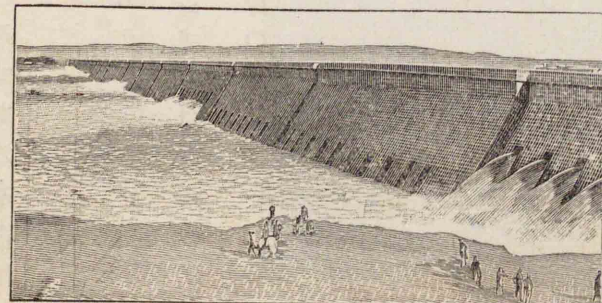
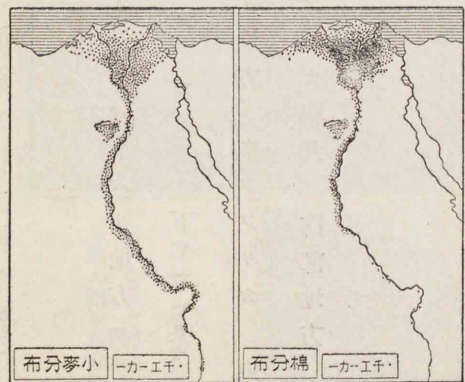
なつた。
首府カイロは、本洲第一の都會で、附近に古代の文明を偲ぶ遺跡が多く、アレキサンドリヤは古くから著名な商港である。ポートサイドはスエズ運河の北端に位し、燃料積込の要地で、運河の南端にはスエズがある。
スエズ運河は佛人レセプスの手に

圖解アスアンの堰堤(開門の数は百八十箇)
ナイル河下流の河谷は世界中最も人口の稠密な地方の一(方軒四百人)で住民はアラビヤ族を主としエジプト族も混住してゐる



占め、我が國へも輸出される。この地は近頃までトルコの屬國であつたが、大戦中に英國の保護地となり、近年獨立して立憲王國と

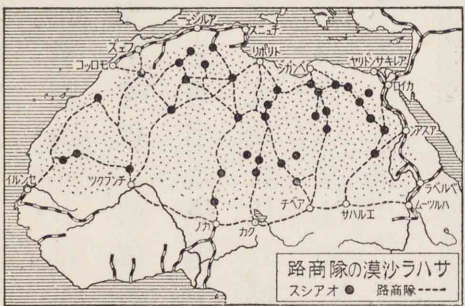
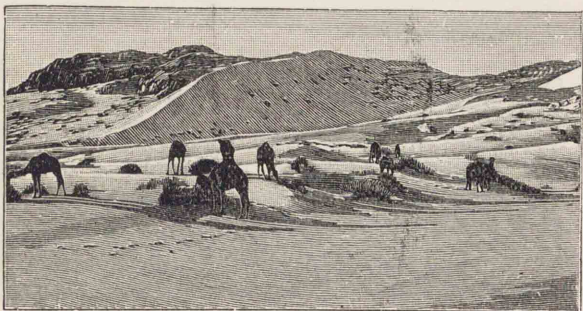
ナイル河の沿岸地方には、良質の綿煙草等を多く産し、甘蔗・小麥・玉蜀黍・米等の耕作も行はれる。綿は本國輸出額の約十分の六を



洪水は殆ど定時に起るが、多少の遲速はあり、水量にも増減があつて、農産の安定を缺いたが、近年アスアンの堰堤を設けて、大貯水池を造り、河水を調節して灌漑の區域を擴げた。

バーバリとは原住民の名稱から起つたものといはれるが今はアラビヤ人が多く歐洲人も少くない

圖解アトラス山南の沙漠地



に大變動を及ぼし、横濱・ロンドン間に於いて、南阿迂廻よりも約三千六百哩二十一日航程を縮めた。運河地帯は中立地であるが、運河會社の株式は、多く英國政府で所有してゐる。

バーバリ地方 歐洲の山地と連絡せるアトラス山脈が東西に連り、氣候も山北は南歐地方と似てゐる。政治上トリポリ(領伊)、チュニス(護佛)、アルゼリヤ(領佛)、モロッコ(大部は佛の保護地、一部に分れ、中でもアルゼリヤは、フランスの主要な領地である。

山地は鐵その他の礦物を藏し、高原及び斜面には、葡萄、オリブ等の果實や、コルク、アルファ草等を出し、又牧畜が行はれ、近海からは海綿を産する。歐洲と相對する爲、連絡航路も多く、航空路も發達してゐる。

トリポリは隊商取引の要地

サハラ沙漠は東西約四千七百軒南北約一千五百七十軒沙漠中にも時に降雨があつて河をなすが平時は水が涸れてワヂを作り又晝夜の溫度變化が著しく強猛な旋風の起ることもある

リベリヤはアメリカ合衆國から解放された奴隸の建てた國で面積約九萬五千方軒、人口約二〇〇萬



に當り、チュニスの附近には、古代に繁盛を極めたカルタゴの址がある。

アルジェーは佛國のマルセイユと相對し、オランと共に主要な商港で、タンジエルは地中海西門の要地に位し、中立地となつてゐる。

バーバリ地方の南方は、サハラと呼ばれる大沙漠で、大部は佛國の勢力範圍である。一般に高臺性の荒地であるが、處々に泉地があつて、棗椰子が繁茂し、隊商は泉地から泉地を辿つて、此處を往來する。佛國はこの地方の開拓に力を用ひ、鑿井を設けて農耕を進め、自動車輸送も試みられ、又此處を横斷する鐵道の計畫もある。

第二章 西部アフリカ

上ギネヤ及びスダン ギネヤ灣の北岸に沿ふ地方を上ギネヤと呼び、大部は英佛の兩國に屬してゐるが、西部のリベリヤは黑人の建てた立憲共和國で、首府をモンロビヤといふ。一帯に濕熱の不健康地であるが、熱帶性の森林が繁茂して、椰子油、コブラ護謨、象牙、金等の天産が多い。近年白人の努力によつて、開

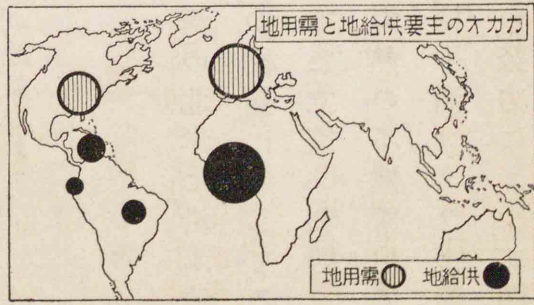
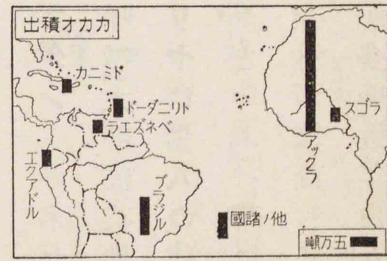
ネグロと呼ばれる未開の土人が多く住み人口は割合に密である

佛領スダンは佛領の他の部分と共にフランス領西アフリカと呼ばれ總督はダカルに駐在する

住民はバンツ族が多く林中には一種の矮人種(身長一米三)に住んでゐる
白領コンゴは面積約二三八萬方呎、人口約八五〇萬

拓も次第に進み、カカオの産額は世界第一となり、珈琲・綿・甘蔗米等の栽培も行はれるに至つた。アックラ・ラゴスは、カカオ・椰子油等の主要な積出港である。

上ギネヤの北方一帯を含んで、ナイル河の上流に達する地方をスダンといひ、大部は佛國の領土であるが、東部は英領エジプトスダんに屬し、西海岸にはイスパニヤ・ポルトガル・イギリス等の領土がある。夏には雨量が稍多く、草原が廣いので、牧畜を營み、南部では農業も行はれる。この地方の天産物は、多く隊商によつて地中海岸に送られ、その要路にチンブクツ(河上流)・クカ(湖附近)等の中心がある。又英領エジプトスダンは、ナイル河の堰堤工事完成によつて、綿小麦等の栽培が盛になり、ハルツームはその中心市場である。



下ギネヤ及びコンゴ ギネヤ灣の東岸地方で、佛・白・葡・西等の諸國に分屬してゐる。
ベルギー領コンゴは、コンゴ河流域の大部を占め、レオポルドビル

カタンガのラヂウムはベルギー本國に送つて精製する

圖解 コンゴ河



に總督が駐在してゐる。氣候が濕熱で森林が繁茂し、護謨・象牙・椰子油等の産出が多い。近年開拓が進んで、米・落花生・珈琲等の栽培が行はれる。鑛物の埋藏も多く、銅とラヂウムとは殊に名高い。

コンゴ河は水量が多く、水運の便もよいが、下流に數多の急流があるから、レオポルドビル・マタヂ間に鐵道を通じて、内地と海口とを連絡する。マタヂは洋航船の溯行が自由なで、ボマ・バナナ等の諸港と共に、コンゴの門戸として榮えてゐる。スタンリープールからスタンリー湖まで、約一千六百浬の間は、舟行が自由であるが、此處から上流には處々に急湍があるので、鐵道を設けて、タンガンイカ湖の汽船と連絡し、東西横斷交通路の一部に利用されてゐる。

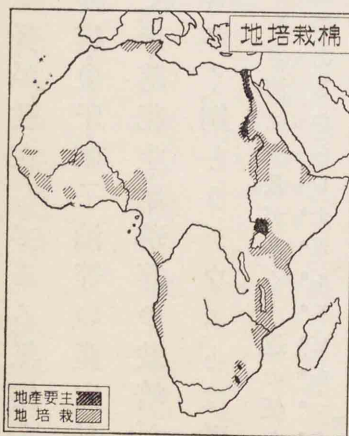
西岸の諸島 大西洋中のセントヘレナ島は、ナポレオン一世の配所として名高く、西北のアセンション島と共に、英國に屬する。この北方にベルデ岬諸島(領)・カナリヤ諸島(領)・マデイラ諸島(領)等がある。何れも海底電線の中繼所である。

面積
約八〇萬方
人口
約一五〇萬

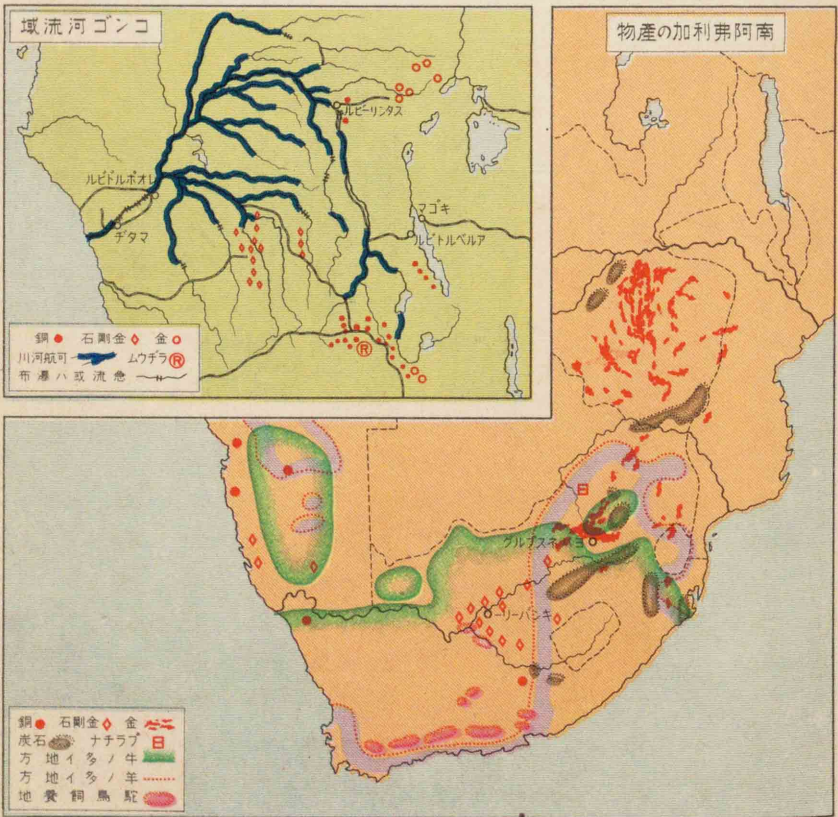
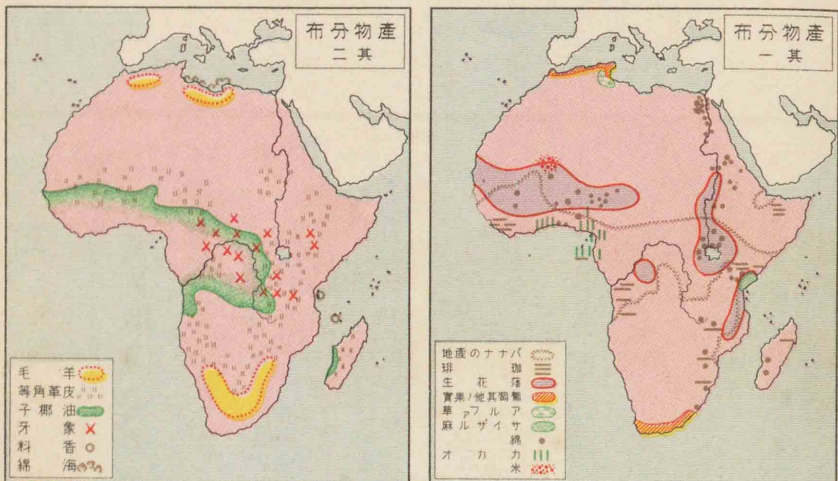
アヂスアベバ七萬
圖解アヂスアベバの町(丘上の建物
は王宮)
英國はケニヤ(土)
ウガンダ(保護)
ガンイカ(保護)
ジバル(保護)等を領
する

第三章 東部アフリカ

ソマリ地方 ソマリ半島の沿岸は、英・佛・伊の三國に分屬し、佛領にはヂブチの要港がある。内部のエチオピア(アビシニヤ)は立憲制の王國で、住民は古くからキリスト教を奉じ尙武の氣に富む。近年我が國との國交が甚だ親密になつた。國の大部は高原で、暖帶性の林地が廣く、象牙の天産があり、又綿麥類・珈琲等の農産を出す。アヂスアベバはこの國の首府である。

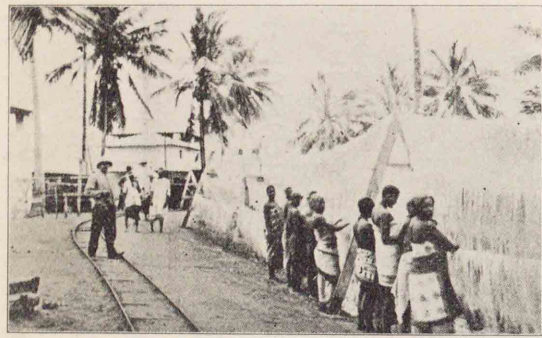


東アフリカ 英獨葡の三國に分屬してゐたが、ドイツ領の大部分は、英國(一部は)の委任統治



マダガスカルは面積約六二萬方呎、人口約三六〇萬

我が國は主としてモンパサを経て綿・天然曹達を輸入し綿布を輸出する
 圖説 サイザル麻の乾燥

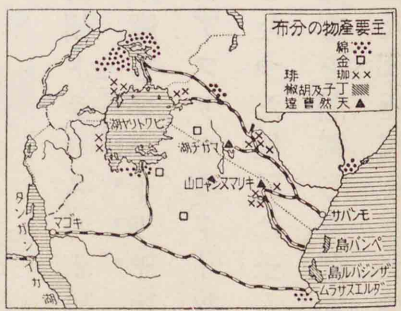


地となつた。

狭い海岸平野の外、高原又は山地で、本洲最高のキリマヌジャロを始め、數多の峻峯が聳え、その間にビクトリア・タンガンイカ・ヌヤサ等の大湖が連つてゐる。一般に開拓は未だ進まないが、コブラ、椰子

油等の天産に富み、高原地方は綿、珈琲、砂糖、煙草、サイザル麻等の産出が次第に増し、鑛産も亦有望である。北部にはモンバサ(或は對岸の)ザンジバル、ダルエスサラム等の良港があり、マガヂ湖は天然曹達の産に富む。南部のロレンソマルケスは、ベイラと共に鐵道の起點で、南阿の關門に當る。

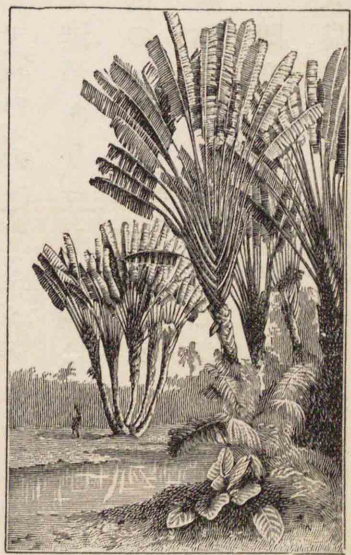
東岸の諸島 印度洋中のマダガスカル島(領佛)は、世界第四の大島で、首府をタナナリボといふ。



第 三 期

圖解旅人木

旅人木狐猿(擬類)等の珍奇な生物があり、住民も東部にはホバ族(マレ種)が住む。近年米珈琲等の栽培が行はれ、又金・護謨等を出す。東方のモーリシヤス島(英領)は印度洋航路の要地で、レユニオン島(佛領)と共に砂糖を出す。
Runion



— 洲カリフア — 32

第四章 南部アフリカ

南アフリカ聯邦

ケープ・ナタル・オレンジ自由州・トランスバール
Cape of Good Hope Natal Orange Free State Transvaal
の四州から成る聯邦制の自治植民地で、聯邦行政廳をプレトリアに、
兩院制の議會をケープ・タウンに置く。隣接の南西アフリカは、ドイツ
の領土であつたが、今は聯邦政府の委任統治地となつた。住民は土人
(バンツ・ホッテンツ)の外、白人の數も多いが、最初この地方を開拓した蘭人
(トプツ・ヌメン等)の子孫と、英人の子孫とは常に融和を缺き、土人は極端な差別待
遇を受け、又有色人を排斥する等、人種問題が甚だ錯
雑してゐる。
海岸地方は雨量も割合
に多く、小麥・玉蜀黍・砂糖・煙
草等を産し、果樹栽培も行

正カ

ケープ・ナタル・オレンジ自由州・トランスバール

Transvaal

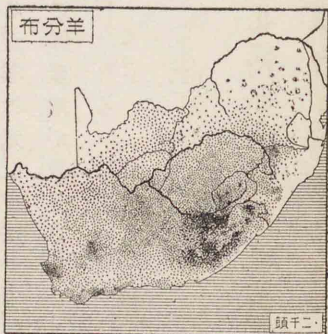
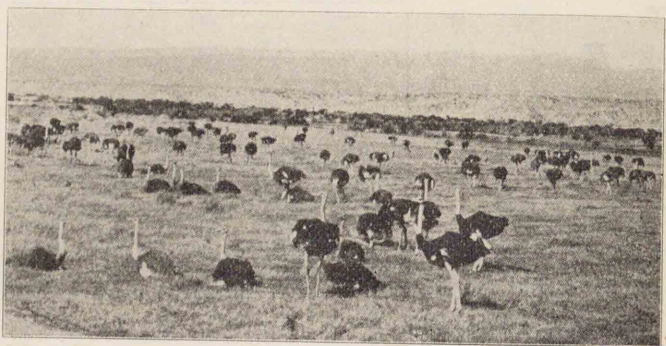
Pretoria

Cape Town

面積 約一二三萬方
人 約八〇〇萬
聯邦の地域中に括
まつてバストラ
ド・スワジランド
がある
もと蘭人の建てた
二共和國があり英
人の爲に滅された
が言語は今でも英
語と蘭語とが公用
語になつてゐる

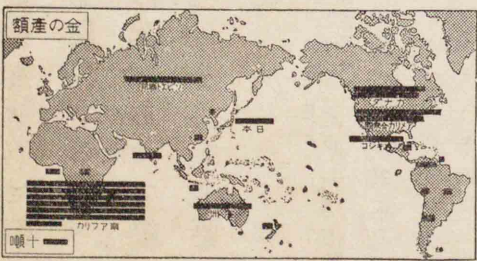
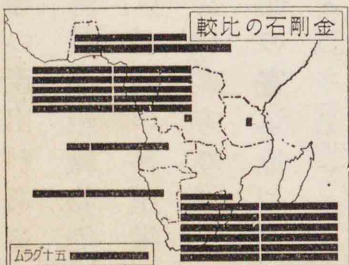
羊毛買入の爲とし
て我が國人の入國
を許すに至つた

圖解駝鳥飼養場



はれるが、内部は乾燥して草原
が廣く、羊・牛等の牧畜を主業と
して、羊毛・皮革
等を産し、又駝
鳥を飼育する。
Kimberley
Johannesburg

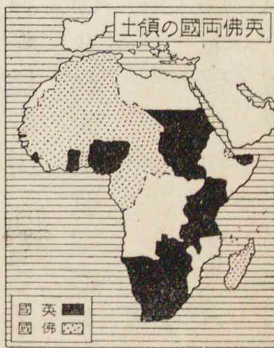
礦産は第一の富源で、キンバリー
を中心とせる金剛石、ヨハネスブル
グ・附近の金は、共に産額が世界第一



別にマダガスカル島の東部には、マレー種の民族が住み、沿海地方には、近年歐洲からの移民も少くない。

本洲には二三の獨立國もあるが、何れも強國の干渉を免れない。他の大部分は歐洲列強の植民地で、英佛兩國の領土が殊に廣い。ドイツも二三の地を領してゐたが、大戰の結果、擧げて國際聯盟の管理に委ねた。

日本との關係 我が國は、近時までスエズ通航船の寄港するのと、エジプトから綿煙草等を輸入するとに過ぎなかつたが、今は東岸及び南岸の諸港とも航路を通じて、物資の取引も次第に多くなり、最近南阿との關係も好轉して、益、將來を有望ならしめるに至つた。



— 洲カリフア — 36

キートン

第四篇 南アメリカ洲

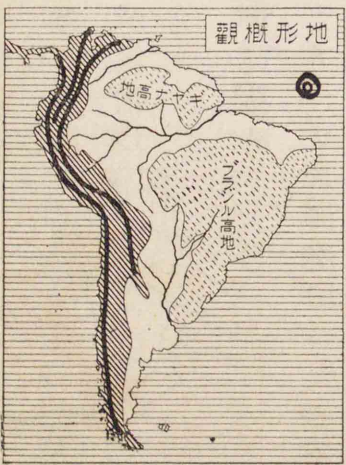
South America (南亞米利加)

總說 (其一)

大陸發見 近古の初期から、世界に對する思想が一變し、西歐人の中には、大膽な航海を試みる者が輩出した。その東に向つた者が、アフリカを迂回して印度に達したので、寧ろ西に進んで印度に到らんとしたコロンブスの冒險により、一四九二年、思はざる新陸地を發見し、次いで南北兩米大陸が發見された。爾來探檢が頻りに行はれて、兩大陸の要部は、忽ちにして歐洲強國の植民地となつた。

地形 南米は新大陸の南半を占め、西部には雄大なアンデス山脈

が連り、火山帯が此處を通じて、數多の火山を起し、世界最高の火山(アグアン)も此處に聳えてゐる。東部にはブラジル・ギヤナ等の古い高地塊がある。東西兩高地の間は、殆ど一續きの平野で、アマゾン・オリノコ・ラプラタ等の大河が此處を流れる。然



37 — 洲カリメア南 —

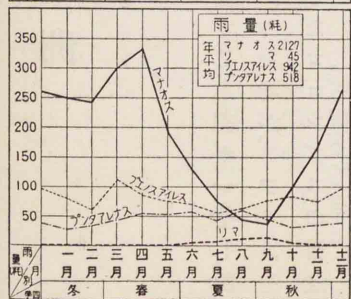
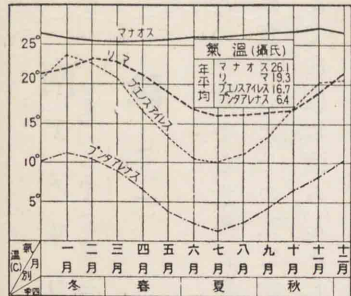
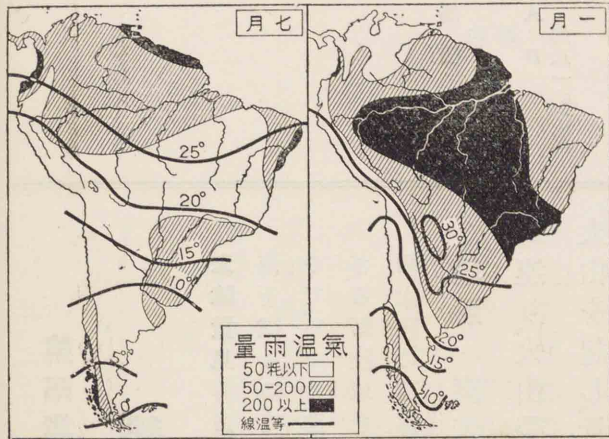
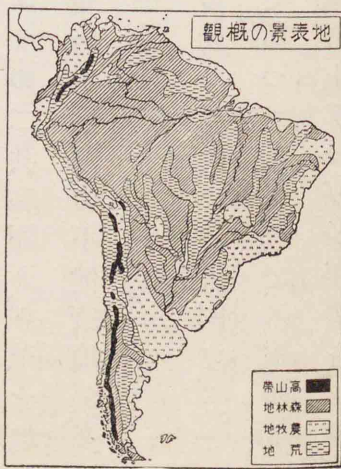
面積 約一八八〇萬方
人口 約八一〇〇萬

シンコナの樹皮から規那を採る
 南米の略図をかき
 ブラシルと境を
 切する國を記
 せ



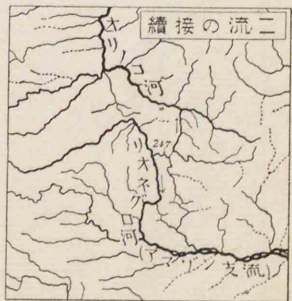
アンデス山西の地方は乾燥するが、南部は偏西風の爲に、却つて山東地方よりも雨が深い。要するに本洲は、オーストラリア・アフリカが乾燥大陸であるに反し、寧ろ濕潤大陸で、西岸の一部に沙漠性の處がある外、概して雨量が多く、氣温もサハラの如き酷熱の地はない。生物はジヤグアル・ピニマ・駱馬・羊駝・コンドル等の特有動物が棲み、護謨グム・シンコナ・カカオ等の有用植物も本洲の原産であるが、今は他の大陸にも移植されて、經濟上重要なものとなつてゐる。

區分 本洲は最初ポルトガル人（東部を除く）・イスパニヤ人（東部を除く）に征服されて、一時は殆ど全く兩國の植民地となつたが、次第に獨立して、今は十箇の共和

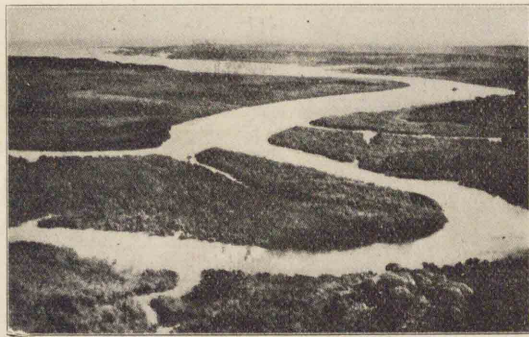


この三流域は分水界の不明な處があり、アマゾン河とオリノコ河とは、支流が相連つてゐる。海岸線は西南岸の一部に、無数の峽灣や小島が錯雜してゐる外、著しい屈曲はない。

氣候 大部は熱帯に屬し、貿易風の影響を受けて降雨が多く、アマゾン河流域の大部分は、セルバと呼ぶ大密林（森林に相當する）に被はれてゐるが、北又は南するに従つて雨量を減じ、オリノコ河の流域はリヤノと呼ぶ熱帯草原（パンナに類する）をなし、ラブラタ河の下流地方は、パンパと呼ぶ温帯性草原になつてゐる。



【圖解】ブラジルの森林とその中の河



面積 約八五二萬方
人口 約四〇二七萬

國となり、僅に東北の一部と島嶼とに、歐洲の領土を残すに過ぎない。本書は之を大別して、左の諸地方に分ける。

- 東部地方 ブラジル ベネズエラ ギャナナ地方
- 東南部地方 アルゼンチン ウルグアイ パラグアイ
- 西部地方 チリ ボリビヤ ベルギー エクアドル コロンビヤ

各説

第一章 東部地方

ブラジル・ベネズエラの二共和國と、ギャナナ地方とを含み、面積は廣いが、濕熱の不健康地が多く、開拓されてゐる部分は割合に少い。

ブラジル

Barzil (伯利西國)

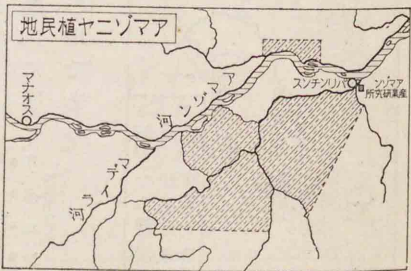
本洲の殆ど半を占める大國でも、ポルトガルの領土であつたから、今でもポルトガル語が行はれる。地形上アマゾン平野と、ブラ

ホルトガ
十五世紀末
十九世紀中頃
ブラジル

アマゾン河の支流にはトカナンチン・タパジス・マデイラ・ネグロ等の諸川がある

ジル高地とに分れる。

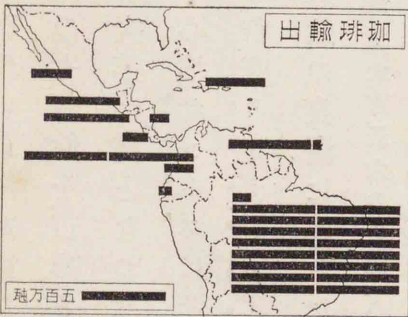
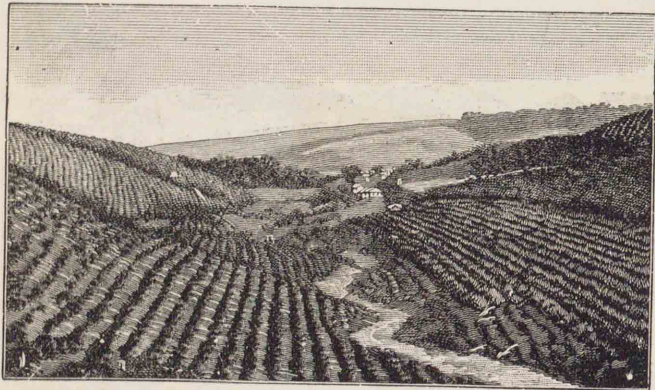
アマゾン河は水量が極めて多く、中流までは洋航船の溯行も自由であるが、流域の大部は不健康地で、探検は未だ行はれてゐない。護謨・染料・藥材等は殆ど無盡藏といはれ、その野生護謨は、嘗て世界に於ける需要の過半を充したが、今は栽培護謨に販路を奪はれた。マナオスは護謨採取の中心地で、パラはその積出港である。近年我が國の移民會社は、この

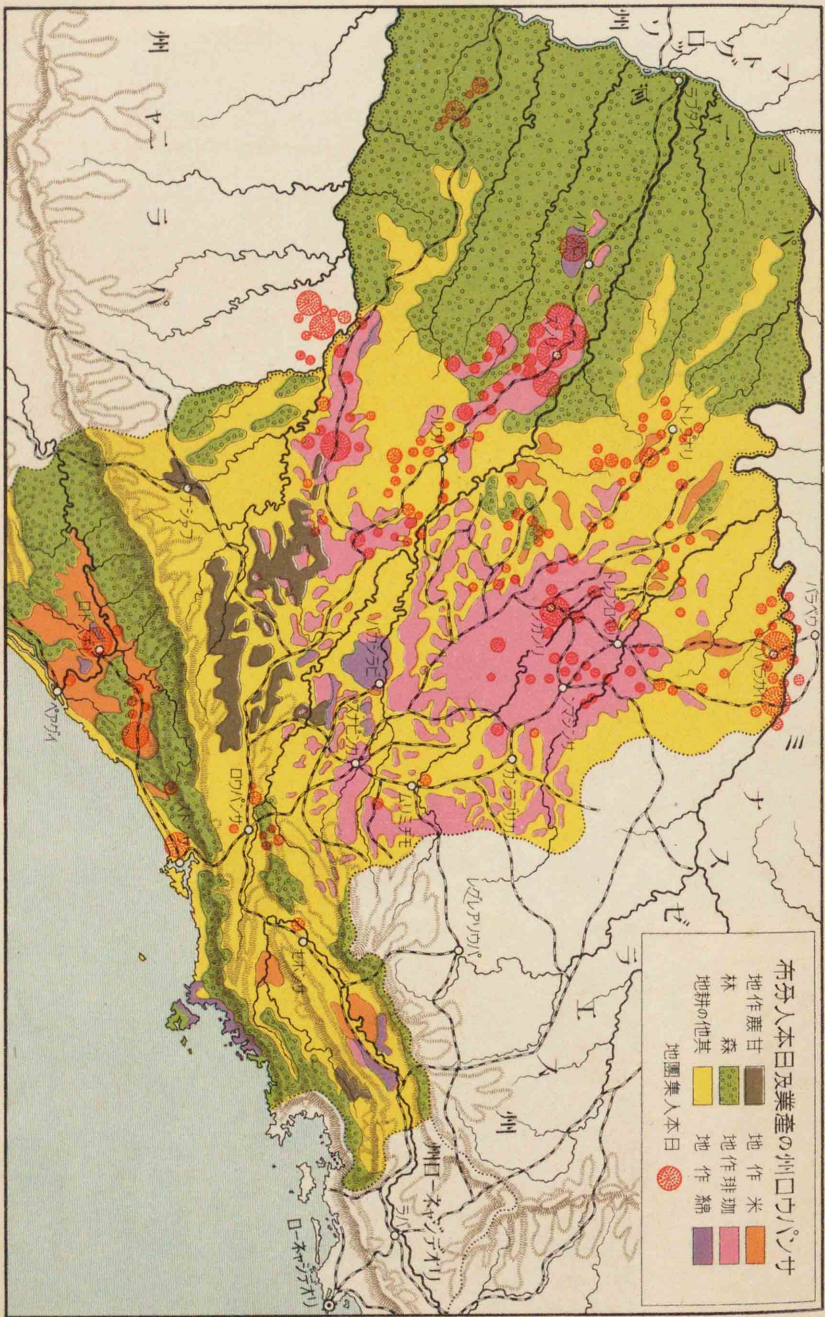


流域に約八千方粒の廣い植民地(アマゾン植民地)を得ることになった。

ブラジル高地には、熱帯性の草原が廣く、牧牛が處々に行はれ、又金黒金剛石等を出す。高地の南部は最も重要な農業地

【圖解】珈琲園の光景

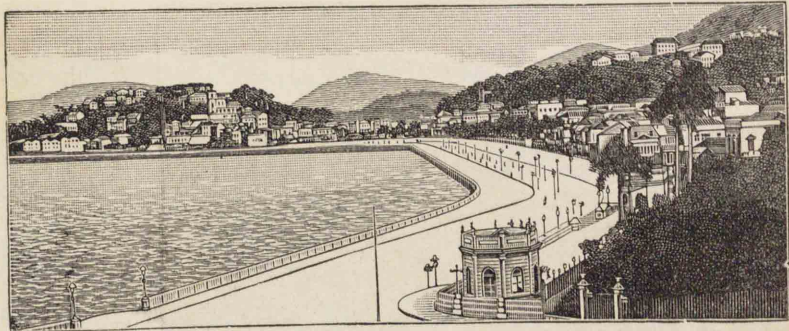




【圖解】リオデジャネイロの海岸

主要都邑 人口(萬)

リオデジャネイロ	一四七
サンパウロ	八六
ベルナンブコ	四三
バイヤ	三三
バラ	二六

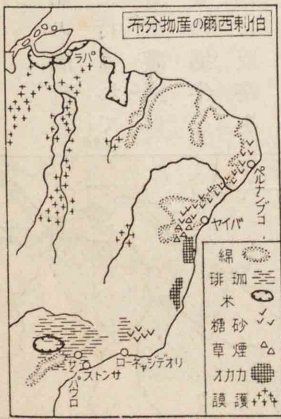


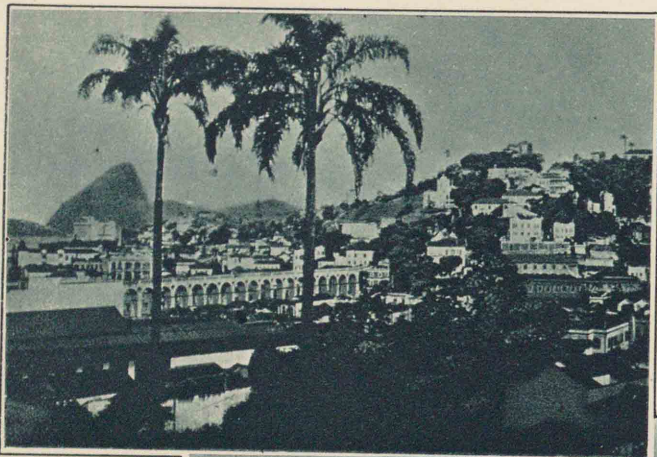
帯で、珈琲の栽培が盛に行はれ、その産額は世界全産の七割餘を占める。近年綿、玉蜀黍、米等の耕作も次第に盛となつた。サンパウロは珈琲栽培の中心地、サントスはその輸出港として榮えてゐる。首府リオデジャネイロも、珈琲商業の中心で、天然の良灣に臨み、風光がよい。

珈琲は本國最大の資源で、政府は斯業の保護、奨励に力を盡し、種々の便宜を與へて移民を歓迎するので、歐洲からの移住民が多く、我が移民も約十三萬人に達し、リベロン、プレト、パウルー等は、邦人移住の中心地である。

Petro Bauru

ブラジル高地の東部では、黒人を使役して農耕を行ひ、甘蔗、草綿、カカオ等の栽培が次第に盛となり、

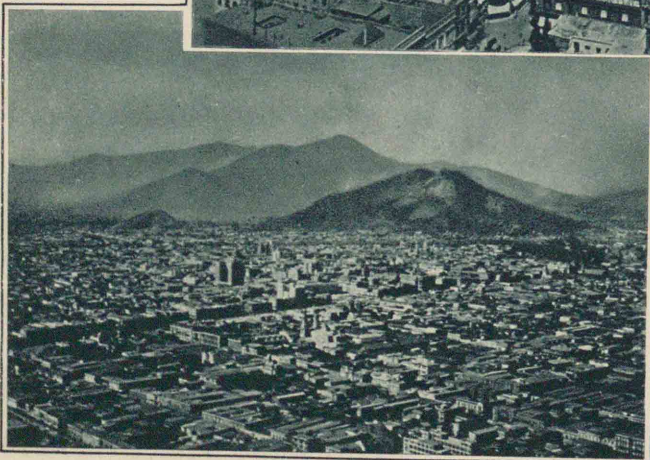




リオデジャネイロ
 奇異の丘陵に囲まれた世界的の美
 港で圖の左方に聳つはセントアン
 トニオ丘



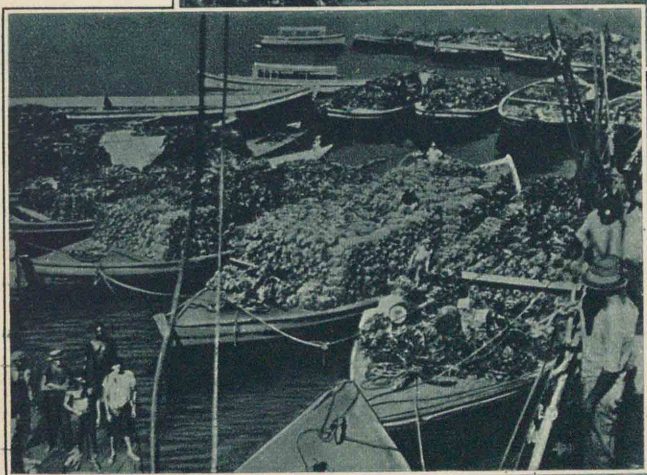
ブエノスアイレス
 大建築が並び大街道が通じ南半球
 の最大都會たる面目と外觀とを具
 へてゐる



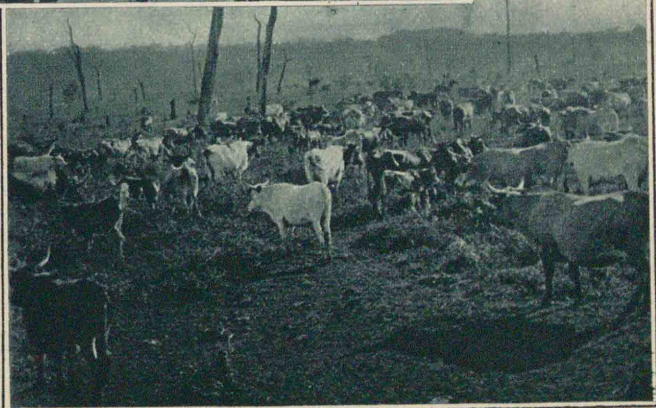
サンチヤゴ
 アンデスの麓に近くサントルシヤ
 公園の丘陵を繞つて發達し丘上の
 眺が誠によい



邦人經營の珈琲園
ブラジルのイグアベ植民地に於ける邦人の努力を表現せる珈琲園



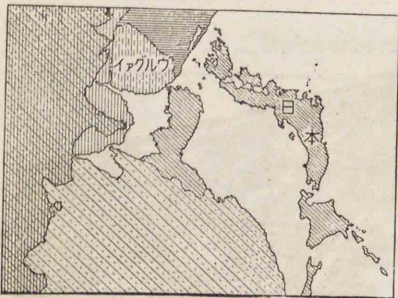
バナナの積出し
各地に産しブラジルでは珈琲の苗木を保護する副産物で、圖はサントスに於ける光景



アルゼンチンの牧場
牛は羊に次いで頭数が多く肉牛、乳牛の輸出が多い

ベネズエラは面積約一〇二萬方呎、人口約三一六萬カラカス一三萬

圖 東南部南アメリカの對號圖
面積 約二七九萬方呎
人口 約一六六九萬

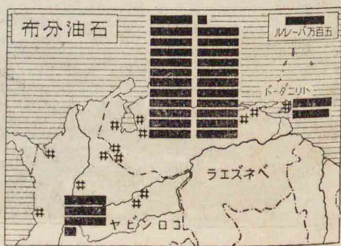


ルナムブ、ゴバイヤ等は、その輸出港である。
ベネズエラ 牧畜農業が行はれ、又石油の産が多い。首府をカラカスといひ、迂回の甚しい鐵道によつて、外港のラグアイラと通ずる。
ギヤナ地方 英・蘭・佛の三國に分屬するが、一般に開拓は未だ進んでゐない。

第二章 東南部地方

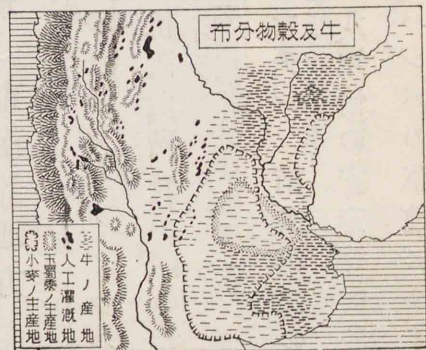
アルゼンチン・パラグアイ・ウルグアイの三國を含み、地球上の位置が殆ど我が國の背面に當り、氣候は概ね良好である。

アルゼンチン 南米第二の大國で、産業の發達文化の進歩、國情の安定等に於いては、南米第一といはれる。パンパの草地には、羊・牛・馬等の牧畜が盛



ブエノスアイレス
埠頭方面

ブエノスアイレス 三〇萬
ロサリオ 四九萬
アスンシヨンの埠頭



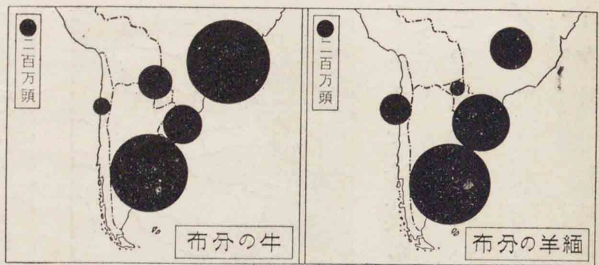
で、羊毛の産額は世界の第二位を占める。近年農業も大いに發達して、小麦、玉蜀黍、亞麻等の産が多く、小麦の大輸出



は、水陸交通の要地を占めて、畜産穀物等の輸出が多く、南半球の最大都會である。アンデス横斷鐵道

地となつた。西部の山麓には、人工灌漑によつて、葡萄その他の果樹栽培が行はれる。首府ブエノスアイレス

ウルグアイは面積約一八萬方軒、人口約二〇四萬
モンテビデオ
パラグアイは面積約二五萬方軒、人口約八四萬



は此處に起り、我が南米東岸航路は此處を終點とする。バイヤブランカも亦一門戸で、ロサリオは海洋航行船の終航點に位し、農産物の大市場である。

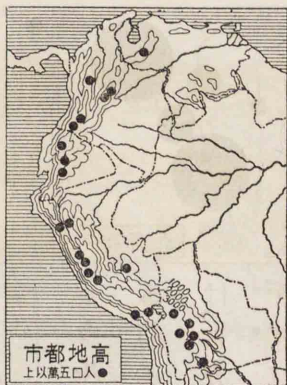
ウルグアイ、パラグアイ 共に小國で、牧畜を主業とする。前者は殊に盛大で、人口に對する家畜頭數の割合は、世界第一である。近年農業も發達し、首府モンテビデオは畜産穀類の積出が多い。後者はパラグアイ茶の特産を出し、アスンシヨンはその首府である。

第三章 西部地方

チリ、ボリビア、ペルー、エクアドル、コロンビアの五國を含み、地形上アンデス山地、山東低地及び海岸低地に分れる。

面積
約七四萬方
人口
約四二九萬

硝石は主に肥料に
供するが藥品・火
薬の原料にも用ひ
る

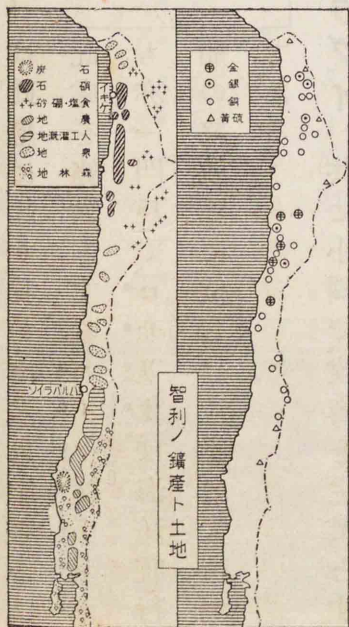


アタカマ沙漠をなしてゐるが、
この乾燥地帯から産する硝石
グアノ等は、本國の重要産物でイ
キケはその積出港である。その

チリ 極めて細長い國で、北部は高温乾燥

の爲に、
一部は

アンデスは世界最長の褶曲山脈で、此處を通ずる火
山帯には、コトパクス(エクア)、イリマニ(ボリ)、アコンカ
グア(チリの境界に近)、等の大火山が聳えてゐる。この
山脈中には、鑛産が甚だ多い。山地の北部は、高度の關
係上、氣候がよく、中には永久の春を誇る處もあり、港
市以外の都邑は多く、此處に集り、熱帯地方に於ける
唯一の文化地帯を作つてゐる。中部は廣い高原を挾
んで、寒暑の差が著しく、且乾燥する。南部は氣候が寒
冷に過ぎ、人類の居住には適しない。



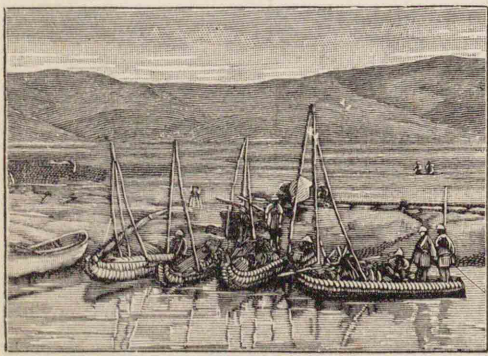
サンチャゴ 七〇萬
バルパライソから
プエノスアイレス
まで汽車で約三十
二時間を要する
フエゴ島の東北に
あるフアイ克蘭
下諸島は英領で牧
羊が行はれ漁業の
中心である

面積
約一三三萬方
人口
約二九七萬



他山地には、銅・銀等の鑛産が多い。中部は小麦・葡萄等
の農産を出し、工業も稍發達して、住民の大部分は此
處に住み、首府サンチャゴも此處にある。バルパライ
ソは横斷鐵道の一端に當り、西岸第一の商港で、我が
南米西岸航路の終點である。南端はフエゴ島との間
にマゼラン海峡を挟み、プンタアレナスの港市が此
處にある。

ボリビア アンデス山地の
最も廣い部分を占め、鑛産を第一
の富源とし、錫・銀等の産額が多
く、又珈琲・護謨・コカ・規那等を出
し、羊・駝・駱馬等の牧畜も行はれ
る。スクレはこの國の首府であ
るが、今はチチカカ湖に近いラ



ラパス 一五萬

面積 約一三八萬方呎
人口 約六二〇萬

リマ 一七萬

製作 圖鑑 パナマ帽子の

面積 約三〇萬方呎

人口 約一七九萬

キトー 一〇萬
パナマ帽はパナマ商人の手で多く販賣されるのでこの名がある

面積 約一八八萬方呎

人口 約七八五萬

ボゴタ 二四萬

パ・スに政府がある。ポ・ト・シは名高い鑛業市である。La Paz Potosi

ペルー 沿海地方は全體に高熱寡雨であるが、Peru (秘魯)

山上の融雪に養はれる細流が多く、その沿岸には人工灌漑によつて綿・甘蔗・珈琲米等の耕作が行はれ、邦人の此處で勞働してゐる者も少くない。銅・金・銀・石油等の鑛産もあり、牧畜も行はれ、沿岸の島嶼からはグ・アノを出す。

首府リマは、イ・ス・パ・ニヤ風の倂を残す都會で、カ

リヤオはその外港である。東部の森林は、護謨・規那

コカ等を出し、イキトスはアマゾン河航行の要

地である。Iquitos

エクスアドル

赤道直下の國で、カカオの産が

頗る多く、又パナマ帽の特産がある。首府キトーは

約三千米の高原にあつて、氣候が常に春の如く、

グ・ア・キルはその外港である。Quito Guayaquil



コロンビヤ

Colombia (南倫比亞)

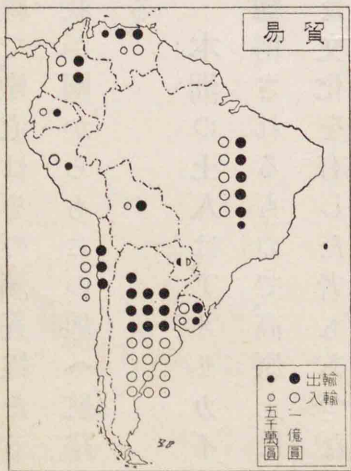
甘蔗・珈琲等の栽培が行はれ、白金・石油等の鑛産がある。首府ボゴタは高原上に位し、バランキリヤは商業上の要地である。Bogota Barranquilla

總説 (其二)

産業・交通

亞熱帶地方は植栽業が盛で、珈琲・カカオ等の大産地である。温帶地方の穀物・畜産品等も亦盛に輸出され、歐洲に對する重要な食糧庫である。鑛産も甚だ豊富であるが、石炭に乏しいので、工業國となる望が少い。要するに本洲産業上の缺陷は、勞力及び資本の乏しいことで、移民の吸収と、外資の輸入とで之を補つてゐる。

パンパの平野には、鐵道網がよく整ひ、チリには長大な縦貫線もあるが、アンデス山地は鐵道の發達を妨げ、大河の水運も利用は少く、現在では尙海上交通が本



交通網



洲の交通幹線で、鐵道はその涵養線たるに過ぎない。我が國からもこの地へ航路を通じてゐる。

住民國狀

本洲の土人は、アメリカインディアンと總稱されるもので、高原上には、嘗て立派な文化を有した者もあつたが、セルバの密林中には、最も原始的な民族

もゐる。熱帯地方には、ネグロ族及び雜種が多く、温帯地方にあつて政治・經濟の實權を握るのは、イスパニヤ人・ポルトガル人等の子孫である。近年歐洲諸國からの移民が多くなり、我が邦人の移住も益々増加した。

本洲の諸國は、何れも建國が新しく、且一時は内亂・外寇が續いたので、財政状態

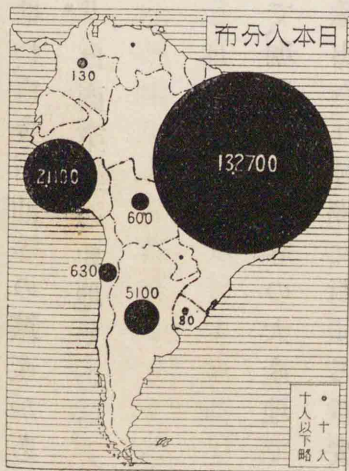
の健全でないものが多い。諸國の中、アルゼンチンは國勢が最も盛で、ブラジル・チリが之に次ぎ、南米のABC三國と呼ばれる。

日本との關係

近年我が國人の南米に移住する者が多く、ブラジルには既に十三萬の移民を送り、ペルーも亦我等に活動の天地を提供してゐる。従つて相互の交通は益々便を加へて來たが、距離が遠いので、貿易關係は餘り密ではない。即ち原料品は、我が國に近い處からも産し、加工品は、歐米から仰ぐ方が便宜な爲である。

移民
五二〇〇人

日本人口分布



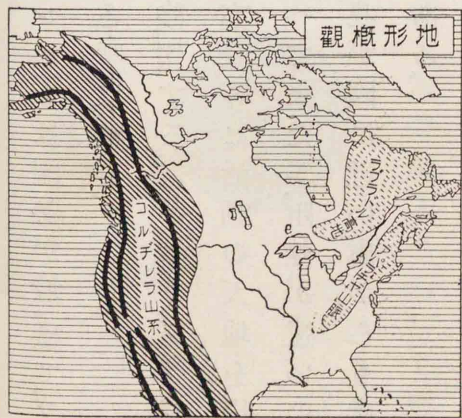
第五篇 北アメリカ洲
North America (北亞米利加)

總説 (其一)

面積 約二一八〇萬方
人口 約一六七二〇萬

地形 新大陸の北部を占め、パナマ地峽によつて南米に連る。この
兩大陸は、共に地形が三角形をなす外、東西に高地があつて、平野を挟
み、地體構造の上にも似てゐる點が多い。

西部高地は、新しい褶曲のロッキー山脈を主軸として、コルデレラ山系をなし、火山帯
が此處を通じてゐることは、南米に於けるアンデ
スの如く、東部に古い地塊のアパラチャ山地が連
ることは、南米のプ
ラシル高地と似て
ゐる。東西の兩高地
間は廣い平野で、世
界第一の長流ミシ
シピ河を始め、セン
トロレーレンス・マッ
クエンジー等の河川が



地質時代に氷河に被はれた地方



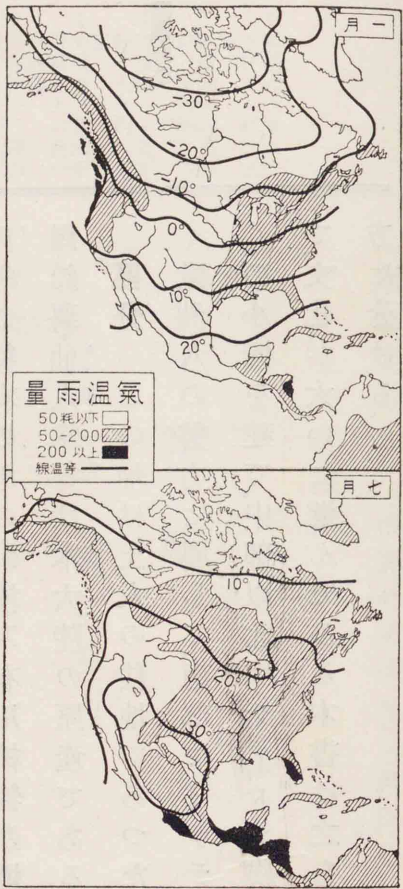
頭埠のスンヤリルオーニ
皮獸の量多し卸に頭埠て來でん積らか米南が船商の本日



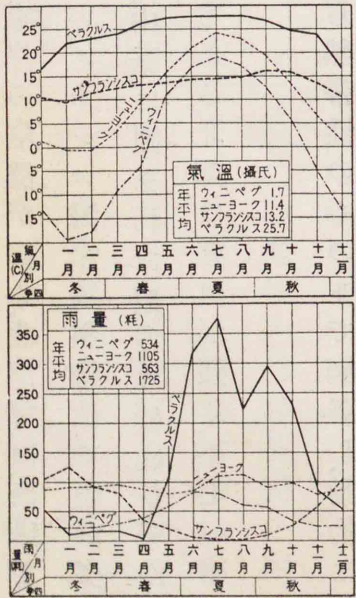
景光の河ワタオ
るれば運で船曳が筏なき大の材木たれさ採伐で方地の流上

太平洋面にはアラ
スカ・カリフォルニ
ヤの両半島大西洋
面にはユカタン・
フロリダ・ラブラ
ドル等の半島を見
るのみであるが北
部には島嶼が多く
又ハドソン灣は深
く灣入して南方の
メキシコ灣に對し
てある。

いであるが、肢節の最も多い北部は、酷寒の爲に利用が少く、その他は割
合に単純であるが、東西兩岸の中
部以北は、沈降性で水の深い良港
が多い。
氣候 大部は温帯に屬してゐ
るが、地勢、海流等の關係から、氣候
は處により著しく違つてゐる。南

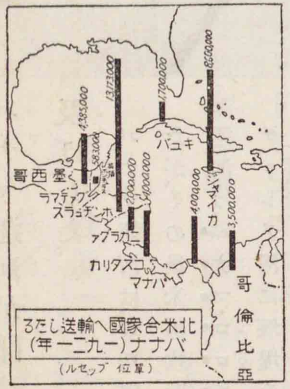


三方に分流することも、亦南米
とその趣が似てゐる。
平野の北部は、地質時代に
著しく氷蝕を受けた處で、そ
れによる大小の湖水が多く
散在してゐる。
海岸線の發達は、歐洲に次



分 区 の 内 域									
イ	ホ	グ	ホ	サ	ニ	コ	パ		
ン	ン	ア	ン	ル	カ	ス	ナ		
ギ	デ	テ	デ	バ	ラ	リ	リ		
リ	マ	マ	ラ	ド	グ	カ	マ		
ス	ス	ラ	ス	ル	ア	リ	マ		
領	領	領	領	領	領	領	領		
ベ	テ	マ	ガ	ル	ナ	ホ	ナ		
リ	マ	ル	ル	ル	ル	ル	ル		
ゼ	ラ	パ	パ	パ	パ	パ	パ		

1	2	3	4	5	6	7
○方	○方	○方	○方	○方	○方	○方
積	積	積	積	積	積	積
約	約	約	約	約	約	約
二	一	一	三	一	六	八
萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬
方	方	方	方	方	方	方
五	五	六	一	五	五	五
千	千	千	千	千	千	千



この地は一部が英國に屬する外、六箇の共和國に分れる。土地の幅が狭いので、嘗てニカラグア運河の開鑿が企てられたこともあつたが、近年

概して暑く、甘蔗、バナナ、珈琲等の栽培が行はれる。

第一章 南部地方

中央アメリカ 南北アメリカを連ねる橋梁部に當り、一帯の高地

系がその脊梁をなし、一派は分れて西印度諸島に延びてゐる。氣候は

南部地方 中央アメリカ 西印度 メキシコ

アメリカ合衆國 カナダ 附グリーンランド

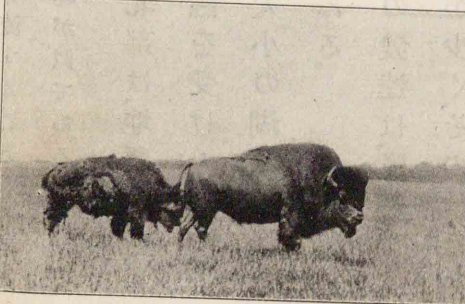
北部地方

各 説



馬鈴薯、仙人掌等は、本大陸の原産である。

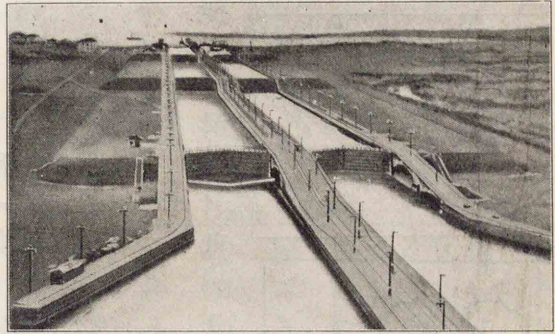
區分 この地は土人の住地であつたが、今は悉く歐洲人の勢力に屬して、南部にはラテン族が多く、文化が大いに進んでゐる。本書は之を左の諸地方に分ける。



部では、西岸よりも東岸の氣温が高く、北部では、西岸よりも東岸の方が低い。メキシコ灣岸は、熱帶性で雨が多く、内部は大陸性で、山脈に圍まれた地方は、乾燥して沙漠となつてゐる處もある。北部は寒氣が強く、不毛の凍原である。

植物は寒帶性から熱帶性のものまで網羅し、動物にはビュマ、野牛、プレイリー犬、響尾蛇、海

圖 巴拿馬運河の
ガツン開門



パナマ運河が開けて、世界の交通上に大變動を及ぼした。

パナマ運河は、最初佛人レセプスの計畫により着手されたが、その後米國政府の手に移り、一九一四年に開通した。運河は、パナマ・コロンの地、約八十軒を開鑿したもので、チャグレス河に堰堤を設けて、ガツン湖を作り、東西に開門を設け、船を二十六米の高さに上下せしめる装置になつてゐる。米國は運河の兩端にクリスチバル・バルボアの兩港を設けたので、在來の二港は、之が爲に著しく衰へた。この運河の開通により、南米迂回の不便が除かれ、世界の交通・産業及び軍事等の上に、大影響を及ぼすに至つた。

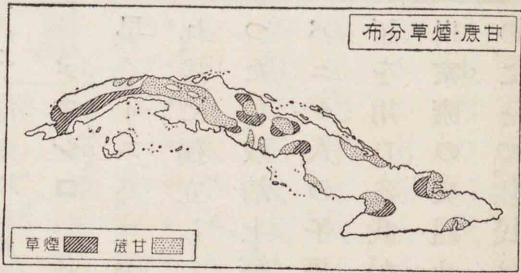
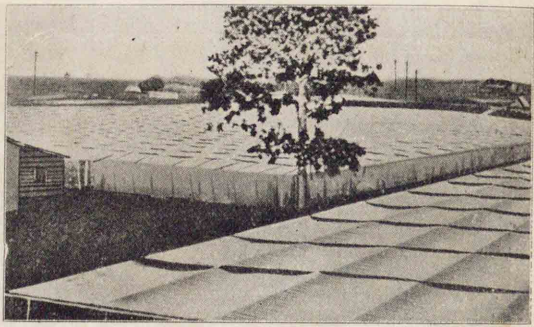
西印度 大アンチル・小アンチル・バハマの三諸島に分れ、カリブ海を抱いてゐる。活火山が多く、又地震が屢起る。諸島中には三箇の小獨立國があり、その他は英・米・佛・蘭の諸國に分屬する。



キューバは面積約一
一萬方軒、人口約
三九六萬

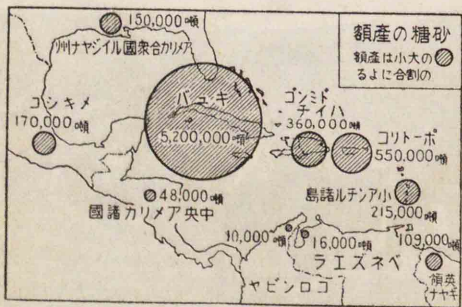
ハバナ 五萬
圖 日覆をした煙
草畑

ハイチは面積約二
萬六千方軒、人口
約二二〇萬
セントドミンゴは
面積約五萬方軒、
人口約一二〇萬
ポルトープリン
セントドミンゴ
マルチニク島の
ペレー山は明治三
十五年大破裂をし
て沿岸の市街を破
壊した



大アンチル諸島のキューバは、獨立の共和國で、甘蔗・煙草・珈琲等を産し、殊に砂糖は世界屈指の産地である。首府ハバナは、西印度諸島の最大都會で、粗糖の積出が多く、又葉巻煙草の良品を出す。ハイチ島には、黒人の建てたハ

イチ(首府ポルト) **セントドミンゴ**(首府サンゴ)の二共和國があつて、共に砂糖・珈琲等を産し、ジャマイカ島は英國に屬する。
小アンチル諸島は概ね火山性で、マルチニク島(領佛)は、近年大噴火があつたので名高く、トリニダード



メキシコ人の家屋と風俗

面積 約一九七萬方呎
人口 約一六四〇萬

メキシコポカテペトル山とメキシコ市

住民の多數を占めるは白人とインディアンの雑種で之をメスチゾといふ

島(領英)は、地瀝青・石油等を出す。

バハマ諸島(領英)は、數多の珊瑚島から成り、その中のサンサルバドル(ワットリ)島は、コロンプスが最初に到達した處と傳へられてゐる。

ベルムダ諸島(領英)は、ニューヨークの東南海上にある珊瑚島で、英國の海軍根據地である。氣候がよく、保養にも適する。

メキシコ 新大陸の中、最も

早くイスパニヤに征服せられ、後に獨立して共和國となつたが、政治上、經濟上に勢力を占めるのは、イスパニヤ人の子孫で、言語は主としてイスパニヤ語を用ひる。我が國との關係は甚だ古く、嘗て徳川家康の交通せしめたノビスパンヤはこの地のことで、住民は一般に親日の風があり、現に約



メキシコ 六千萬

メキシコ 六千萬

六千の邦人が移住し、農業に従事してゐる。

シエラマドレ山脈は、東西の二派となつて

高原を抱き、ポカテペトル山を始め、數多の

火山がこの中に聳え、僅に海岸に狭い低地がある。海岸地方は、炎熱多濕の不健康地で、森林

が多く、木材・バナラ等を出し、太平洋方面には、甘蔗・米・綿等の栽培が行はれる。ベラクルス・アカプルコ・マンサニヨ等は、此等の産物を集散し、

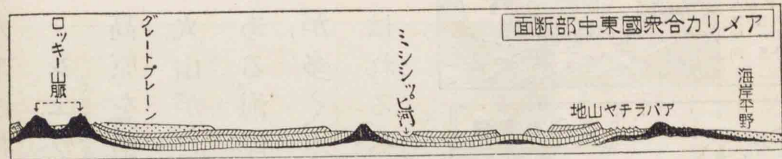
又高原地方への門戸である。高原地方は乾燥して、仙人掌・龍舌蘭等が自生し、又人工灌溉によつて、玉蜀黍・小麦・烟草等を作り、山地の斜面には珈琲を産する。

高原地方は氣候がよく、礦物の埋藏も多から、本國第一の開化地帯をなし、首府メキシコ(海拔二千)を始め、多くの都邑があり、人



金・銀・銅等は之を貨幣に鑄造して輸出することが多い

面積 約七八〇萬方呎
(アラスカ・ハワイを含む)
人口 約二二〇〇萬



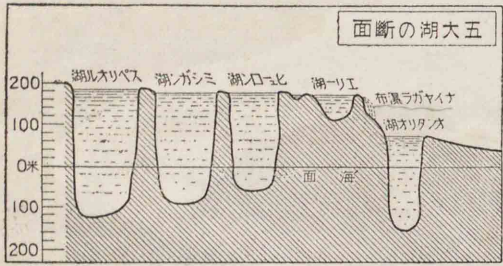
口が最も密である。鑛物は本國第一の富源で、金・銀・銅・寶石等を出し、銀の産額は世界第一である。東岸には油田もあつて、タンピコはその輸出港であるが、近年産額を減じた。

第二章 アメリカ合衆國

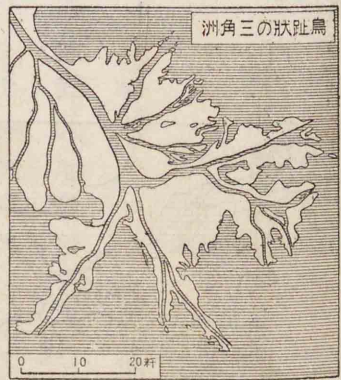
The United States of America

地形 我が内地の約二十倍に當る大國で、東部と西部とは、標準時に四時間の差がある。地形上から東部高地・中央平野及び西部高地の三區に分れる。東部高地はアパラチヤ山地で、多くの平行した山脈と谷とから成り、東南は山麓臺地を経て海岸平野に終る。此處を流れる數多の河川は、臺地を離れる處に瀑布を懸け、所謂瀑布線を作つて水力の利用に便し、多くの工業都市

が列んでゐる。北部は沈降海岸で溺谷が發達し、良港灣となつてゐるが、南部は隆起性で、潟や砂

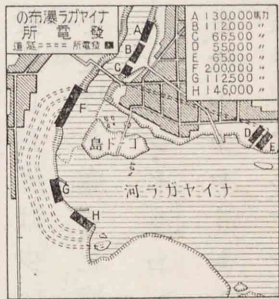
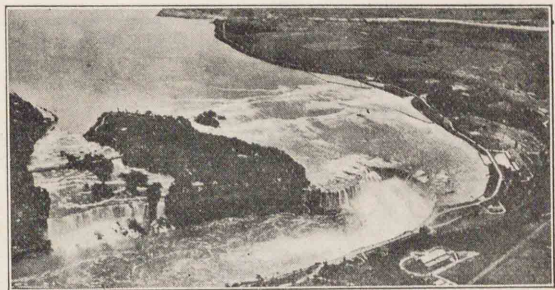


洲が多い。



中央平野は概ねミシシッピ川の流域に屬する。ミシシッピ河はミズーリ・オハイオ等の大支流を有し、河口に鳥趾狀の大三角洲を造る。海岸は一帶に低平で、砂嘴が發達し、良港は少い。平野の北半は、古代に著しく氷蝕を受けた處で、北境にはその爲に出來たスペリオル・ミシガン・ヒューロン・エリー・オンタリオの五大湖があり、セントローレンス河に連る。其等の湖水面は、各高度を異にし、オンタリオ湖とエリー湖との間には、

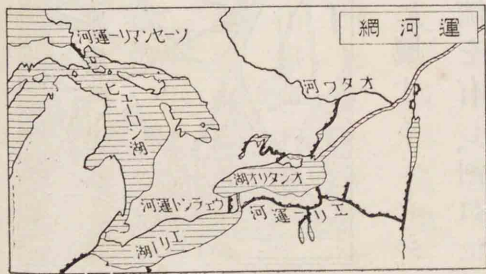
圖解 ナイヤガラ瀑布 (右は馬蹄瀑左はアメリカ瀑)



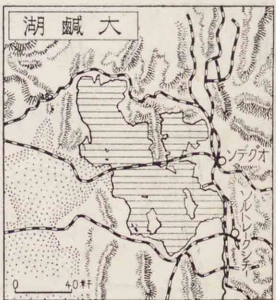
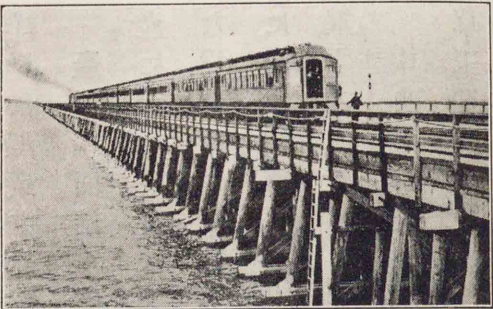
マリ運河や、ウランド運河(カナダ)を通じて、一萬噸級の船は自由に往來してゐるが、自然の河口はカナダに開くので、米國はエリー湖とハドソン河とを運河で連絡した。然し今は鐵道の利用に壓されてゐる。

壯絶なナイヤガラ瀑布があつて、豊富な水力を供給し、附近に工業市を勃興せしめた。五大湖は世界最大の淡水湖群で、水運の便が甚だ多く、淡水地中海と呼ばれる。各湖面の高度が異なる爲、ソーセン

平野の大部は、プレイリーと呼ばれ、往時は一大草野をなしてゐた處で、その西部は、グレートプレーン(ハイプ)と呼ぶ高い平坦地である。
(3) 西部高地は、コルチレラ山系の最も廣い部分を占め、ロッキー・カスケード・シエラネバダ及び海岸山脈が、廣



圖解 大鹹湖を横斷する列車

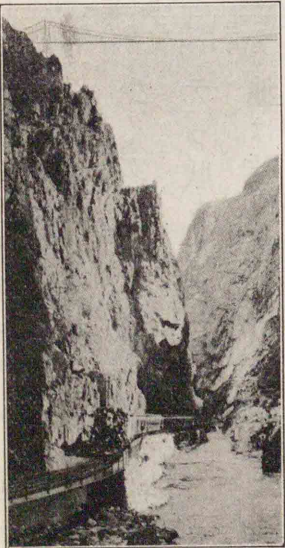


い高原盆地帯と、細長い低地帯を挟んで三列に並ぶ。高原盆地帯は、コロンビヤ高原(廣い熔岩臺)大盆地(大鹹湖を満)コロラド高原(大峽谷で)に分れ、低地帯はカリフォルニア

圖解 コロラド河の峽谷

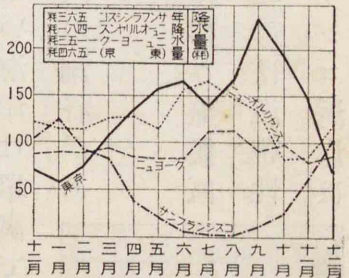
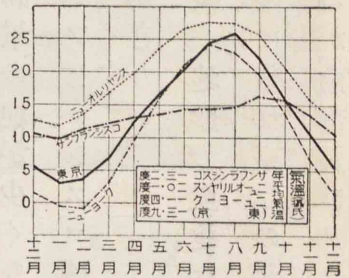
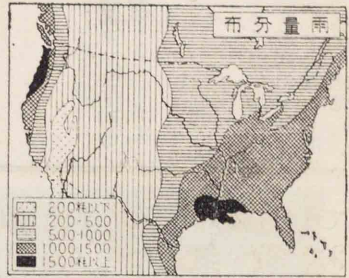
フロリダ半島は有名な避暑地で、アラチャ山脈の北部は避暑の適地

如き、勝景の地が少くない。海岸は單調で、北にピューゼットサウンド、中部にサンフランシスコ灣の溺谷があるに過ぎない。
San Francisco
Climate 地形の變化に伴ひ、氣候區も數多に分れ、東岸の北部は溫帶性であるが、南部及びメキシコ灣岸は



ロッキーマウンテンは氣候の大境界をなしてゐる

各種の産業が大規模で大量生産の行はれることは本國の一大特色である

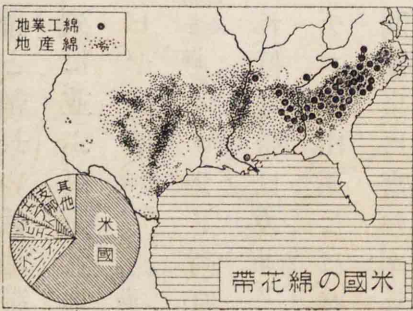
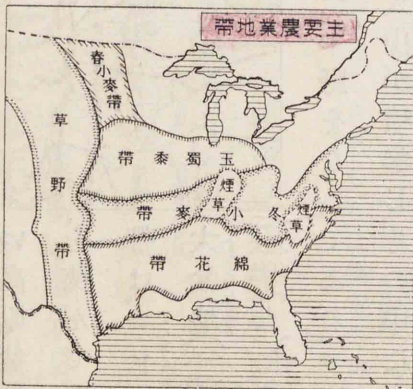


洋岸は温暖で、北部は夏に雨が多く、南部は冬に多い。

産業 面積が廣く、天

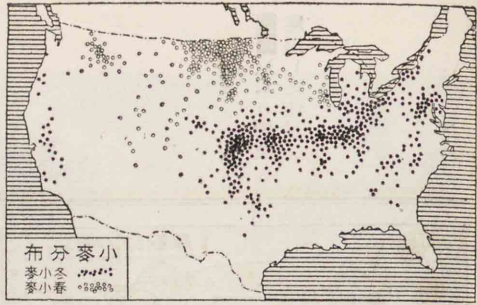
産に恵まれ、資源も豊富な爲、各種の産業が大いに起り、經濟上世界に雄飛するに至つた。

中央平野は綿・小麥・煙草・玉蜀黍等の耕作が甚



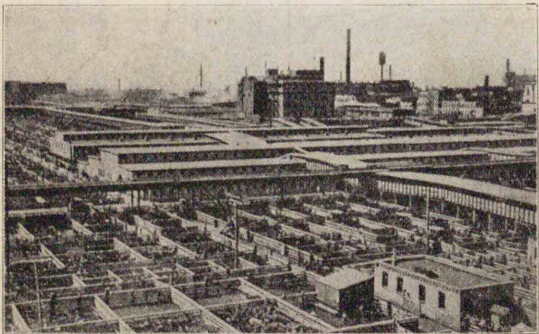
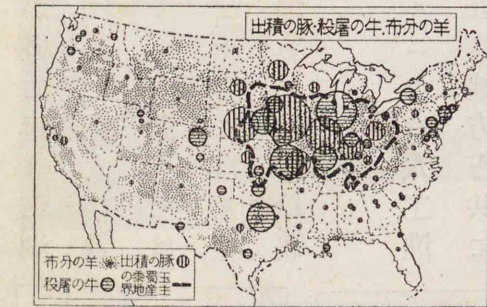
多湿で亞熱帶性である。中央平野は概して大陸性で、雨が少く、グレートプレーンはステップ状をなしてゐる。西部高地は乾燥して、山脈間には、沙漠状をなす處もあるが、太平

圖解製肉工場と家畜置場



小麥 冬小麦 春小麦
分分 分分
飼養が行はれ、シカゴセントルイス、シンシナチ等は、穀物肉類の大市場であり、又其等の加工地である。

セントルイス、シンシナチ等は、穀物肉類の大市場であり、又其等の加工地である。春小麦帯は、五湖地方の西部からカナダの小麥帯に續き、ミネアポリス、セントポール



だ盛で、何れも産額が世界第一である。此等の主産地は、略、带状をなして南北に列ぶ。綿はメキシコ灣に沿ふ地帯に最も多く、ニューオーリンズ、サンガルス、トンは、線綿の大積出港である。棉花帯の北には冬小麦帯があつて、煙草産地がこの中に挟まれ、リッチモンド、ルイスビルは主要の煙草市場である。玉蜀黍帯には、玉蜀黍の外、大麥、燕麥等を産し、又此等を飼料として、盛に家畜の飼養が行はれ、シカゴ、セントルイス、シンシナチ等は、穀物肉類の大市場であり、又其等の加工地である。

果樹園
園中を流れる小溝は人工的に設けられた用水路

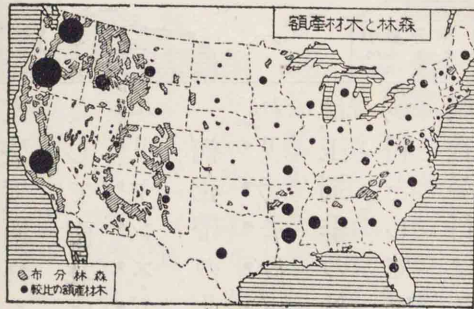


果實の乾燥
核を取去った杏の實を天日に乾燥せしめる光景



玉葱の畑
見渡す限りに咲く玉葱の花は他日更に幾層倍の面積に蒔くべき種子を採るもの

巨木の切株を
應用した住屋

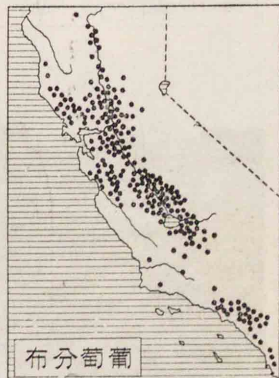


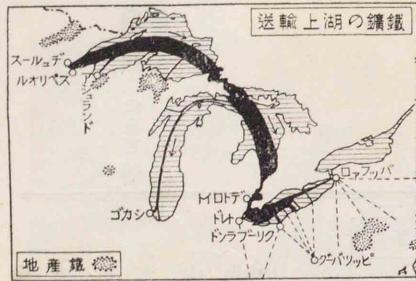
カリフォルニアは人工灌漑により、五湖地方と共に

の産が甚だ多い。
ル等には、その集散及び製粉が盛に行はれ、湖畔のミルウォーキー、デュルースは、共に盛大な穀物の積出港である。この外、メキシコ湾岸には甘蔗、テキサス及びカリフォルニア等には米の耕作が次第に盛となり、大湖地方には馬鈴薯

カリフォルニアは人工灌漑により、五湖地方と共に果實を多く産

し、殊に前者は葡萄、柑橘、野菜等の産に富み、サクラメント、フレズノ等はその中心である。牧畜は玉蜀黍帯の外、ロッキー





送輸上湖の鑛鐵

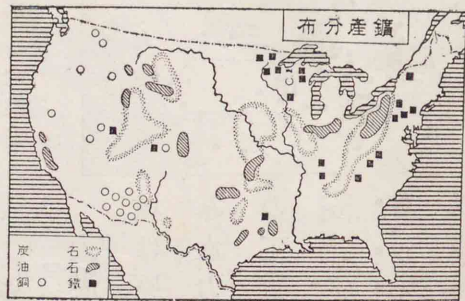
地産鑛

カリフォルニア地方の巨木には千を超え幹の直径十
三米に餘るものがある今はその伐採を禁止した

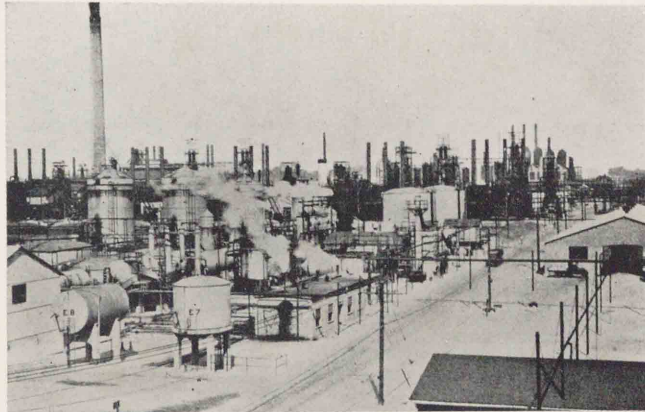
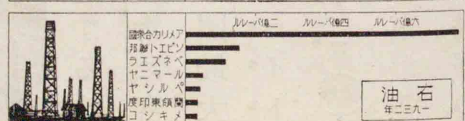
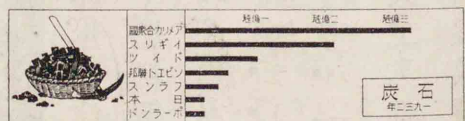
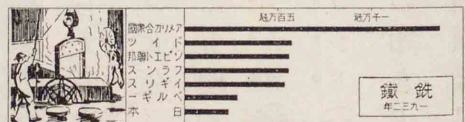
の東麓及び五湖地方等に廣く行はれ、林業は東北部及び西部に盛で、カリフォルニアの山地は、原生林の巨木があるので名高い。東北部の沿海(牡蠣、鱈)及び西部の河川(鮭)には、漁利が頗る多く、太平洋方面には、邦人の漁業に従事する者が多い。

鑛産も極めて豊富で、銅・鐵・石炭・石油・鉛・亜鉛・アルミニウム等の實用鑛物は特に多く、何れも世界第一の産額を有し、金・銀の産出も亦有數である。

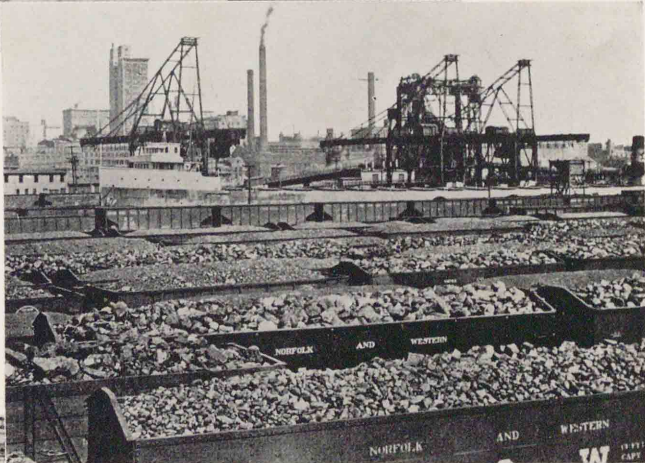
銅はスペリオル湖邊が主産地であつたが、今は金・銀等と共に、西部山地から



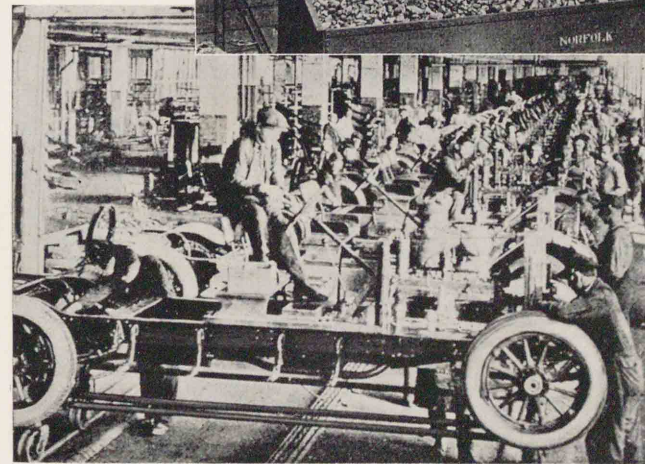
布分産鑛



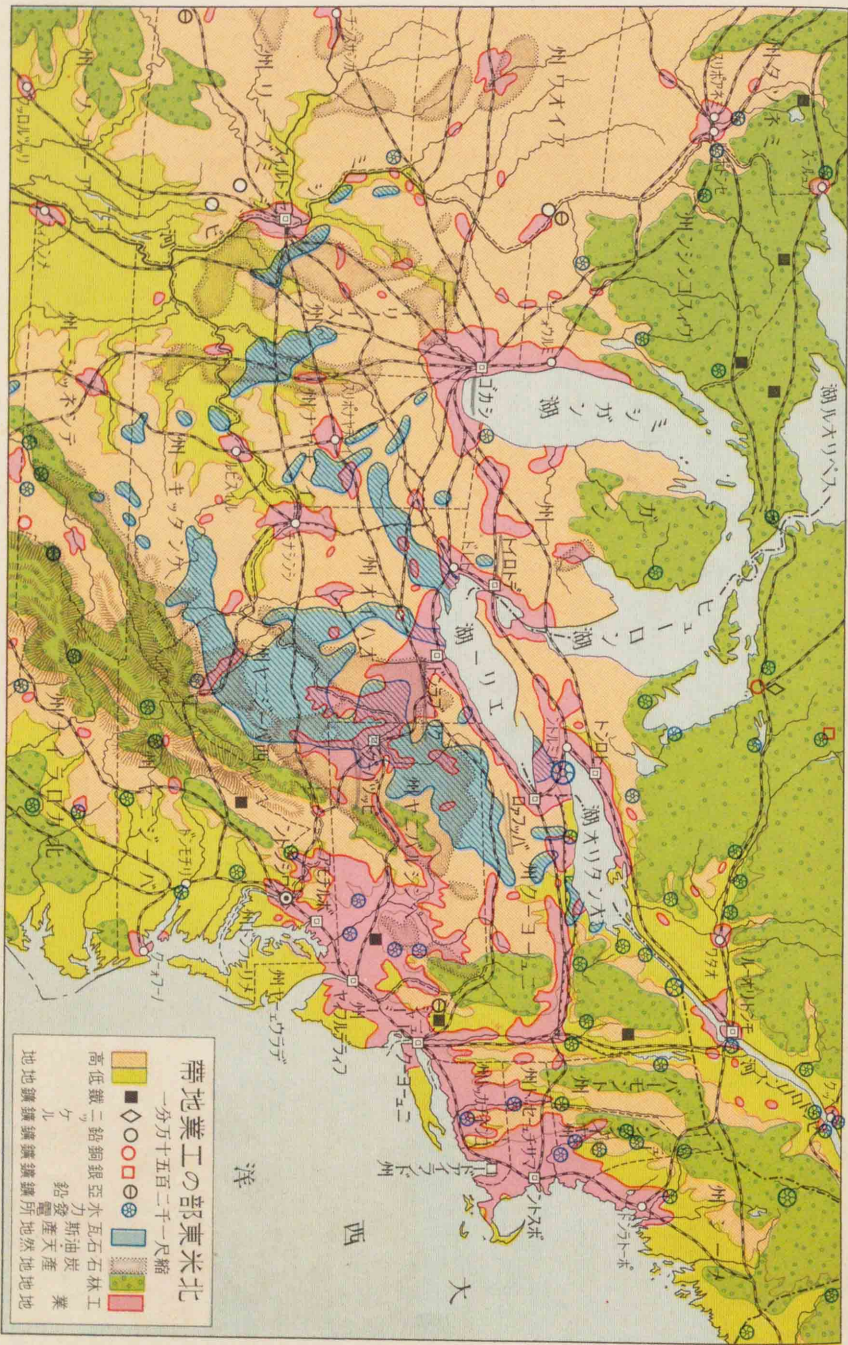
製油所
イリノイス製油所で、中央平原その他から石油を鐵管で此處に運ぶ



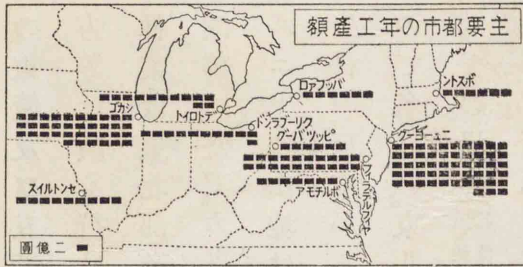
石炭積出
石炭集散の多いことが世界第一といはれるエリー湖畔の光景



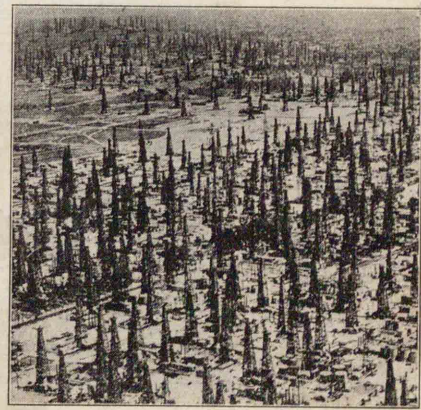
自動車工場
デトロイトにある工場で一日の製造数は八千臺といはれる



石油を林立せる櫛

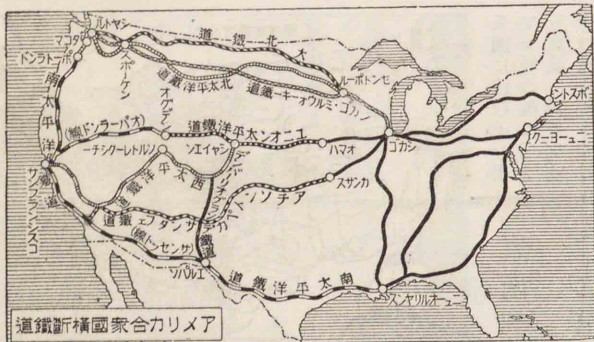


多く産し、ピットはその一中心である。鐵はアパラチヤ山地にも出るが、スペリオル湖西の地方に最も多く、デューリスは湖西鐵鑛の積出港で、ピッツバーグは世界最大の製鐵都市である。石炭はアパラチヤ山地及び中部平野の各地から多く産し、石油は東北部、ミシシッピ下流及び西海岸の地方に最も多く、フィラデルフィア、ロスアンゼルスはその精製積出が盛である。その他メキシコ、南米、歐亞等にも油田を獲得して、殆ど石油業獨占の觀がある。



大湖地方から大西洋岸に達する地域は、原料の産地に近く、燃料鑛物に富み、水力の利用にも便利な爲、本國最大の工業地帯で、シカゴ(機製鐵)・デトロイト(自動車)・クリーブランド(機製鐵)・バッファロー(機製鐵)・ピッツバーグ(鐵)の如き大工業都市が並び、鐵・鋼・機械・車輛・纖維品・護謨製品等の

日本の貿易
はついでに

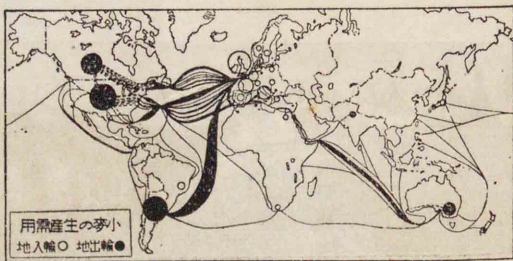


横斷鐵道

- 大北鐵道 シカゴ||シヤトル
- シカゴミルウォーキー鐵道 シカゴ||シヤトル||タコマ
- 北太平洋鐵道 セントポール||シヤトル
- ユニオン太平洋鐵道 オマハ||オグデン
- シカゴ||オマハ||中央太平洋鐵道
- オグデン||サンフランシスコ||南太平洋鐵道
- 西太平洋鐵道 シイエ||サンフランシスコ
- サンタフェ太平洋鐵道 カンサス||ロスアンゼルス
- 南太平洋鐵道 ニューオールリヤンス||サンフランシスコ

産出が盛である。
貿易も盛大を極め、殊に輸出超過が著しい。綿穀物、鐵及び鋼、機械類、銅、石油等は、何れも主要な輸出品で、生絲、珈琲、砂糖、護謨等が主要な輸入品である。我が國は多く生絲、羽二重茶等を賣つて、綿、石油、機械鐵等を買入れ、貿易上の關係が甚だ深い。鐵道はよく普及し、延長四十二萬軒を超え

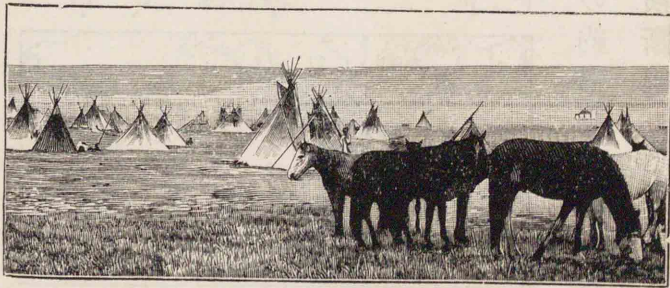
て、世界全線の約三割を占め、大陸横斷線も七條に及んでゐる。自動車の利用は世界の群を抜き、航空機等の發達も亦





米國に住むインディアン族の数は三十五萬餘に過ぎない。今は特別區を設けて保護を加へてゐる。

東南部地方には多數の黒人が住み、西部地方にはアジヤからの移民が多く、我が邦人も十萬に餘るが、今は東洋人の移住を禁じた。國民は自由平等を主義として、實利金權を尊ぶ風があり、宗教



著しい。商船は世界第二の噸數を有し、我が國からも定期船を通じてゐる。海底電線は歐洲・南米等に至る十數線と、太平洋横斷線とがあり、後者の支線は我が小笠原島に達する。無線電信も頗る完備し、西岸には我が國と直接通信を交換する局(マリニヤス(送信)がある)。

住民政治 原住民のインディアンは年々その數を減じ、國民の大部は英人の子孫であるが、他の歐洲諸國から移住した者も多い。

土領要主

- アジヤ洲
- フィリピン諸島
- 大洋洲
- グアム島
- サモア諸島
- 南・北アメリカ洲
- ポートルコ・セントトマス島
- バナマ運河地帯

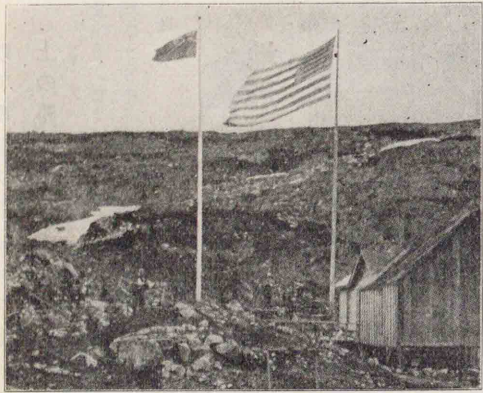
ワシントン市の所在地域をコロンビヤ區といひ他の州に屬しない面積は約百六十方軒ある

主要都邑 人口(萬)
 ニューヨーク 六九三
 シカゴ 三三六
 フラデルフィヤ 一五三
 デトロイト 一五〇
 ロサンゼルス 一三〇
 クリフランド 一〇〇
 セントルイス 八〇
 ボルチモア 六〇
 ビツパバーグ 五〇

は新教が最も廣く行はれ、教育はよく普及して、多くの大學がある。この地は英國の植民地であつたが、一七八三年に獨立し、その後購求讓渡又は征服によつて、現在の境域となつた。政治は聯邦共和制で、一區(ビヤン)四十八州二地方(ラスカイテ)から成り、西印度及び太平洋上に廣い領土がある。陸軍は大戰中に著しくその數を増し、海軍の勢力は英國と並んでゐる。(第一海軍)

都邑 東部地方は最も早く開けた處で、商工業が發達し、繁盛な都邑が多い。ニュー・ヨークはハドソン河の口に跨り、街路が正しく、高層建築が多く、港灣が整備する等、何れから見ても本



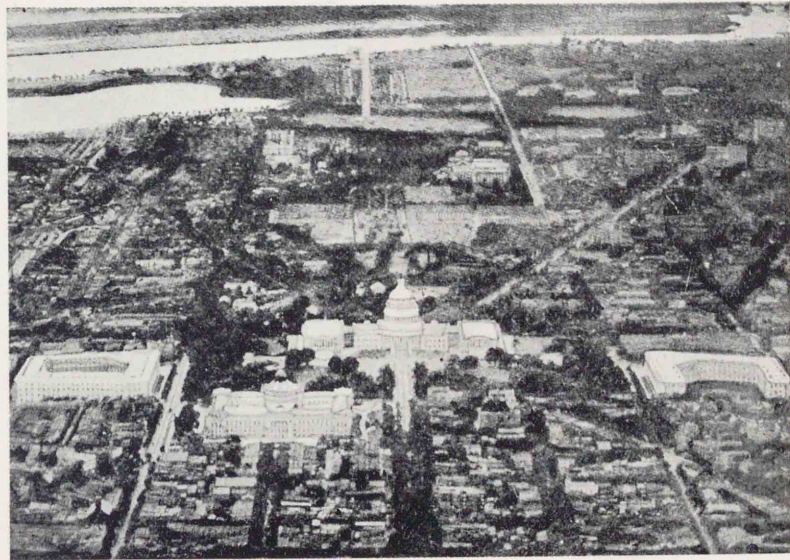


日本との關係 幕末の際には、我が開國の指導者となり、日露戰役に當つては、調停の勞を取り、且我が文化の上にも負ふ所が多い。殊に兩國の貿易關係は極めて密接で、我が貿易額の三分の一は、この國との間に取引され、我が商船は常に往復し、西部海岸地方には、十萬に餘る我が移民が在留して、富源の開発に努めたが、近年我が移民の渡航は禁止され、殊に太平洋問題、極東問題等で、往々意見の齟齬を見るのは甚だ遺憾である。

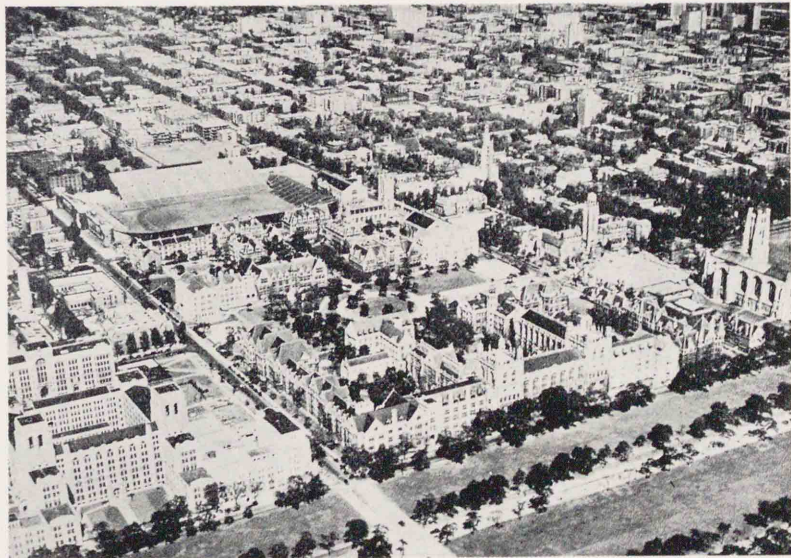
アラスカ Alaska 米國の一地方で、**ジュノー** Juneau に知事が駐在する。土地は未だ開けないが、河川及び近海には魚族が多く、金銀銅等の礦産もあり、又近年馴鹿の飼養に成績を舉

工業市である。

西岸のサンフランシスコは、金門海峡を通じて太平洋に對する交通の要地を占め、ロスアンゼルスは附近に大油田を控へ、又一部には活動寫眞の撮影所が多い。シアトル、タコマは、共に重要な海陸の連絡地で、此等の諸港は、何れも我が國と航路を通じ、ポートランドは木材水産物の集散が盛である。



瞰下のントンシロ
館書圖はの前左。稍院下と院上は右左のそ堂事議邦聯は央中



學大ゴカシ
るあが趣な高崇てしと然井もに何如で景光たし瞰下らか中空

カナダ
面積
約九一九萬方
人口
約一〇三七萬

セントローレンス河の凍結

げてゐる。プリビロフ島は臘肭獸の群棲地で、アレウト諸島のダッチハーバーは軍事上の要地として注目されてゐる。
Pribilof Aleutian Is. Dutch Harbour

第三章 カナダ

Canada(加拿大)
附 グリーンランド
Greenland

地形



カナダは米國と同じく東・中・西の三部に分れる。東部には古い高臺が連り、セントローレンス河が此處を貫流する。中部には五大湖を始め、氷蝕による湖水が多く、マッケンジー河は多くの湖水を連ねて北流する。西部にはロッキー海岸の二山脈が並走して、廣い山地を作り、海岸山脈中には、壯大な火山が多い。この火山帯は、アレウト諸島を経てアジャ洲の東岸を通ずる。三面に海を控へてゐるが、北岸は酷寒の爲に利用が少い。セントローレンス灣は、重要な



ラブラドル地方
四隣寂しき積雪の上をエスキモ族が犬に橇を曳かせて行く



セントジョンズの港
ニューファンドランドの漁業根據地で岸に積まれたのは獲得した海豹



カナダの伐材
河面を埋めてゐる多量の木材は春の解氷期を待つて流送される



グリーンランドの海岸
エスキモー民族が特有の船を泛べてある



ジュノーの市街
アラスカ南部の峽灣に臨む港市で
ユーコン上流地方への門戸である



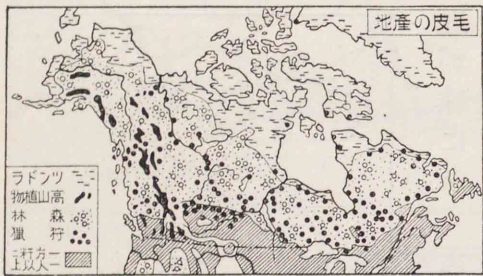
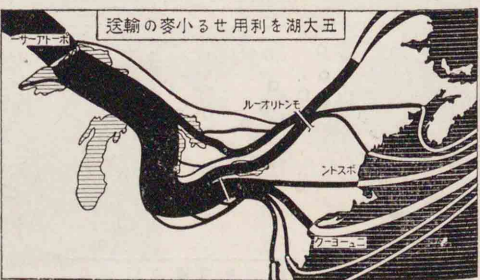
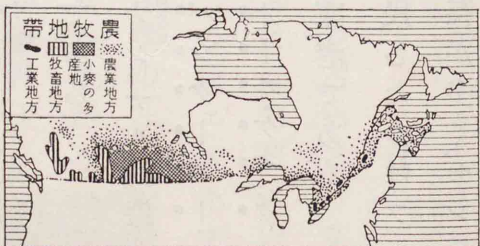
アラスカの馴鹿群
ユーコン河の下流地方に於ける馴鹿牧養の光景

内陸水路に連つて、この地方の表口となつてゐるが、夏は霧が多く、冬は凍結の缺點がある。西岸は山勝ちであるが、良港もあつて、東亞・南洋に對する門戸である。

氣候産業

海流の關係で、西岸は

東岸よりも氣温が高く、雨量も多い。内地は大陸性で、南から北に草地・森林・凍原の諸帯が順次に並んでゐる。草地帯は開拓が進んで、春小麦の産



が、歐洲に對する穀倉の中心である。又、牛・羊等の飼養も行はれて、酪業が盛である。

森林帯の大部は、毛皮獸の狩獵地であるが、東南部

カナダは我が國から北米を経て歐洲に至る最捷路で横濱からロンドンまで約二十三日で達する

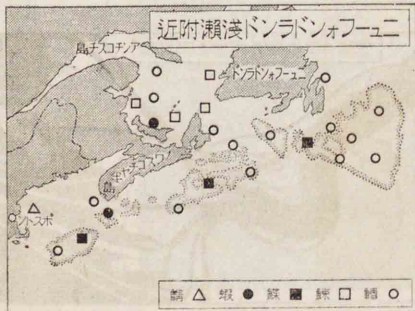


獲が殊に多く、大湖の白鱒も亦有名である。

交通はカナダ太平洋鐵道・カナダナショナル鐵道

があつて、東西の兩洋を連ね、西岸のバンクーバー・プリンススルパート、東部のモントリオール、ケベック、Prince Rupert は、その門戸に當り、ハリファクスは不凍港である。

住民政治 この地方に最も早く移民したのはフランス人で、今も東部には佛人の子孫が多く、セント

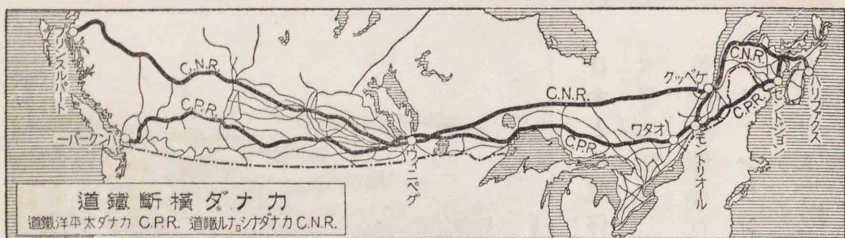


【圖解】エスキモー族の水屋

【圖解】バンクーバーの埠頭

主要都邑 人口(萬)
モントリオール 60
トロント 40
ウイニペグ 30
バンクーバー 30
オタワ 20
ケベック 10

バンクーバーは横濱を距ること凡そ四千三百哩

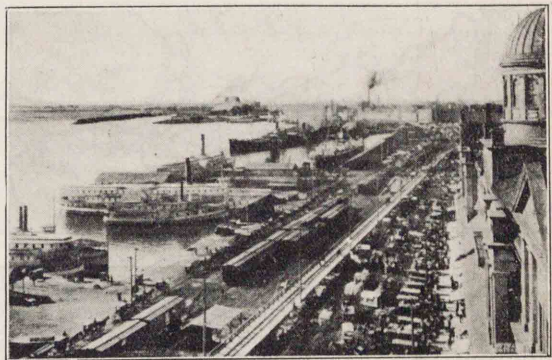


ピエール・ミクロンの二島は、尙佛領として残つてゐる。住民の大部分を占めるは英國出の白人で、西部には二萬に近い邦人が在住し、その他エスキモー族・インディアン族等の土人もあるが、その数は少い。この地は聯邦制の自治植民地であるが、政治上は本國と對等で、諸外國と大使を交換してゐる。

都邑 西岸のバンクーバーは、東亞に對する要港で、對岸のビクトリア



モントリオール埠頭の概観



トリアと共に、我が國と關係が深い。トロントは湖上交通の要地を占め、盛大な商工業市である。ケベックは早く開けた都邑であるが、モントリオールに繁盛を奪はれた。モントリオールはカナダ第一の都會で、オタワは政廳の所在地である。ニエーフランドラントはラブラドル半島の一部と共に、別に一箇の自治植民地となつてゐる。島の南方に一帶の淺瀬があつて、漁獲が多く、首府セントジョンズは、水産物の取引が盛である。

St. John's

Newfoundland

Labrador

グリーンランドは面積二一七萬方呎、人口約一萬七千

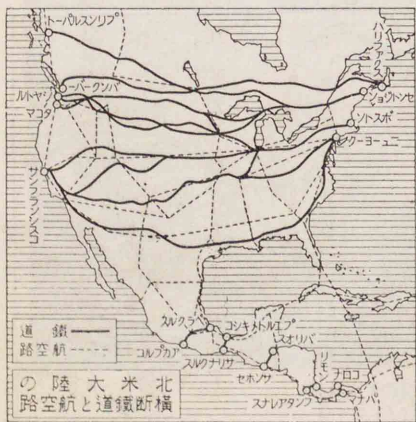
日本との關係 新大陸中我が國と海路が最も近く、約二萬の同胞が在住して漁業伐木等に從事してゐるが、排日の風潮が盛で、今後の移住は困難である。貿易に交通に彼我の關係は益、密接を加へ、英國の領土ではあるが、公使を交換するに至つた。

④グリーンランド 世界第一の大島で、大部は氷原に被はれ、西南部にはエスキモー族が住んでゐる。大部はデンマークの支配を受けてゐるが、東岸の一部は近時ノルウェー領となつた。

總 說 (其二)

産業・交通 土地が廣く、人口が少い爲、機械を應用して大量生産を行ひ、殊に中央平野は大農牧地で、その産物は歐洲を養ひ、東西の高地は盛に木材を出し、鑛産・水産等も亦豊富な上に、資力も充實してゐるので、商工業の發展も目覺しい。

鐵道網は、米國の東半部からカナダの東南部にかけて最も發達し、河湖の水運と相待つて、内陸と海岸とを連絡し、大陸横斷の鐵道も大小十餘條を數へるに至つた。海運は歐洲との間に最も頻繁であるが、パナマ運河の開通は、本洲の東岸と東亞・濠洲との連絡を容易ならしめ、航空路及び海底電線・無線電信等の通信網も、殆ど完備に近づいてゐる。





大連の埠頭

乗客の待合所は階上から廊下へ直接乗船が出来る



メナム川の水上家屋

多数の杭や浮屋が河岸に並び、熱帯の異様な光景を呈する

住民國狀 固有の土人は、インディアン族とエスキモー族とであるが、現住民の大部分は移住したヨーロッパ人種で、北部にはチュートン族、南部にはラテン族が多い。その他東南部には、黒人の子孫が住んで、経済的に重要な位置を占め、西部の地方には、東洋からの移民も少くない。

本洲は、もと歐洲諸國の植民地であつたが、次第に母國から離れて獨立國となり、今はカナダ、西印度諸國の一部等が、他國の領土として残るのみである。中でもアメリカ合衆國は、國勢の進展が著しい。

日本との關係 太平洋を隔てて相對し、我が航路の寄港地が多く、殊にパナマ運河の完成は、我が商品の輸送に多大の便を與へた。邦人の各地に在住する者は頗る多いが、處によつては、排斥の風潮が盛となり、或は全く禁止されるに至つたのは、遺憾に堪へない。



北アメリカ州 — 80

第三卷

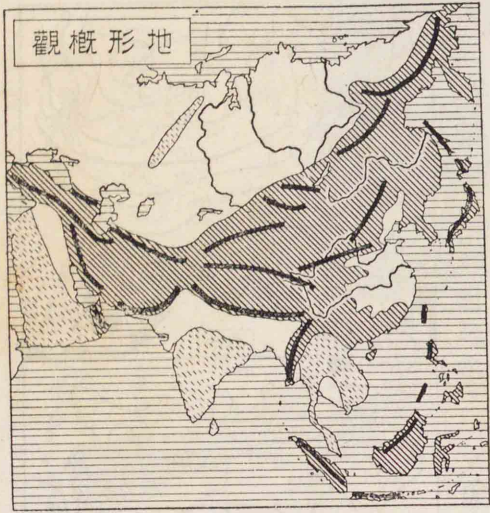
第六篇 アジヤ洲

Asia (亞細亞)

總説 (其一)

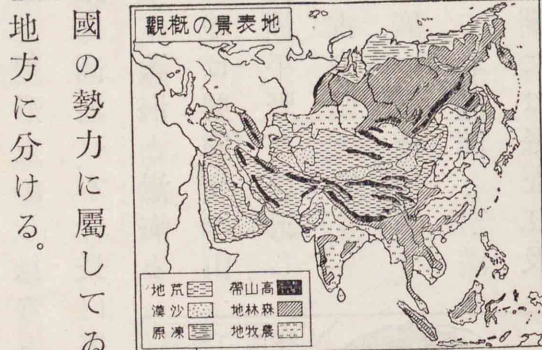
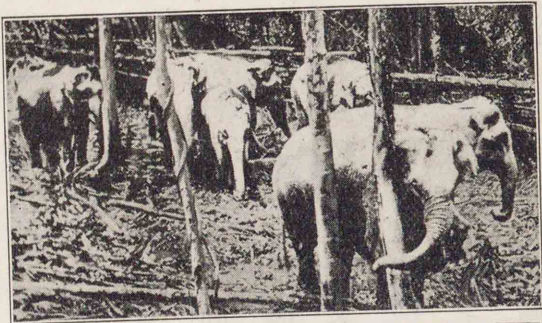
面積 約四二〇〇萬方
人 約一億

アジヤとヨーロッパとは一大陸をなしてゐるから之をユーラシヤと呼ぶことがある
通常ウラル山脈・ウラル河・裏海・コーカサス山脈を歐・亞の境界とするが政治上の區劃は之と一致しない



地形 アジヤは世界最大の大陸で、面積は全陸地の約三分の一を占める。洲の殆ど中央にパミール高原があり、多くの山脈が此處から四出して、世界最大の高地を造り、その周邊に廣い平野や、古い地塊から成る大半島がある。河川は主として三斜面に分れ、水量が豊富で、交通灌漑の利を與へるものが多い。北極海の沿岸は、出入が單調であるが、太平洋岸は屈曲に富み、且多數の島嶼が散在して、大陸との間に海灣を抱き、その外縁には、深い海溝を繞らしてゐる。印度洋面には、二大半島が突出する外、屬島は少い。

圖 野生の象
(仔象を垣の中へ
誘ひ集めて捕獲す
る光景)

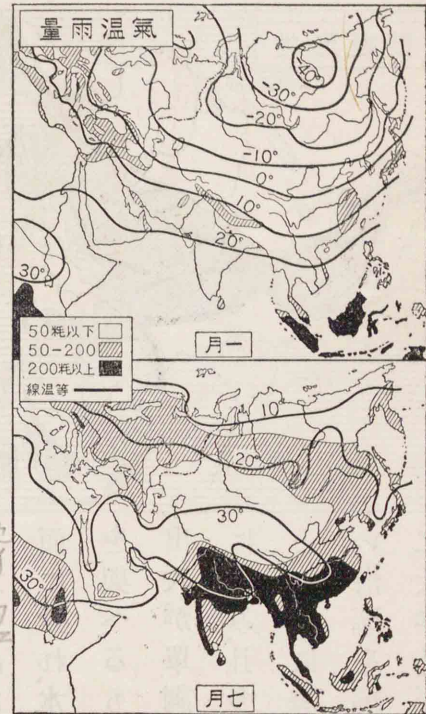


據地であるが、南部・西部には
ヨーロッパ種の民族が多く住
み、東南部にはマレー人種
の住む處もある。原住民は概し
て勢力が微弱で、我が日本の
外には、堅實な獨立國はなく、
土地人民の大部分は、歐米諸
國の勢力に屬してゐる。本書は便宜上、之を左の諸
地方に分ける。

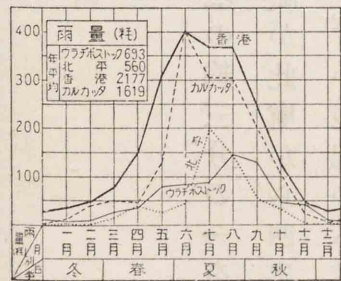
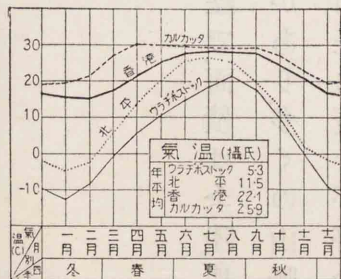
- 滿洲及び關東州
支那(中華民國)
南部アジヤ 印度支那 マレー諸島 印度及びセーロン島
西部アジヤ イラン地方 西部地方 アラビヤ半島
北部アジヤ シベリヤ 中央アジヤ及びコーカシヤ

あり、熱帯性の森林が茂つて、象・犀・虎・鱷・大蛇等の巨大な動物の棲む處
もある。内部は大陸性で、西南部に
續く廣い沙漠帯をなしてゐる。北
部は寒氣が強、極北の一帯は凍
原となり、東北の一部は世界寒極
の一に數へられる。

區分 本洲はアジヤ人種の本



氣候 土地が廣く、地形
が錯雜してゐるから、氣候
は處によつて著しく違つ
てゐる。南部は暑く、東南部
は暖で、共に季節風の影響
を受け、雨量が多い。殊に南
部には、世界の最多雨地が



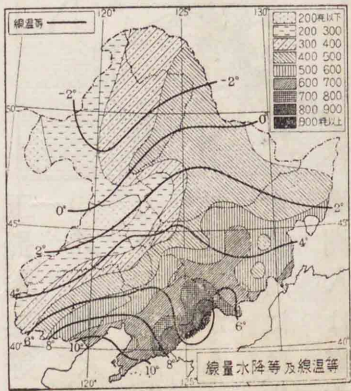
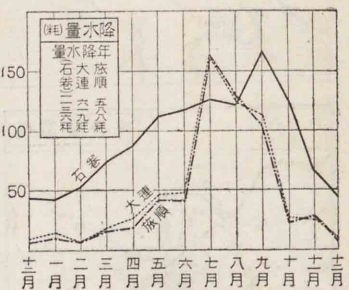
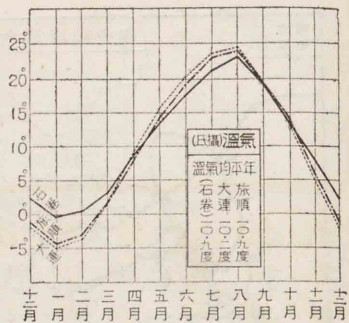
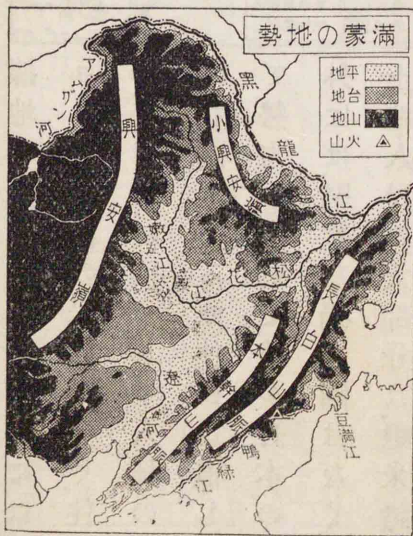
各説

第一章 滿洲及び關東州

通説

滿洲
面積 約一四一萬方
人口 約三〇〇〇萬
關東州
面積 約三四六〇方
人口 約九六萬

の地形 滿洲は最近支那から分離獨立した新興國で、面積は我が國の一倍半に餘る。之を地形上から見ると、東部高地、西部高地及び滿洲平野に分れる。⁽¹⁾ 東部高地は、本幹、長白等の山脈が連る處で、その餘勢は、遼東半島となつて、黄海と渤海とを分ける。⁽²⁾ 西部高地は、興安嶺の山地で、その東方は滿洲平野に急斜し、西方は緩斜して蒙古高原と續く。⁽³⁾ 東西の兩高地間は廣い滿洲平野で、低い分水界によつて北滿洲と南滿洲とに分れる。北滿洲には松花江及

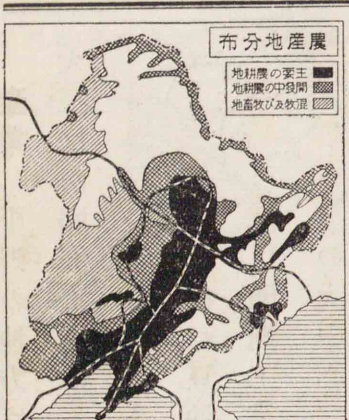


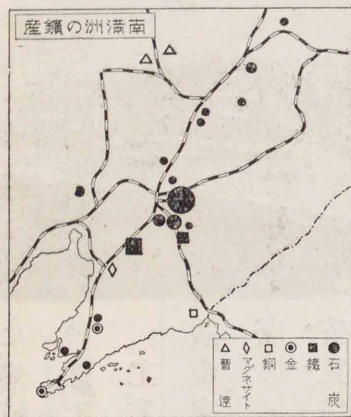
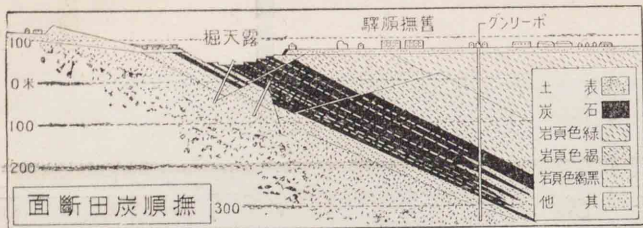
江 凍結した松花
雨量の過半は夏に
降るから秋冬が旅
行・運輸の季節で
ある

びその支流の嫩江が流れ、南滿洲には遼河が流れて、共に水運の便が多い。

氣候

氣候は我が奥羽以北に似て、寒暑の差は更に夫よりも強い。内地は寒氣が烈しく且長く、冬は河面が厚く凍つて、車馬道となる。雨は一體に少いが、降水の大部分は夏の二、三ヶ月間(六七八)にあるから、高温と相待つて、農業には好都合である。

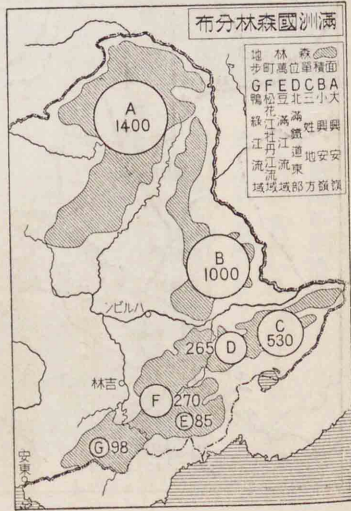
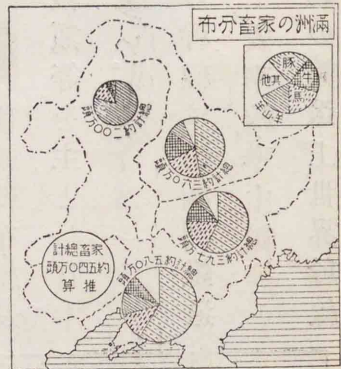




産し、鞍山の製鐵所は、撫順の製油所と共に、石油を採る。鐵は鞍山、廟兒溝等から掘に名高く、その岩層を被ふ油母頁岩からは石油を採る。鐵は鞍山、廟兒溝等から産し、鞍山の製鐵所は、撫順の製油所と共に、

興安嶺にも稍見
るべき林地がある

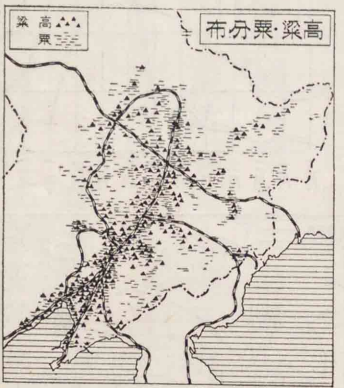
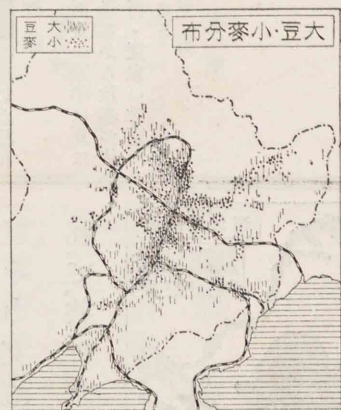
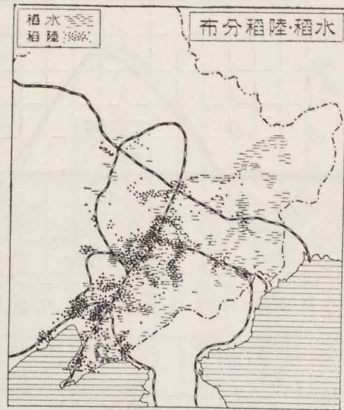
し、農家は大概
副業として、豚
羊、馬、牛、驢等を
飼ひ、西部に
は遊牧が行
はれる。



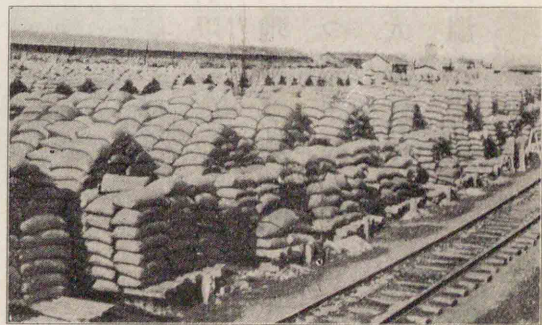
鴨綠江、松花江等の流域には、廣い原生林があつて、多く木材を出し、安東、吉林はその集散の中心である。

礦物の埋藏が甚だ多く、石炭はその首位を占めて、撫順、煙臺、本溪湖等から産し、

大豆の集積

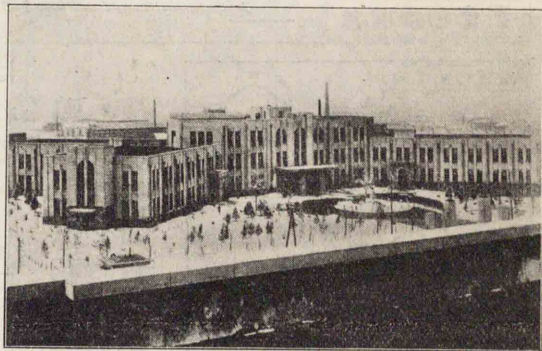


大豆は、南滿洲に於ける最大富源で、その儘輸出する外、之を原料とする搾油が盛に行はれ、豆油、豆粕等の産が多い。搾油は滿洲工業の首位を占め、大連はその大中中心である。北滿洲は小麦の産に富み、ハルビンを中心として處々に製粉の大工場がある。この他高粱、玉蜀黍、粟等の産が多く、近年米の耕作が盛となり、甜菜の栽培も行はれる。又吉林地方からは、煙草、麻等を産し、遼東半島には、柞蠶絲の特産がある。滿洲人は家畜を馴らすことに長



玉蜀黍、粟等の産が多く、近年米の耕作が盛となり、甜菜の栽培も行はれる。又吉林地方からは、煙草、麻等を産し、遼東半島には、柞蠶絲の特産がある。滿洲人は家畜を馴らすことに長

- 1 大連・新京間
- 2 滿洲里・ボグラ
- ニチナヤ間
- 3 ハルビン・新京
- 4 奉天・安東間
- 奉天・山海關間

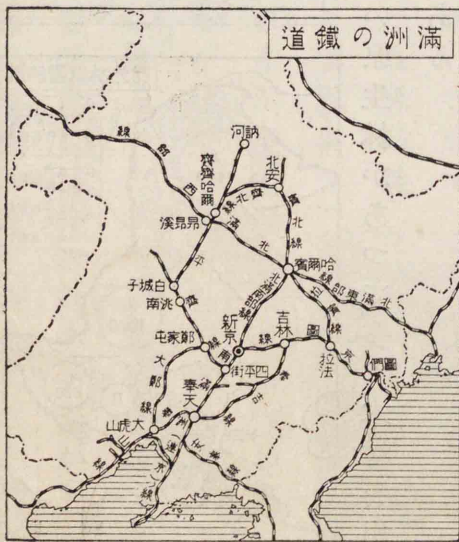


び毛織・砂糖・機械類等を主とし、日本との取引が最も多い。

交通 鐵道の幹線は、南滿洲鐵道と北滿鐵道とで、安奉線、奉天線等と共に、旅客・郵便物の輸送上、世界幹線

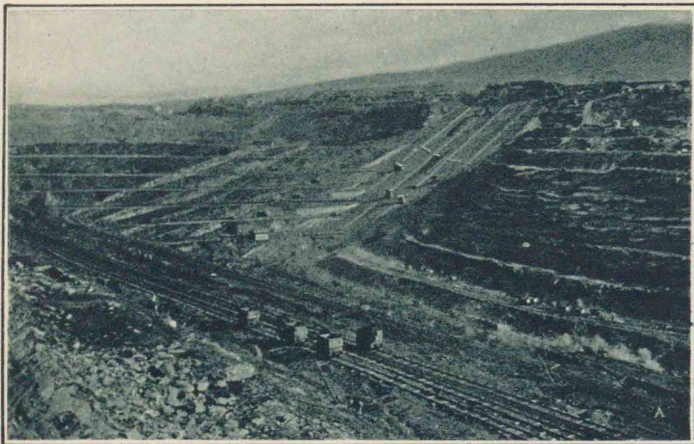
に規模が壯大である。この他鄭家屯附近の天然曹達、天寶山の銀銅等も著れてゐる。

工業は原料や石炭が豊富な上に、支那人の勞銀が安いので、搾油・製粉・製鐵及び化學工業等が著しく勃興した。貿易も次第に發達し、大連・營口・安東等は、その中心である。主要の輸出品は、穀物・豆粕・豆油・石炭・鐵材等で、輸入は綿絲・布・絹及び



撫順炭田の露天掘

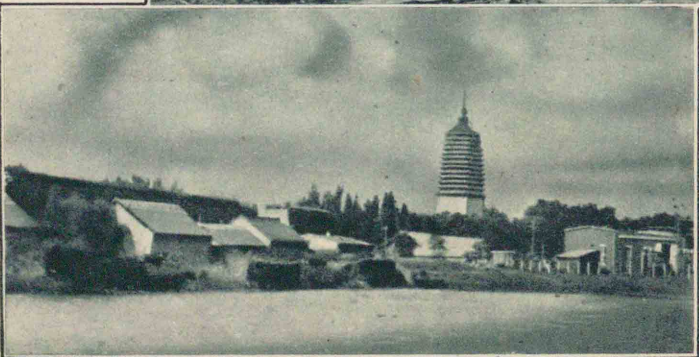
階段狀に掘下げられ多數の運炭車が頻繁に通つてゐる

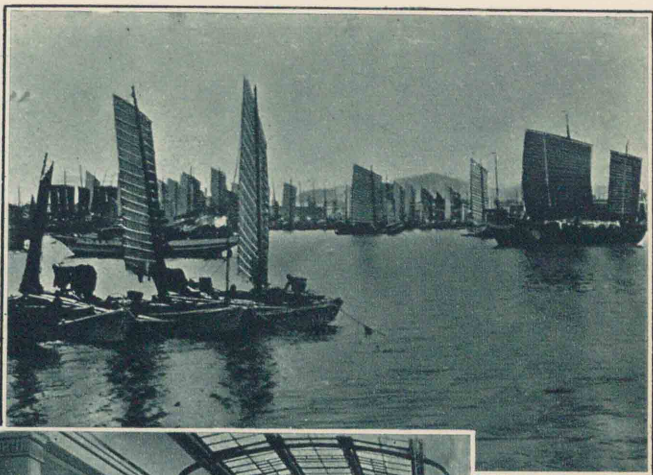


ダイナマイト充填作業
露天掘で夾石や炭層をダイナマイトを充填し破碎してゐる光景

遼陽の白塔

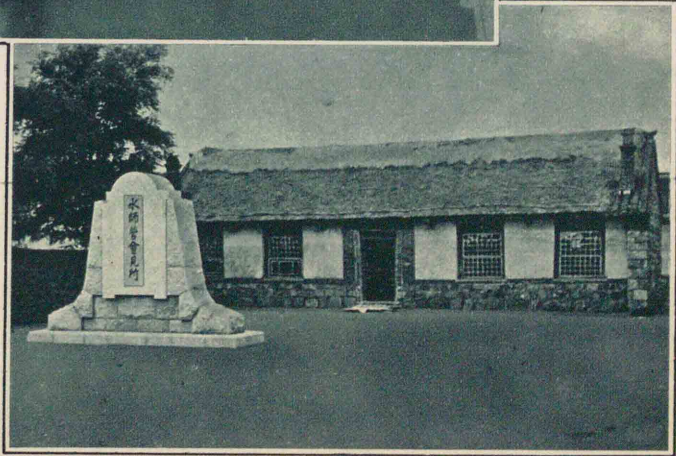
世界的に名高い白塔で今は塔の附近一帯が公園となつてゐる





大連の大山埠頭
俗にロシヤ波止場といはれ常に多
数の戎克が集り千橋林立の偉觀を
呈してゐる

大連の待合所
船客待合所は五千人の收容能力を
有する大規模なものでその施設は
世界有數である



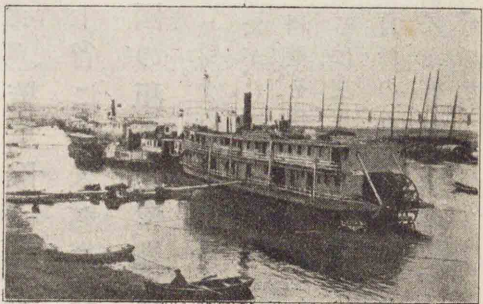
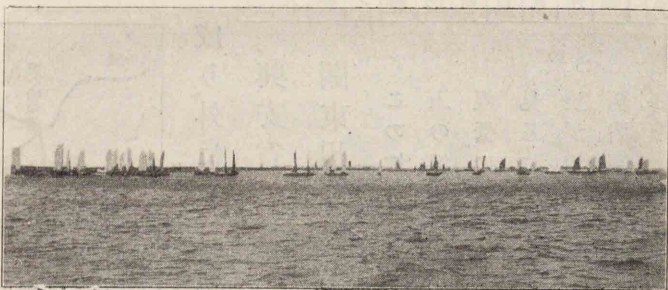
水師營の會見所
關東州の實權が我が國に屬した基
はこの茅屋に於ける日露兩將の會
見である

- 5 四平街、齊々哈爾
- 6 齊々哈爾、北安
- 7 ハルビン、北安
- 8 ハルビン、拉法
- 9 新京、圖們間
- 10 奉天、吉林間
- 11 大虎山、鄭家屯
- 12 白城子、懷遠鎮

圖解 遼河の帆船

圖解 松花江の汽船

圖解 蒙古人の住居



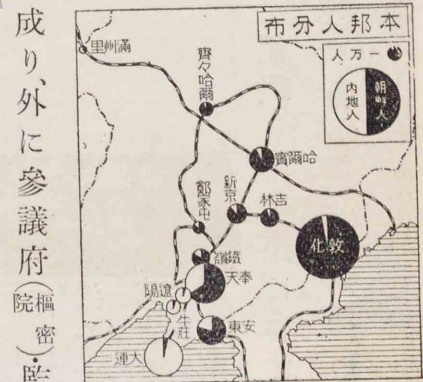
の一部分となつてゐる。その他平齊、齊北、賓北、拉賓、京圖(吉長、吉敦、敦圖)、奉吉、大鄭、洮索等の鐵道も敷設された。水運は松花江、遼河の二大水路がある。松花江はハルビン以下に大汽船を浮べ、遼河は支那船の上下が盛である。海上航路は大連を大中心とし、營口、安東が之に次ぐ。近年航空路も次第に開け、我が空路と連絡する。

住民 原住民は、嘗て清朝を興した滿洲族(マンチウ族)であるが、今は移住の漢人が大部分を占める。西部には蒙古族が遊牧生活を営み、東部には朝鮮移



國務院には外交・民政・軍政・財政・實業・交通・司法・文教の七部がある
興安省は他の省と異なり東・西・南・北の四省に分れて國務院に直屬し蒙政部がその行政を掌る

興安	熱河	錦州	安東	間島	三江	黑龍	龍江	濱江	吉林	奉天
分れる	承徳	錦州	安東	延吉	佳木斯	齊々哈爾	齊々哈爾	ハルビン	吉林	奉天



成り、外に參議院(樞密)監察院(會計検査院)がある。地方は十省に分け、外に興安省がある。十省には夫々省長を置き、その下に多くの縣がある。

民が農業を行つてゐる。この他北部にはロシア人、南部には内地人の在住が頗る多く、南滿洲鐵道の沿線には、日本人の市街が處々に建設せられ、各種の學校も出來てゐる。

政治 政治は立憲君主制で、元首を皇帝と呼ぶ。政府は立法院(會議)國務院(府)政法院(所)から

この地方は、嘗てロシアの勢力範圍となり、彼は遼東半島の一部を租借して、軍事上の根據地としたが、日露戰役の後、我が國はその租借權を繼承し、南滿洲鐵道の經營の外種々の利權を得て、産業の開發に多大の力を盡し、著しく文化の進歩を見るに至つた。然るに支那はこの權益を無視して、横暴の振舞が多く、終に滿洲事變が起り、日本は自衛の爲に、軍閥を掃蕩するに至つた。この機に際し、滿洲國民は舊清國皇帝溥儀氏を擁して獨立を宣言し、共和制の滿洲國を建てたが、最近之を皇帝に推戴して、立憲帝國となつた。

地方誌

一、滿洲

奉天省 耕地が割合に廣く都邑の數も多い。

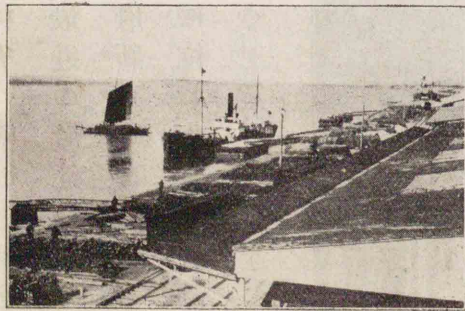
奉天は清朝の舊都で、近郊にその宗廟がある。交通商工業の大中心で、我が滿洲醫科大學も此處にある。撫順は大炭田の所在地で、遼陽の附近には綿畑が開け、鞍山には大規模の製鐵所がある。蓋平は柞蠶飼養の



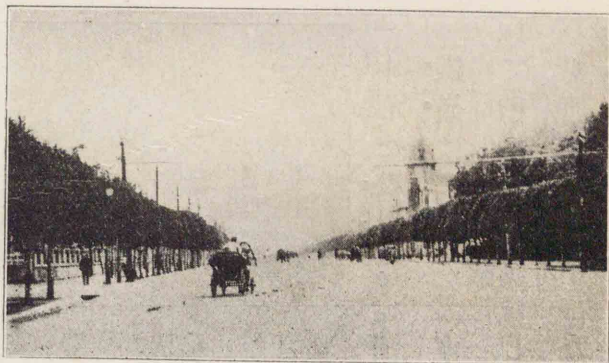
奉天の市街(停車場前)
主要都邑 人口(萬)
奉天 四〇
吉林 三〇
安東 二〇
新京 一〇
營口 一〇

營口の埠頭

一中心で、營口は遼河に臨む重要な商港である。鐵嶺は大豆の大市場であるが、開原の發展につれて、稍繁華を奪はれた。四平街、鄭家屯は、共に交通の要地に發達をした新興市街である。



圖解新東京の市街
(幹線道路)



圖解ハルビン市の
大観



吉林省 國の中樞を
占め、最近の發達は著し
い。首府新・京・(春長)は交通の
要地に位し、物資の集散
が多く、工業も頗る發達し

集散し、伯都訥は農産取引の一中心である。
濱江省・龍江省 北滿平野の要部を占め、その
中心のハルビン(江濱)は、ロシアの策源地として勃
興した市街で、商工業が盛に行はれ、東部の寧安



(寧古)は農産物の市場、綏芬河は國境の要地である。齊々哈爾(江龍)は嫩江
を控へて農畜産を集散し、洮南は重要な新興の市場である。

黒河省・三江省 黒龍江を挟んでシベリヤと對し、江岸の黒河・愛琿
は、邊境の要地である。東部には松花江が流れ、之に沿うて佳木斯・三姓
等の河港がある。

圖解承德の喇嘛廟



や壯大な喇嘛廟があり、赤峰と共に農畜産の取引が行はれる。
興安省 興安嶺が連つて臺地性の處が多い。海拉尔の附近では牧

間島省・安東省 朝鮮と境を接し、間島地方には
鮮人の在住が殊に多い。延吉(衙子)龍井村はその中
心町で、圖們は鐵道の要地である。鴨綠江に沿ふ安
東は、木材の大集散地で、又柞蠶工業が行はれる。
錦州省・熱河省 支那と接する地方で、萬里長城
が南境に連る。錦州は交通の要地に位し、連山灣(盧壺
島)には築港の計畫がある。承德(河熱)には清代の離宮

圖解 遼東の市街

畜が行はれ、滿洲里は北滿鐵道の國境驛である。南部の通遼(太拉音)は、鐵道の要地に發達した新興市で、蒙古との取引地である。

二、關東州

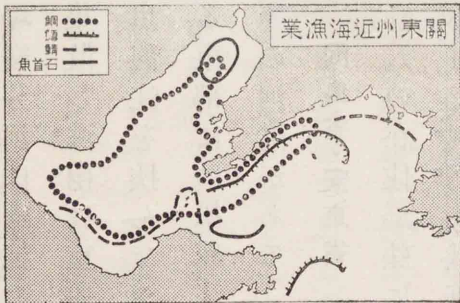
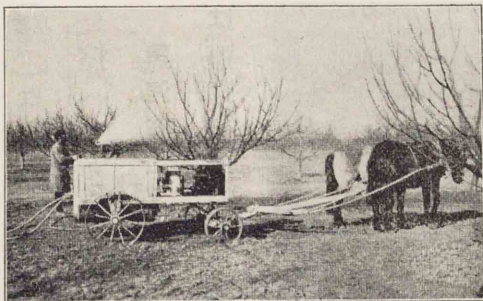
遼東半島の南部を占め、滿洲平野の重要な門戸

である。域内は殆ど全部が

丘陵性であるが、土地はよく耕され、高粱、玉蜀黍、果實等を出す。沿海は天日製鹽が盛で、貔子窩、普蘭店、雙島灣等には鹽田が多く、近海は漁利が頗る多い。住民の大多數は漢人であるが、都會に



圖解 關東州の果樹園(害蟲驅除の光景)



主要都市 人口(萬)
大連 三
旅順 三

圖解 貔子窩附近の鹽田

大連は自由港で滿洲に對する通過貿易が盛である

圖解 大連の大廣場



は内地人が多く、建築風も殆ど内地の市街と變らない。

大連市は壯大な近代的都市で、大廣場を中心として數條の街路が射出し、港灣の施設も完

備して、

東洋屈指の商港である。

搾油(房油)業

その他の工業も行はれ、又

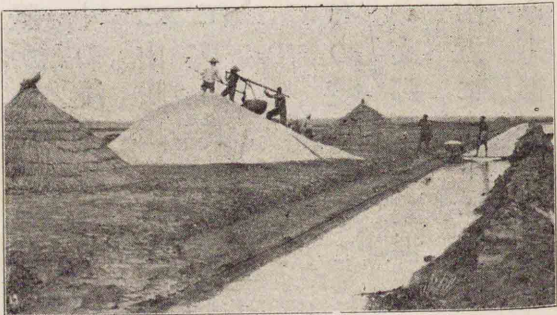
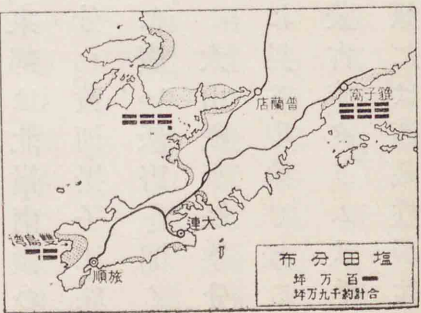
鐵道の「大工場(沙河)」がある。旅順市は天然の良

灣に臨み、關東廳工科大学等の所在地で、又海

軍要港部を置く。この附近には、日清日露の著名な戦蹟が多い。金州は金福鐵道の分れる處

で、紡績工場がある。

ココマデ

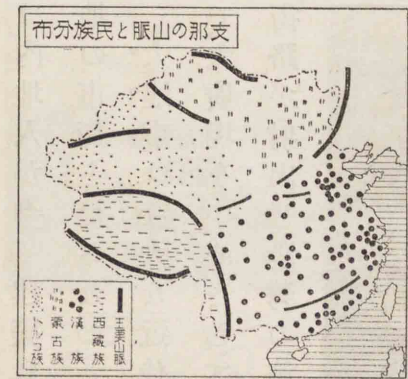


四年

第二章 支那(中華民國)

面積 約九九〇萬方呎
人口 約四四〇〇〇萬
支那の面積はイギリス・ソビエト聯邦の全領土に次いで世界の第三位を占める

地形 支那はヨーロッパの全體よりも廣く、我が國の十五倍に近い大國で、地形上西部高地と東部平野とに分れる。⁽¹⁾西部にはヒマラヤ・トランスヒマラヤ・崑崙等の山脈が、略東西に連つて西藏高原を挟み、西北には高臺性の天山アルタイ・サヤン等の山脈があつて、其等の間にタリム盆地・蒙古高原等の内陸盆地を造り、多くの鹹湖が散在してゐる。東部は北嶺・南嶺の二山脈によつて、三平野に分れ、黄河揚子江珠江等が其處を流れて、流域に廣い沃野を開く。



住民 大山脈が民族分布の境となることは、處々に見る現象であるが、支那でも、蒙古高原には蒙古族、タリム盆地附近にはトルコ族、西藏高原には藏族が住み、東部平野の大部

支那に用ひられる各種の文字で何れも大日本と書いてある(↓は讀む方向)

四	湖	湖	江	安	江	甘	陝	河	山	山	河	(省名)
川	南	北	西	徽	蘇	肅	西	南	西	東	北	(治所)
成	長	武	南	安	鎮	蘭	西	開	太	濟	北	
都	沙	昌	昌	慶	江	州	安	封	原	南	平	
青	新	古	蒙	內	別	廣	廣	福	浙	貴	雲	(省名)
海	疆	寧	綏	察	察	西	東	建	江	州	南	(治所)
西	迪	寧	歸	張	打	南	東	福	杭	貴	雲	
寧	化	夏	化	家	箭	寧	東	州	州	陽	南	

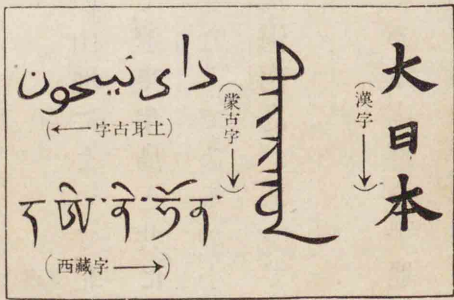
分は、漢族の占める處である。

此等多種の民族は、夫々異なる文字や言語を用ひ、風俗習慣等にも違ひがあるから、意志の疏通が行はれず、國家の統一が極めて困難で、最近に滿洲が獨立した外、尙自治の地方や、他國の勢力下に屬する處が少くない。

政治 一九一二年の革命により、

清朝を倒して國號を中華民國と改め、共和制を布いたが、軍閥の争亂が絶えず、最近は國民政府が、略その治權を握るに至つた。

國民政府は、一人の首席委員と、十餘名の委員とから成る國務會議を最高機關とし、行政立法司法考試監察の五院があつて國務を處理する。行政院は十部に分れ、各部は我が國の省に相當する。地方は支那本部の十八省に、内蒙古・新疆・青海等を加へて二十四省に分け、各省に省政府がある。外蒙古・西藏に對しては、委員會を置いてゐる。



が前者はロシア、後者はイギリスの勢力が加はり、自治又は半獨立の姿で、本國の政令は行はれてゐない。支那の軍制では、國民政府が陸軍・海軍・空軍を統率することに定められてゐるが、實際は軍閥の私兵たる觀がある。陸軍の兵數は頗る多いが、專内争の具となり、海軍・空軍は何れも未だその實を備へてゐない。

區分 本書は便宜上、舊來の區分により、支那本部と蒙古・新疆・青海・西藏とに分ける。

一 支那本部

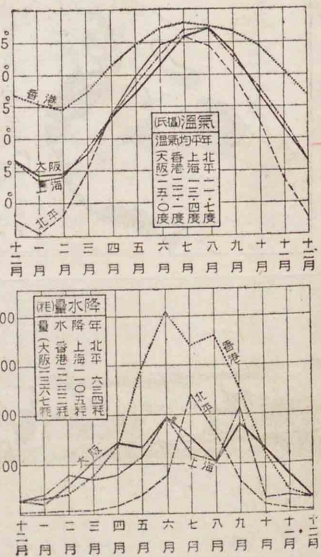
土地 支那全土の約三分の一を占め、北嶺・南嶺の山地によつて、北部・中部・南部に分ける。海岸は北部に山東半島が出て、遼東半島と共に渤海を抱へ、東支那海・南支那海の沿岸は、一大弧狀をなしてゐるが、小屈曲があつて處々に良港を造り、南部には雷州半島・海南島があつて東京灣を圍む。

氣候 土地が廣いから、氣候は處によつて違つてゐる。南部の平地は、高温・多濕で熱帶植物がよく繁茂し、中部は最も溫和であるが、南部と

共に屢、大風に襲はれることがある。北部は大陸性で、寒暑の差が烈

しく、黄河以北の河川は、冬季悉く凍つて、人馬はその上を往來する。

支那本部の大部は、季節風帯に屬して、夏に雨が多く、冬は乾燥する。季節風の襲來が後れるか、又は雨を運ぶことが少いと、早魃となり、又降雨が過大であれば、河水が氾濫して洪水を起す。黄河揚子江の洪水は、古來この地方の住民を苦しめたもので、古代の名君が、治水を爲政の大業としたのもその爲である。



産業 住民は農を主業とし、産物の種類が甚だ多く、中でも中部・南部の米

茶・綿、北部の大豆・高粱・小麥・綿等は、最も主要なものである。この他落花生・胡麻・菜

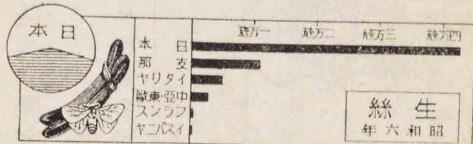
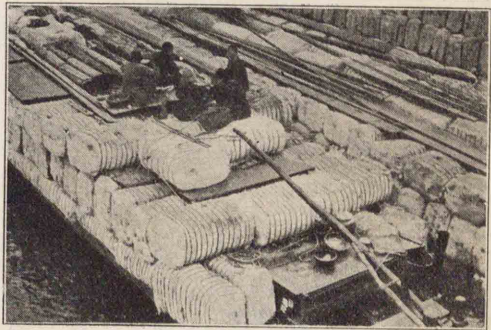


天津港内に於ける綿の輸送船
四川省にも養蠶が盛である

柞蠶絲は織物用として我が國へも来る

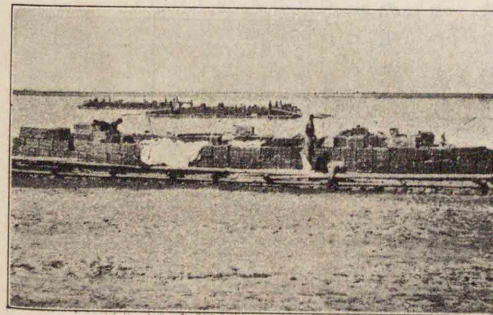
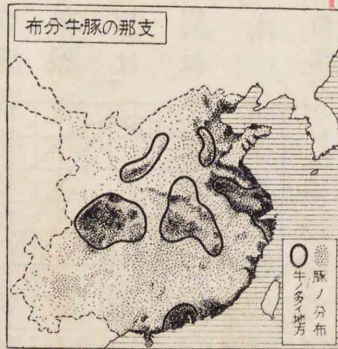
羊毛の運搬

豚毛は刷毛用として我が國へも来る



重要な産地である。山東半島では、柞蠶を飼つて、柞蠶絲を出す。

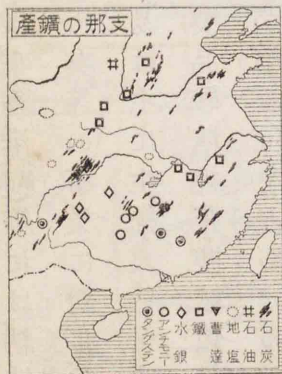
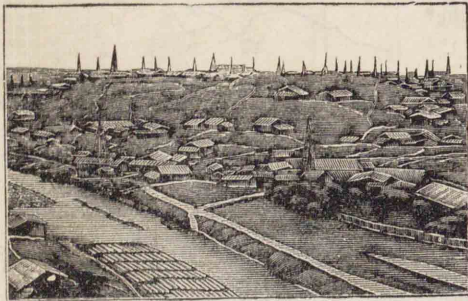
牧畜は小規模ながら、農家の副業として廣く行はれ、殊に豚は國民の嗜食物で、到る



鶏卵は生卵で輸出する外之を以て蛋粉を製する

石油も列國から注目されてゐる

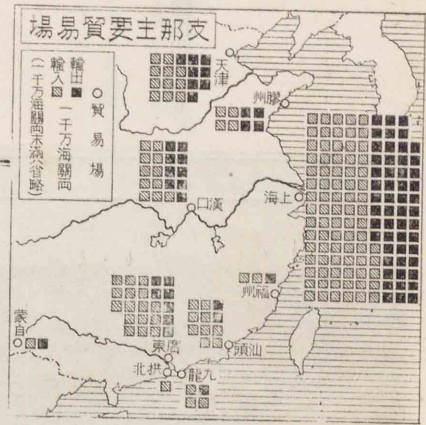
四川の鹽井



處に飼はれる。北部では羊牛等を飼ひ、天津は羊毛の輸出港で、山東半島は青島から日本へ送られる。中部北部では養鶏が行はれ、上海天津から輸出される鶏卵は頗る多額に上る。

礦物の埋藏は多いが、採掘は未だ進まない。而もその多くは外國人の經營に屬してゐる。鐵は大冶(中支)を始め、桃冲(中支)、鳳凰山(中支)、金嶺鎮(北支)等から産し、此等の鑛山は、我が國と特別の關係がある。石炭は開平、淄川(北支)、萍鄉(中支)等から採掘され、その他、錫、アンチモン、タンングステン、水銀、亜鉛等の産も多く、西部山地は食鹽(井鹽及地鹽)を産する。

手工業は國人の長所で、各種の織物、陶器、漆器、紙等を出す。機械工業の發達は後れたが、近年上海を中心として、長江沿岸及び天津



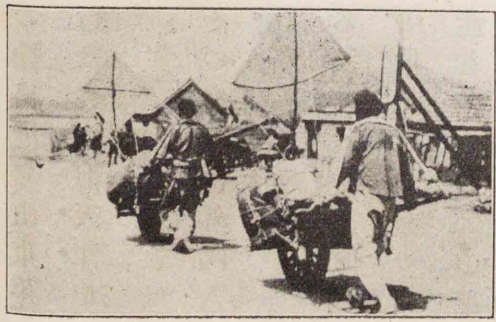
青島・廣東・香港(英)等には、紡績製粉造船等が行はれ、我が國人も其等の事業に對し、重要な地位を占める。
 貿易は主に生絲・大豆・豆粕・鶏卵・畜産品・茶等を輸出して、綿製品・砂糖・棉花・機械類・雜貨等を輸入する。取引は我が國が第一位を占めてゐたが、最近日貨排斥の影響を受けてゐる。我が國からは綿製品・砂糖・石炭・紙・水産物等を輸入し、大豆・綿綿等を輸出する。上

原料供給國でありながら輸入超過が常態である

圖一 輪車

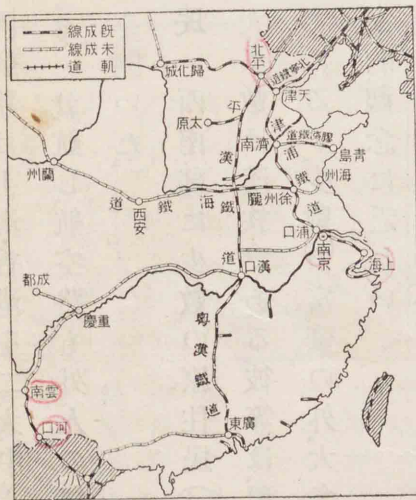
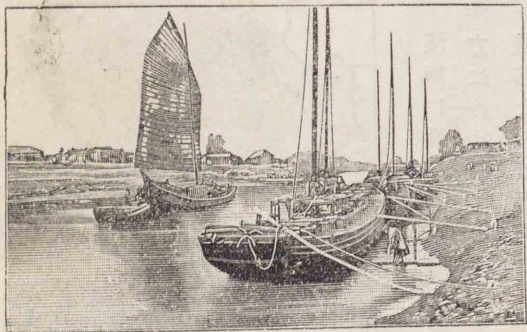
蒙古との間には駝が用ひられる

海と廣東とは貿易が最盛で、香港を加へて三大中心とし、漢口・天津・青島等が之に次ぐ。この他海岸河岸等には、多數の貿易港があり、國境附近には處々に開市場がある。
 交通 中部・南部では、河湖の水運が便利な爲、古くから多く舟を用ひ、北部では馬・駱駝等の駄獸を用ひたから、南船北馬の語がある。又荒廢せる道路



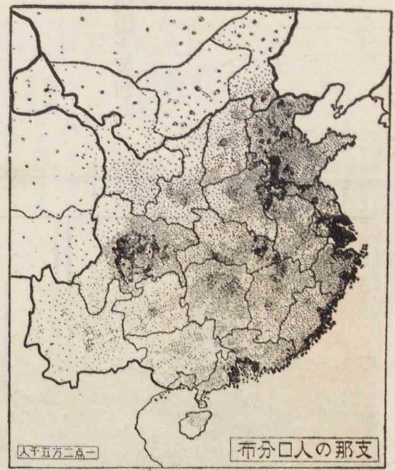
- 1 北平・山海關間
- 2 北平・漢口間
- 3 武昌・廣東間 (中間未成)
- 4 天津・浦口間
- 5 青島・濟南間
- 6 北平・包頭鎮間
- 7 徐州・陝州間
- 8 上海・南京間
- 9 雲南・河口間

圖二 大運河



に適する輪一輪車等を廣く用ひるが、自動車も近年稍増して來た。鐵道は次第に發達したが、多く外國の資本によつてゐる。北寧¹・平漢²・粵漢³・津浦⁴等の諸線は、南北に走る大幹線で、膠濟⁵(東山)・平綏⁶・隴海⁷(蘭海)・京滬⁸等の諸線は、何れも東西に走り、又雲南⁹越¹⁰線は、印度支那の鐵道と連る。河湖の水運は、揚子江系に最盛で、珠江も南部の交通を助ける。白河は冬季凍結の缺點はあるが、下流は大船を入れ、又大運河によつて中部と連絡する。

大運河は天津・杭州間の約一千二百軒を通じ、永く水運の便を與へた名高い大工事である。今は著しく荒廢し、北部には殆ど埋没した處もあるが、南部では尙相應に利用されてゐる。



外國航路は、上海・香港を二大中心として、日英の船が最も多く就航し、航空路も外人の經營によつて、近年端緒を開いた。

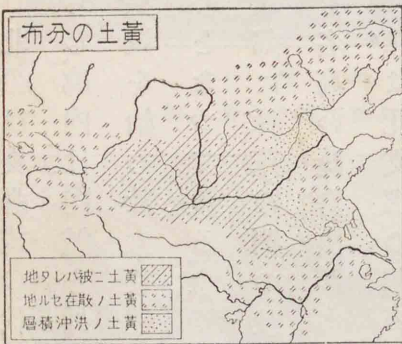
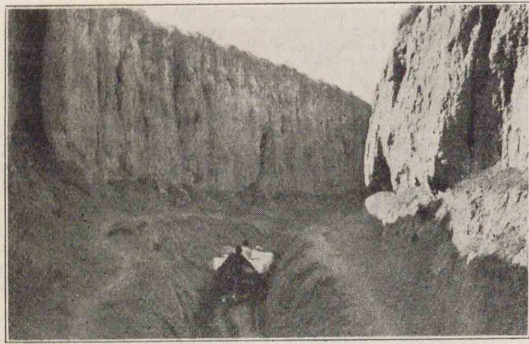
住民 西南部に少數の原住民（苗族^{その他}）を見る外、住民の大多數は漢族である。彼等は、現在支那の實權を握つてゐるが、少數の富豪の外、大多數が貧窮の農民で、國家的觀念に乏しい。

言語は違つても文字は漢族共通である。

漢族は性質が勤勉で、營利上の團結心に富み、海外に出稼する者が多く、その南洋地方に於ける者は、華僑と呼ばれ、經濟上に相應の勢力を持つてゐる。支那移民は、その通弊として貨殖に熱中し、勞役等は殆ど選ばない風があるので、白人勞働者との調和を缺き、彼等の植民地では、熱帯地方の外、その移住を拒絶する處が多い。

漢人の言語には方言が多く、標準としてゐる官話にも、尙數種がある。宗教は儒教、道教、佛教等が行はれ、孔子の教が專。道德の標準となつてゐる。學問は夙に發達したが、古聖の遺書を教へるのみで、科學研究は進んでゐない。近年文明國に模して、教育制度を改め、文化の開發を

圖解黄土の堆積とその侵蝕された峽道



圖つてゐる。古來の弊習である女子の纏足は、次第に廢れたが、阿片吸飲は、尙容易に改らな^{テソツク}い。

處誌〔北部支那〕主として黄河、白河の流域を占める六省（河北、山東、山西、河南、陝西、甘肅）の地で、之を地理的に分けると、北支那平野、山東半島、黄河中流の地方、西部山地の四區となる。



黄河は支那第二の大河で、その沿岸は支那文明の發祥地であるが、洪水の爲に古來屢、河道を變へ、水運の便は割合に少い。この流域には、黄土が堆積して厚層をなし、河水が之を流す爲に、その水は常に黄濁し、又その侵蝕による峽谷は、交通路に利用され、潼關（西陝）、函谷關（南河）等の峽道は、その著しいものである。



北平の外壁

代表的城市の北平の外壁の高さ六米に餘る

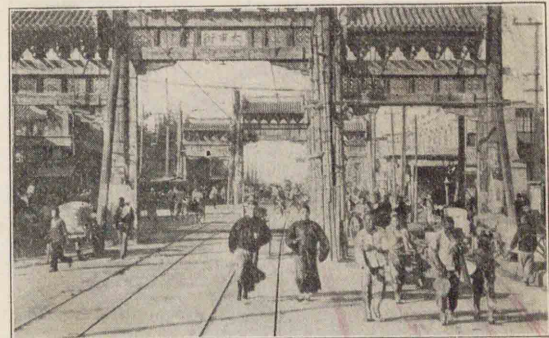


上海の江岸

中華の部とドンの呼ばるれば方面の偉観であらう

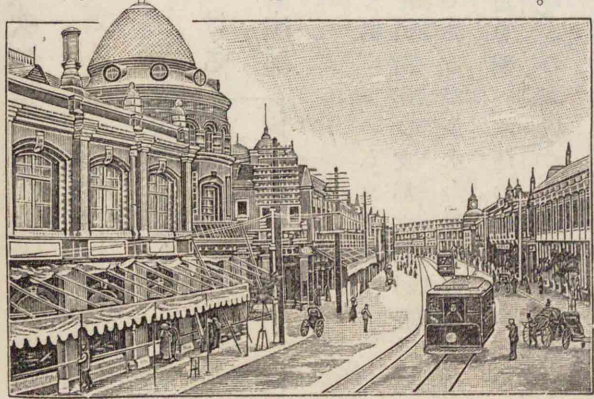
主要都市	人口
天津	二,一〇〇,〇〇〇
北京	一,八〇〇,〇〇〇
上海	一,七〇〇,〇〇〇
漢口	一,五〇〇,〇〇〇
廣州	一,四〇〇,〇〇〇
重慶	一,三〇〇,〇〇〇
長沙	一,二〇〇,〇〇〇
南京	一,一〇〇,〇〇〇
蘇州	一,〇〇〇,〇〇〇
青島	九〇〇,〇〇〇
杭州	八〇〇,〇〇〇
西貢	七〇〇,〇〇〇
濟南	六〇〇,〇〇〇
開封	五〇〇,〇〇〇
寧波	四〇〇,〇〇〇
厦門	三〇〇,〇〇〇

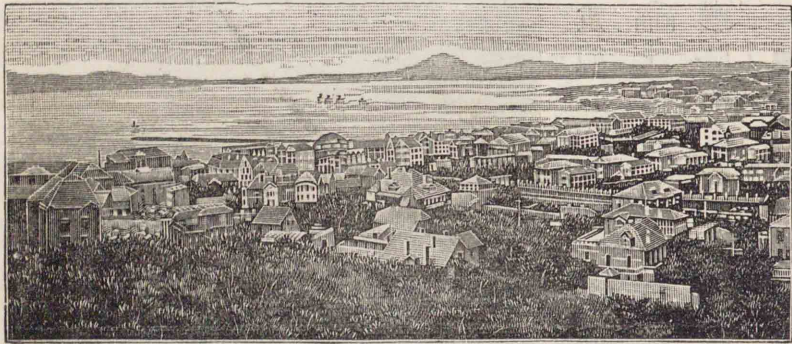
天津に於ける日本租界の盛観



北平は支那式の代表都會で、壯大な城壁を繞らし、廓内は内城と外城とに分れる。内城には舊皇城を始め壯大な建物が多く、外城は商業の中心となつてゐる。永く本國の首府であつた處で、北郊に林苑殿閣の壯麗で名高い萬壽山がある。天津は北支那の門戸に當る商港で、新式工業も行はれる。秦皇島は渤海の不凍港で、開平炭積出の要地を占め、山海關は主要な國境町である。

(2) 山東半島は形勝の位置を占めるから、近年までドイツは膠州灣を、イギリスは威海衛を租借してゐた。北部の芝罘は、榨蠶工業の



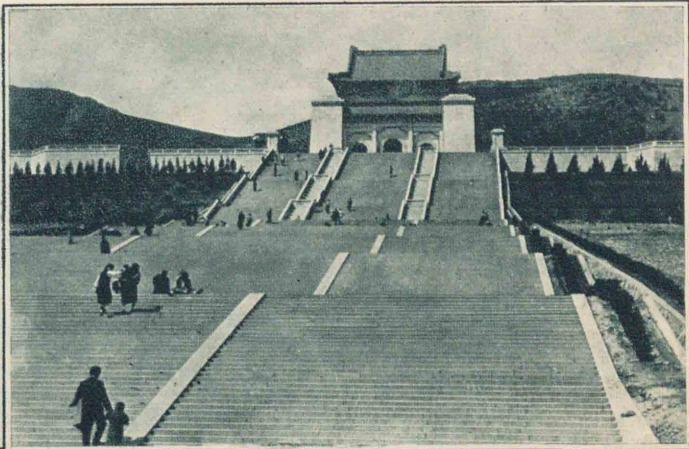


青島は大連に比すべき大商港で、農産畜産の輸出が多く、邦人の經營せる各種の工場もある。膠濟鐵道は此處から濰縣周村等を通じて濟南に至る。濟南は政治經濟の中心で、南方に古來著名な泰山や孔子廟のある曲阜がある。開封は黄河の屈

中心である。

ドイツは膠州灣に青島の港市を經營し、膠濟鐵道を敷設して、東洋に於ける根據地としたが、世界大戰の際我が軍が此處を占領し、後に之を支那に還して、淄川の炭坑と金嶺鎮の鐵山とを合辦經營することになった。英國も最近に威海衛を還附したが、劉公島は英國海軍の避暑地として、來艦投錨を許すことになつてゐる。

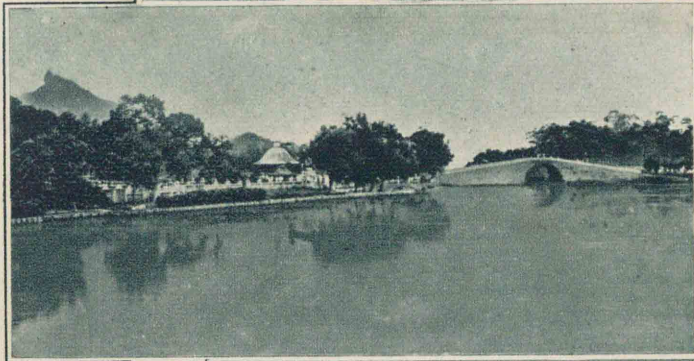
南京の中山陵



三民主義の始祖孫文の廟所で、墓は門の奥に半球狀に築かれてゐる

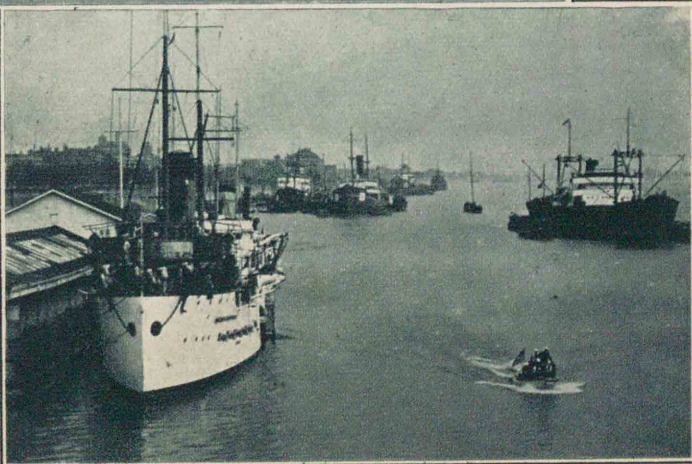
西湖の西冷橋

湖中の小島孤山へ通ずる橋で、この邊の景趣は湖畔の最といはれる



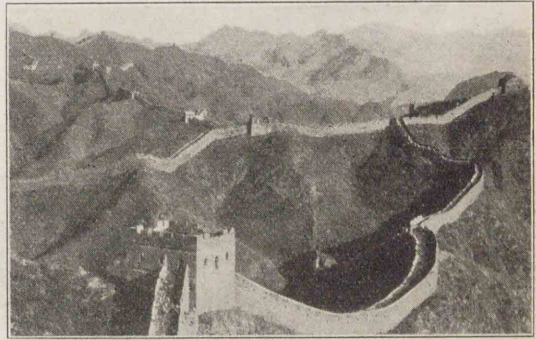
漢口の埠頭

漢江が長江と合する北岸を占め江畔第一の商港である



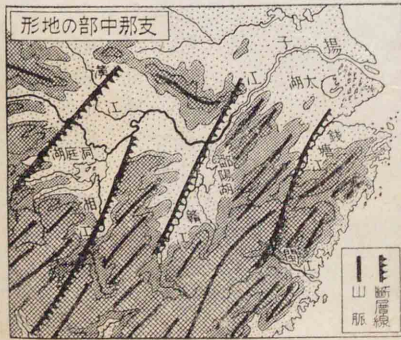
萬里長城

山海關



曲點にあつて、古來屢、水害を蒙つた處である。西方の河南は、一に洛陽といひ、西安は一に長安といふ。何れも屢、國都となつたことがある。(4) 西部山地は、經濟上の價値は多くないが、古來國防上に

重視された處で、名高い萬里長城は、渤海の沿岸(山海)に起り、約三千料を距てた甘肅省の西部(關)に達する。蘭州は西部交通の要地である。
〔中部支那〕 主として揚子江の流域に屬する八省(江蘇、浙江、安徽、江西、湖南、湖北、四川、西康)の地で、各種の産物に富み、



經濟上の中樞となつてゐる。之を地理的に分けると、揚子江下流の平野、中流の諸盆地、四川盆地、西部山地の四區となる。

揚子江の峽流 (民船の溯航には多くの人が竹綱で曳く)

上海の一部 (支那街の光景)

上海は國際都市の觀が著しく都市の主要部も工場も多くも外人の經營である



揚子江は支那第一、世界第四の大河である。漢江を始め大支流が多く、洞庭湖、鄱陽湖等の水も之と連る。流域は支那本部の半を占め、舟楫灌漑の便が多く、漢口(千)までは洋航船も溯り、宜昌(四)までは一千噸の船が溯る。宜昌の上流には、所謂三峽の險があつて危険は多いが、五六百噸の船は重慶、叙州(叙州は宜昌から九百六十料)に至り、民船は成都へも達する。この河系には上海、漢口を始め開港場が多く、我が日清汽船會社は、處々に定期航路を開いてゐる。



吳淞に近い廟行鎮は我が三勇士の義烈に名高い處である

蘇州は吳の舊都で附近に楓橋・姑蘇山・寒山寺等の名地がある

南京は三國時代の建業、明代の應天府である

關南京埠頭(下關)の光景

錢塘江の河口は海嘯の奇觀で名高い

杭州の東南に當る紹興は紹興酒の名産地で南方の温州は蜜柑の産地がある

漢口の新市街



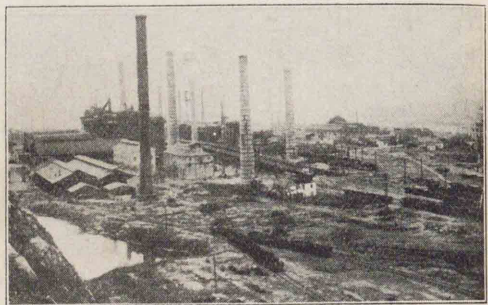
畔の吳淞は市の一部である。蘇州は附近に名勝が多く、無錫、鎮江等と共に、養蠶機業の中心である。南京(江)は舊都の地で、又現在の首府である。古來文雅の地として名高く、その港を下關といひ、對岸の浦口と鐵道連絡船を通ずる。

蕪湖、安慶は米の集散が多く、杭州は西湖を控へて風景が好く、屈指の商工都市で、絹織物を多く出し、寧波は昔時我が國と交通上の要地であつた。

揚子江と漢江との會流點は、軍事上交通上の要地で、此處に漢口、漢陽、武昌の三市が鼎立し、江畔第二の商工業區をなしてゐる。漢口は貨物の集散が盛に行はれ、漢陽には製鐵所がある。大冶



漢陽の製鐵所



鐵山は東南に當る。九江は茶の輸出が多く、景德鎮は陶器の名産地である。岳州は洞庭湖に臨んで勝景に富み、長沙と共に重要な港市で、この上流に沙市、宜昌等の商港がある。

である。

〔南部支那〕

大部は

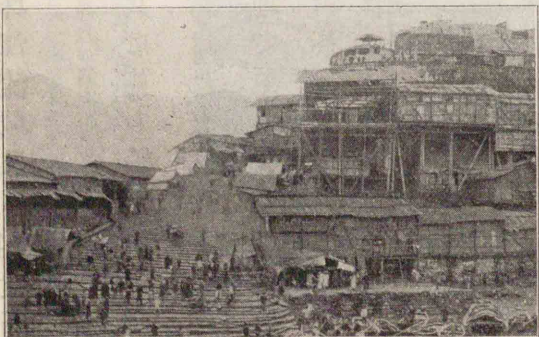
南嶺以南にある五省

(福建、廣東、廣西、雲南、貴州)の地で、珠

江、閩江等が此處を流

れる。この地方を地理

重慶の江岸(水の増減に適應するやう石段になつてゐる)



廣東の江岸
（河中の船は蠻族
の水上村落）



上から分けると、閩浙海岸珠江流域及び雲貴高原の三區となる。

(1) 福州は東北の三都澳と共に、茶の輸出が多い。厦門は茶砂糖等の輸出が行はれ、又汕頭と共に海外出稼人の主要な出發地である。廣東は南部第一の商港で、生絲絹織物茶等を集散し、工業も行はれる。この上流に梧州南寧等がある。貴陽と雲南とは、共に内部にあつて、交通が不便である。

ビクトリヤ 英萬

佛國はワシントン
會議の際廣州灣還
附を聲明した

香港は廣東灣外の小島で、英國は本島の外、對岸の九龍半島を領土とし、且その附近の土地を租借した。香港の港市をビクトリヤといひ、中繼貿易が盛に行はれ、各種の工業も發達して、英國の經濟的策源地たると共に、又東洋艦隊の根據地である。澳門はポルトガルの領土で、昔は繁盛を極めたことがある。廣州灣はフランスの租借地である。

Victoria

マカオ（澳門）

珠江と廣東

水面には多數の船が浮び江岸には
大廈高樓が列んでゐる

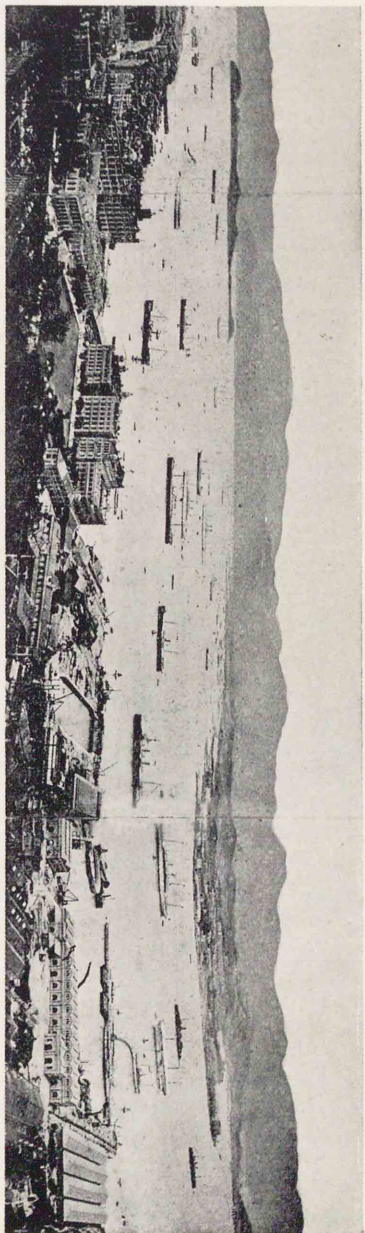


福州の船部落
南支には蛮族の水上生活を營む者
が多く圖はその一部の光景

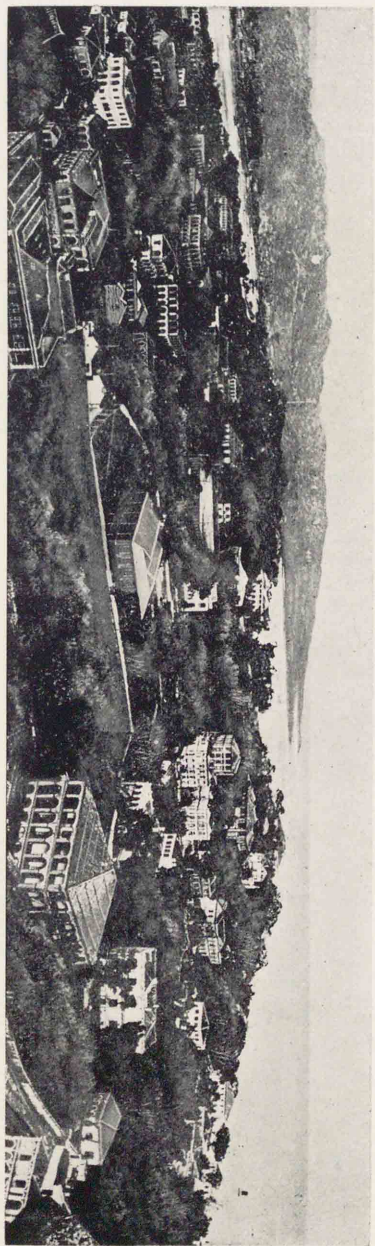


雲南の市街

三千餘米の高原上にあつて市内は
廂の長い木造家屋が列んでゐる



觀 大 の 港 香
るあで島牛龍九はのえ見に透てて隔を海でヤリトクビは街市い近



觀 景 の 門 厦
るあてし左點が南洋に中き深陰綠で觀景の界垣英るれはいと土樂の支南

二 西藏・青海・新疆・蒙古

西藏は世界第一の高原で、鎖國主義を採り、住民の多くは喇嘛教を信じ、**犛牛**・**羊**等を遊牧する。喇嘛教主は英國の助を受けて、政教の權を

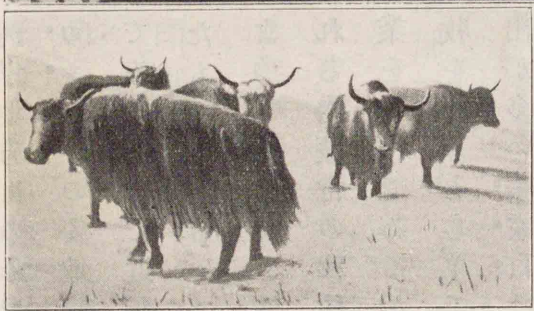
握り、**拉薩**には喇嘛教の大殿堂がある。**亞東**は國境の市場である。

青海も一帯に山地で、住民は多く遊牧を營む。近時支那の一省となつた。

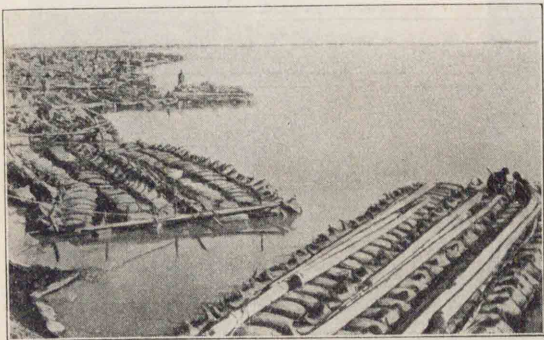
新疆は天山山脈によつて、南北に分れる。北部には農牧が稍行はれ、**迪化**・**伊犁**等はその中心である。南部にはタリム盆地があつて、**タクラマカ**

圖 拉薩の郊外にある喇嘛の殿堂
圖 犛牛

迪化は一に烏魯木齊とも呼ばれる。タリム盆地の聚落は多く山麓にある。



圖解 獸皮の筏(上に獸皮・獸毛を積んで運ぶ)



ン沙漠を抱き、山麓の河岸地方にのみ農牧が行はれ、西境にカシガル・ヤルカンド等の要地がある。この地方は、昔文化の發達してゐた西域で、近年沙漠中から、その舊址の發掘されたものがある。

蒙古はゴビ沙漠によつて、内蒙古と外蒙古とに分れる。内蒙古の移住漢人は、概して農業を營んでゐるが、蒙古人は遊牧をこととし、羊毛・羊皮等の産出が多い。張家口は長城の一路に當り、歸化城・包頭鎮等と共に、平綏鐵道の要驛である。外蒙古は獨立政府を立てて、勞農ロシヤの勢力下にある。首府庫倫(ウラハブ)は、喇嘛教の中心で、沙漠横斷の要路に當り、賣買城は國境の市場である。



列強との關係 支那本部に領土又は租借地を有するのは、英・佛・葡の三國で、經濟的に勢力のあるのは、日・英・米の諸國である。列強は主要都市に、支那主權の及ばない租界を持ち、又治外法權關稅制限・内水航行權・駐軍權等、不平等の利權を有してゐる。近年國權回復の運動が盛になつて來た。我が國とは、歴史的・文化的に關係の深いのは勿論であるが、近年各地の紡績工場や鑛山等に投資し、長江水運の實權を握り、又鐵道に投資する等、經濟的にも密接な關係があり、従つて貿易取引は列國の首位にあるが、近年屢、排日・排貨等が行はれるのは、兩國の親交上甚だ遺憾である。

第三章 南部アジア

印度・印度支那の二大半島と、マレー諸島とを含み、本洲では東部アジアに次いで、各種の産業が發達してゐる。

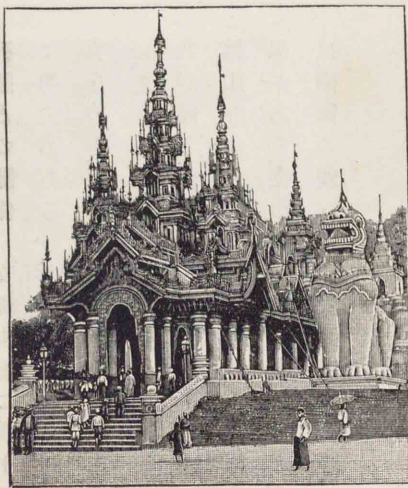
第一節 印度支那

Indo-China

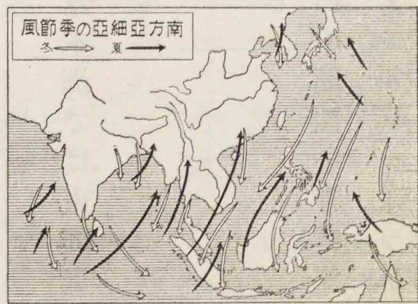
支那の南方に續き、自然・人文共に、支那と印度との中間性を帯びてゐる。印度支那山脈と呼ばれる地塊が、メコン・メナム・サルウィン・イラワ

Mekong, Menam, Salwin, Irrawaddy

面積 約七四萬方呎
人口 約二一五〇萬
圖 暹羅ビルマにある一寺院
南京米と稱して我が國に輸入される外國米は概してこの地方に産する



チ等の諸川によつて掌狀に分たれ、その一派は、延びてマレー半島となり、シヤム灣を抱へてゐる。氣候は熱帶性で暑く、殆ど全部が季節風帯にあつて、明に乾濕の二季に分れ、概して夏に雨が降り、南部にはマレー族も住んでゐるが、住民の大部分は印度支那族で、深く佛教に歸依し、壯大な寺院が處々にある。政治上は英佛の兩國が東西の大部分を占め、中間のシヤムのみが、獨立を保つてゐる。

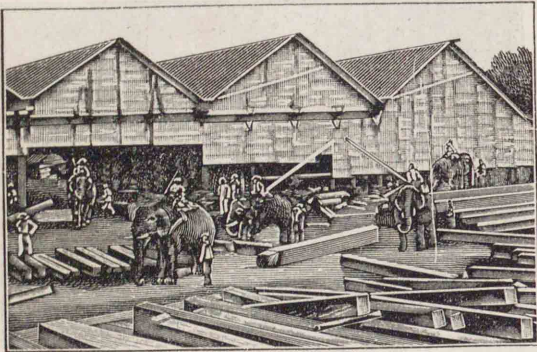


— 洲 ヤ ジ ア — 116

佛領印度支那 佛國の重要な領土で、交趾支那の植民地と四保護地(キンアン、ボヂヤ、ランオス)に分れる。北部のソンコイ河流域には、米の産が多く、ハノイは總督の駐在地で、外港のハイフォンは、米の

面積 約五二萬方呎
人口 約一七〇萬
宗教上の關係から白象は特に崇拜される
パンコク 三三萬

圖 暹羅家の木材運搬
面積 約七四萬方呎
人口 約一六五〇萬
ラングーン 四〇萬

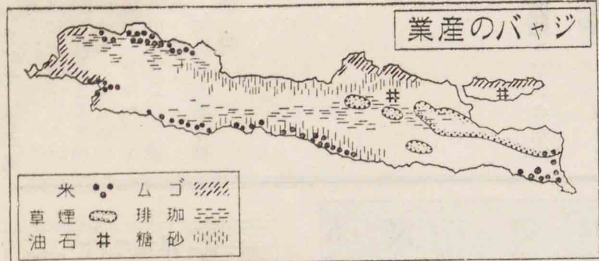


積出が盛である。南部のサイゴン(Saigon)は、米の輸出が多く、領内第一の商港で、又佛國艦隊の根據地である。

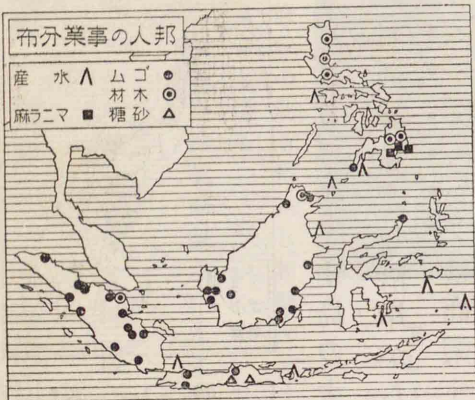
シヤム(暹羅) メナム河の流域は多く米を産し、北部からはチーク材を出す。象は水牛と共に重要な家畜で、運搬や耕作に使役される。この國は立憲王制を採り、近年先進國の文明を容れて、諸般の改良に力を注いでゐる。首府バンコクは、パトナムを外港として

米の集散が多く、北方のキャンマイは、チーク材取引の中心地である。

英領印度支那 ビルマ、海峽植民地及びマレー聯合州等に分れる。ビルマは政治上印度帝國(Malay States)の一部で、米、チーク材、石油、紅玉等を産する。ラングーンは米の輸出が多く、マンダレーは王國の舊都である。マレー半島は護謨及び錫の世界的大産地で、我が邦人で、この地方に護謨園を經營

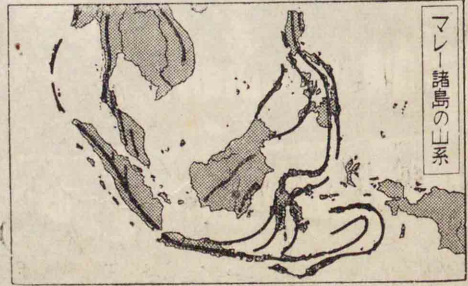


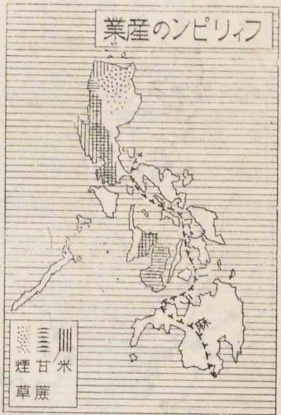
規那は世界全産の約三分の一を出す



し、雨量は多いが、海洋の調和と日々の驟雨とにより、気温は割合に高くない。開拓は未だ進んでゐないが、椰子樹・香料・籐等の熱帯植物が繁茂し、又護謨・砂糖・煙草・珈琲・規那等の大産地である。域内の大部分はオランダの領土で、ボルネオ島の北部はイギリスに、フィリピン諸島はアメリカ合衆国に、チモール島の東部はポルトガルに属する。

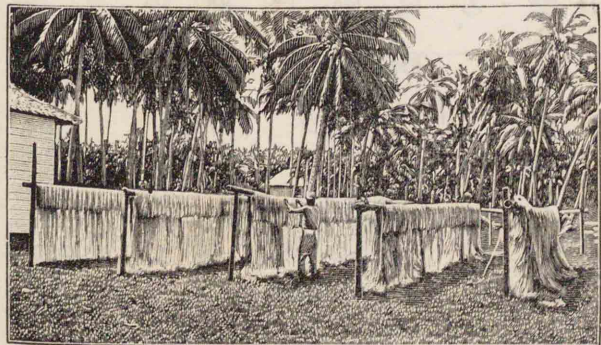
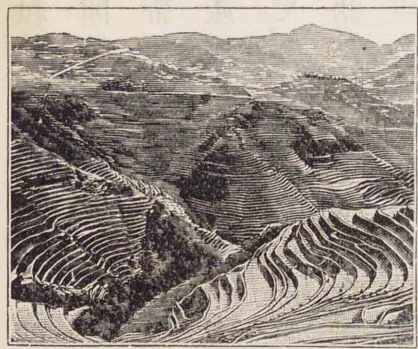
スマトラ島は、護謨・煙草・胡椒・石油等を出し、メダンのパレンバンは商業の要地である。附近のバンカ島・ビリトン島は、共に錫の産が多い。ジャワ島は砂糖の大産地で、その他規那・珈琲・煙草・茶・護謨等の産が多く、南洋の寶庫と呼ばれ、人口も極めて密





も呼ばれる。ボルネオ島の大部は未開であるが、護謨・石油等を産し、沿岸からは燕窩の特産を出す。バン・ジ・エル・マシンは商業の要地である。英領部からは多く護謨・サゴ米等を出し、タワオは邦人栽培業の中心である。

○ **フリピン諸島**は多くの島々から成り、最大のルソン



蘭領ルソンの水田
蘭領マニラ麻の乾燥

フリピン諸島は面積約三〇萬方、人口約一二四二萬

マニラ 三萬

蘭領マニラ

面積 約四六八萬方
人口 約三五二〇〇萬
右の内ビルマ及び
ベルチスタンの面
積は約九五萬方
人口は約一五八六
萬

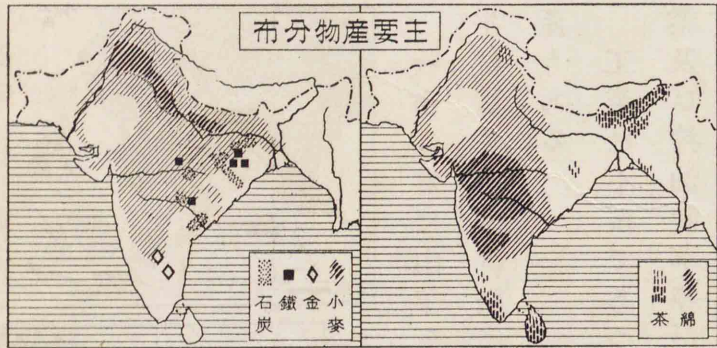


ン島は田園がよく開けて、米・砂糖・煙草等の産に富み、南部はコプラ・マニラ麻の大産地である。首都マニラは交通・商業の要地で、貿易が盛に行はれ、附近のカビテは海軍の根據地である。ミンダナオ島のダバオは、邦人の經營する栽培業の中心である。この諸島は、種々の點で日本と關係が深い。

マレー地方と日本 マレー半島とマレー諸島とを併せて、マレー地方といふ。所謂南洋の主要部で、南洋諸島に對して表南洋とも呼ぶ。我が國との關係が深く、邦船は頻繁に彼我の間を來往し、粗糖・マニラ麻・煙草・鐵礦等を我が國に輸入して、我が國が綿製品・絹織物・雜貨等を送ることが少なくない。又我が國が移民地として、現に約三萬の邦人が在留し、種の植栽業・林業・商業及び水産業等に當る者が多い。

第三節 印度及びセイロン島
地形 地形上から北境山地・ヒンドスタン平原及び半島部の三區

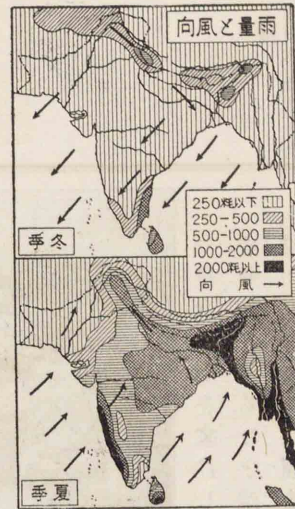
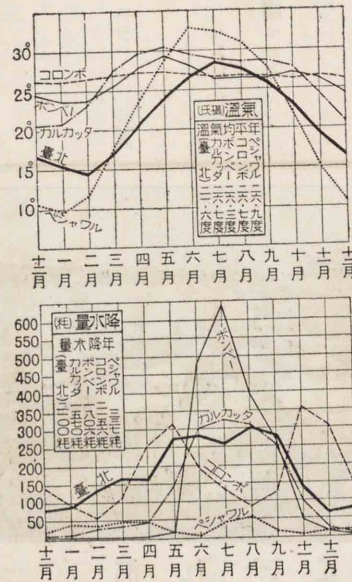
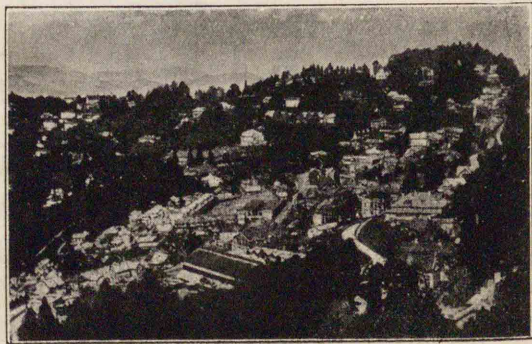
圖解ヒマラヤ山腹のダージリン
 悪疫は多く夏に流行するからこの季節には山地冷涼の地に移住する者が多い



を運んで雨が多く、アッサム地方は世界第一の多雨地といはれるが、冬は半島の東南部以外には、

降雨は殆どない。西部は四時乾燥して沙漠性の處が廣い。低地は一般に暑く、悪疫も屢、流行するが、高地は冷涼で、ヒマラヤ山腹のシムラ・ダージリン等は、著名な避暑地である。

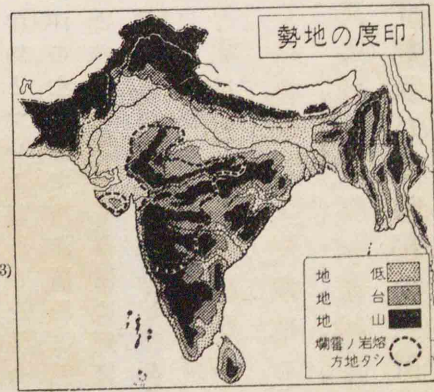
産業 住民の大部は農業に従事し、ガンジス・ブラマプトラの流域は、米・黄麻・油種子・茶・砂糖等の産が甚だ多く、パトナは農産物の大集散地で、カルカッタはその門戸である。インダス河流域も、近年灌漑設備が進んで、小麦の大産地となり、ラ



はデカン高臺と呼ばれる古い地塊で、西北部は廣い熔岩臺地をなす。全體の地形は略、三角形をなし、その周邊が急斜して、山脈状をなしてゐる。

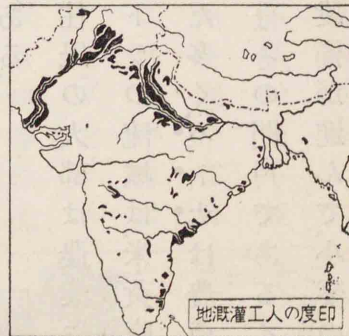
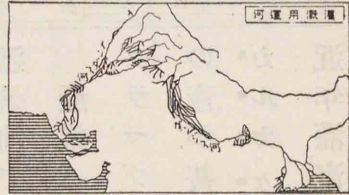
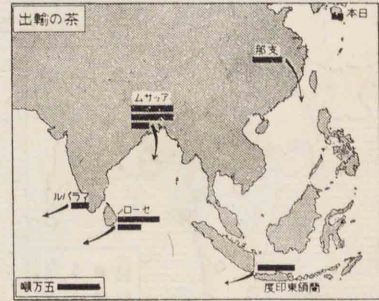
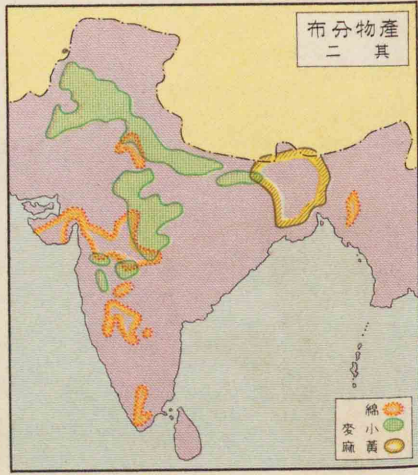
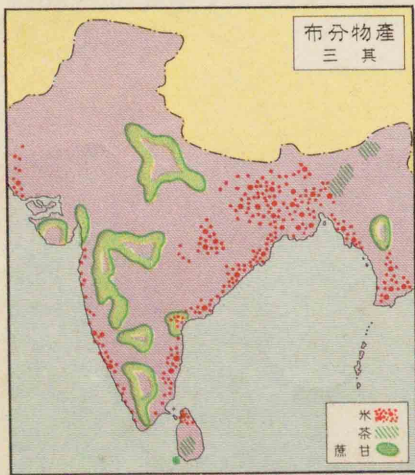
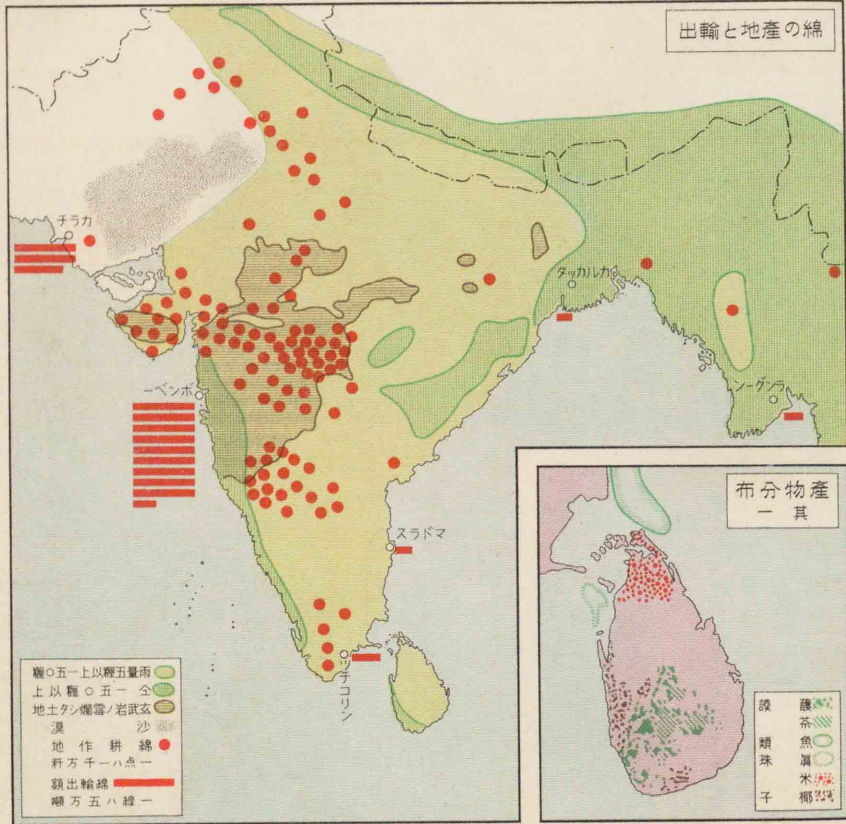
氣候 大部分は熱帶性氣候で、季節風の爲に乾濕の二季に分れる。夏は印度洋上の濕氣

に分ける。北境にはヒマラヤ山脈が連り、世界の最高山エベレストを始め、高峯が多く並んで、四時白雪を戴き、壯大な氷河を懸けてゐる。ヒンドスタン平原は、ブラマプトラ河・ガンジス河及びインダス河等の流れる處で、大部分は地味も肥え、産物も多く、印度の寶庫と呼ばれる。



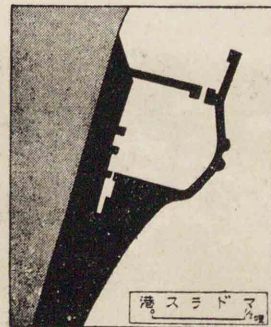
米・砂糖の産額は多いが国内の消費も大であるから殆ど輸出を見ない

例 國 印度 人工港灣の一



大産地で、主としてボンベトから積出される。牧畜は盛に山羊を飼ひ、西北部は羊毛及びカシミール織を出し、牛・水牛は、廣く運搬・耕耘に使役される。石炭鐵等の埋藏も豊富で、又石油の産もある。

工業は不振であつたが、近年綿・麻等の纖維工業及び搾油製革等が次第に發達し、カルカッタとボンベトとは、工業上の二大中心である。貿易は多く農産品畜産品を輸出して、織物そ



ホールの心で、カラチはその門戸である。半島部の海岸地方は、米砂糖茶等を出し、内部は綿の

シンガポールの中心街
 商業的中樞地で、我が正金銀行・三
 井物産・三菱商事等の支店も此處
 にある



マレー地方の村落
 マレー諸島に於ける村落の一例で
 路上には石を敷き人家がその兩側
 に列ぶ

スラバヤの市街
 蘭領東印度第一の貿易地で日本人
 もこの地の商業上に相應の勢力を
 持つてゐる。



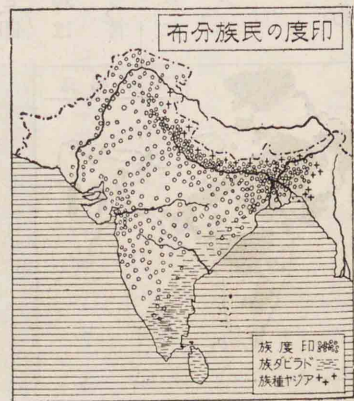
異教徒間の軋轢が甚しく印度の統治上重大な障害となる

印度の土人とその村落



印度族の大部分は印度族(パロ種)で、南部には先住のドラビダ族(マ種)が住んでゐる。印度族は貴賤の階級が厳格で、階級が違へば職業も異なり、婚姻を結ばず、食事も共にしない程である。西部には回教が行はれるが、彼等の多くは印度教を奉じて迷信が深く、所謂靈地が處々に散在し、ガンジス

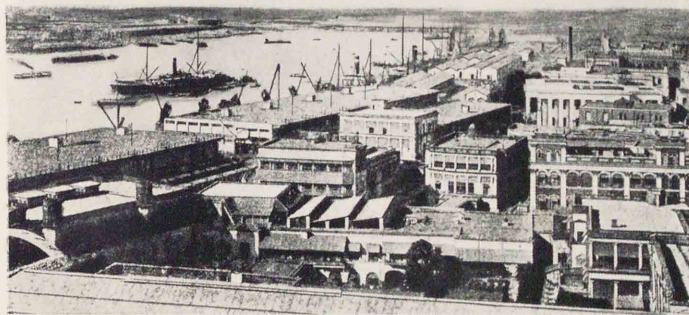
の他の加工品を輸入し、我が國へも多く綿を輸出して、綿絲・絹織・人絹等を輸入する。交通は鐵道がよく整ひ、海岸地形は單調であるが、人工でその缺點を補ひ、カルカッタ・ボンベイ・コロンボ(ロセ)を三大中心として、航路が多く輻輳する。



ボンベイの市街
市廳前に於ける光景、左側の高塔は市廳、右側はビクトリヤ停車場



カルカッタの河岸
フーグリ河に沿ひ農業地方の大門戸として船舶の出入が多い



セーロン島の景觀
路を挟んで長く垂れた氣根の下を異様な幌を持つ馬車が通つてゐる



【圖解】ベナレスの河岸（印度教徒が水垢離をとつてゐる）

佛領

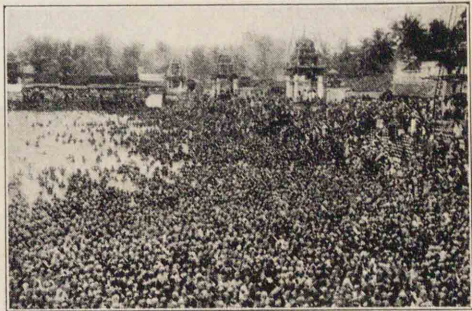
シヤンデルナゴル・ヤナオン・ボンヂシエリー・カリカル・マエ

葡領

ゴア・ダマン・ヂウ

主要都邑 人口（萬）

カルカッタ 一〇〇
ボンベイ 一〇〇
マドラス 一〇〇
ハイダラバード 一〇〇
デリー 一〇〇
ラホール 一〇〇
カラチ 一〇〇
ベナレス 一〇〇



河畔のベナレスは、その最も名高い處である。佛教は印度に起り、ブダガヤは佛都の著名な遺跡であるが、今はセーロン島に行はれるのみである。この地は英國の領土で、ビルマ・ベルチスタンと共に印度帝國と呼ばれ、英國王はその皇帝で、大總督を派遣して之を治めしめ、セーロン島は別に一箇の直轄植民地となつてゐる。

大總督は、行政立法の兩委員會があつて、政治を行つてゐる。

が、近年自治運動の氣勢が盛となつた。地方は直轄地と、印度人の王侯を戴く大小多數の藩邦（土人）とに分れ、藩邦は理事官の監督を受けてゐる。ポルトガル・フランス等も、嘗てこの地に植民したことがあるので、今も半島の處々に小領土を持ち、昔の名残を留めてゐる。その中ポルトガル領のゴアは稍、廣い。

都邑

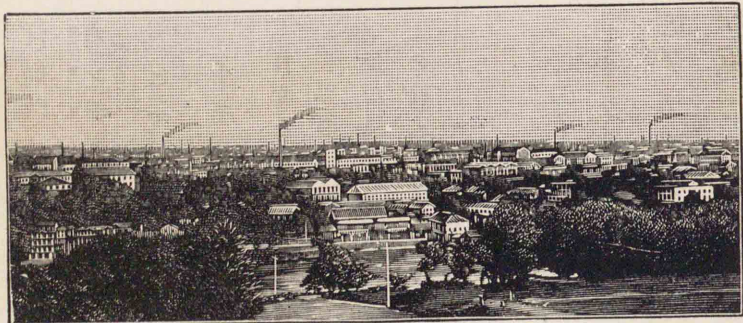
カルカッタはガンジス河の三角洲にあ



【圖解】ボンベイの市街（處々に見える煙突は紡績工場）

【圖解】セーロン島の茶園

セーロンは面積約六萬六千方呎、人口約五三一萬



つて、ヒンドスタン平原の門戸に當り、商工業が盛に行はれ、パटनाは農産物の集散地である。デリーは帝國の首府で、舊市街に壯麗な古建築が多い。ラホールはインダス河流域の中心市場で、ペシャワールは交通の要地に當り、カラチは重要な商港である。西海岸のボンベイは重要な商港で、綿の九割は此處で取引され、又新進の工業都市である。ハイダラバードは大藩邦の首府で、商業が盛に行はれ、マドラスは完全な人工港で、皮革の輸出が多く、南端



に近くチュチコリンの港市がある。セーロン島は大陸との連絡鐵道が、大部分開

二期

通(現在は航路)した。島は全體に山勝ちであるが、茶・護謨・コブラ等を出し、山
地からは寶石・黒鉛、沿海からは眞珠貝を産する。首都コロンボは印度
洋航路の集點に當り、商業が盛である。この島には佛教が盛に行はれ、
カンヂーには有名な佛牙殿がある。
ヒマラヤ山中にネパール・ブータンの二小國がある。共に獨立國で、
イギリスの勢力下に屬してゐる。

日本との關係 この地に興つた佛教は、我が國民精神に著しい影響を及ぼし、未だ
世界の知識に乏しい時代にも、支那と並べて唐・天竺といつた程である。今は貿易關
係が極めて密で、我が商品の輸出先であると共に、我が主要工業の原料たる繰綿
の輸入が多く、大阪商船及び日本郵船は、この地を終點とする航路を開いてゐる。

第四章 西部アジア

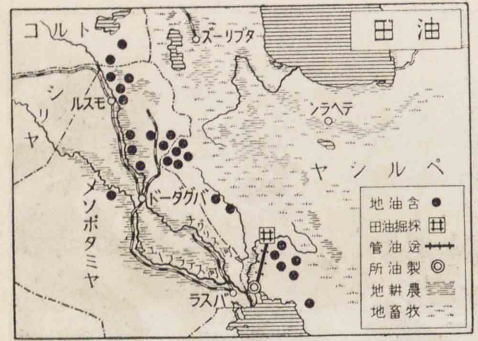
イラン高原及び小アジア・アラビヤ等の高原性半島を含み、その間
にメソポタミヤ低地があつて、チグリス・ユーフラテスの兩河が此處
を流れてゐる。氣候は一般に乾燥で、不毛の土地が廣い。

【圖】ペルシヤ婦人の風俗(外出には顔を隠し長い外套で全身を包む)

イラン地方 イラン地方は、炎熱乾燥
で、内地には沙漠性の處が廣く、住民の多
くは遊牧を營んでゐるが、山麓及び河岸
には、農業も行はれる。この地方は、政治上
アフガニスタン・ベルチスタン・ペルシヤ
に分れる。



アフガニスタンは面積約六五萬方
軒、人口約一二〇
〇萬
ペルシヤは面積約
一六〇萬方軒、人
口約九二〇萬
日本人技師を備つ
て鐵道の建設を急
いでゐる
テヘラン 三五萬



アフガニスタンは立憲王國で、首府をカブール
といひ、隊商通路の要地である。ベルチスタン
の東北部は、印度帝國の一部で、他は英國の保護
を受けてゐる。ペルシヤは立憲制の王國で、近年
力を内治外交の改善に注いでゐる。穀物・阿片・果
實等は重要な産物で、又豊富な油田がある。テヘ
ランはこの國の首府で、精巧な敷物・絹布等を産
し、タブリーズは商業上の要地である。

イラクは面積約三
七萬方軒、人口約
二八五萬

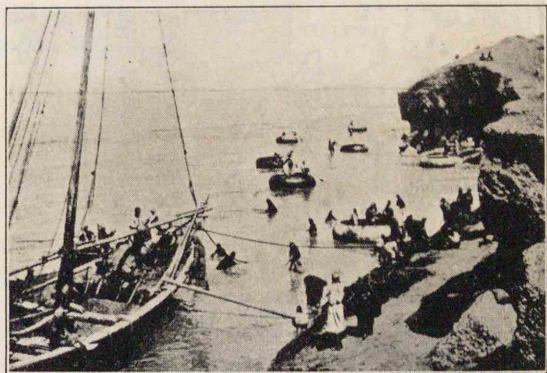
【圖】チグリス河
（圓形の船は棗椰
子の葉で造った籠
に樹脂や泥を塗つ
たもの）

バグダード 二五萬
バグダード鐵道は
コニヤ以南である
が普通は廣義にハ
イダルバシヤまで
を呼んでゐる

面積（歐洲を含む）
約七六萬方軒

人口
約一三六五萬

アンゴラ 七萬



イラク（メソポ
Iraq (Mesopotamia)）メソポタミヤ平野を占め、古
代文明の發祥地であるが、今は土地が荒れて
ゐる。大戦の後、イギリスの委任統治地となつ
たが、今は委任關係を離れて獨立の王國とな
つた。首府バグダードは隊商貿易の要地で、バ
グダード鐵道に沿ひ、モスルの附近には廣い
油田がある。

トルコ
Turkey (土耳其)

トルコは、近時まで歐亞及びア
リカの三大洲に跨る大帝國であつたが、領土
が次第に縮まり、又近年帝政を廢して共和制を布き、首都を歐洲から
アンゴラに移した。アンゴラの附近には牧羊が行はれて、羊毛、山羊皮
等を出し、スミルナは主要な商港である。

キプロス島は以前から英國の領土で、ロードス島は近年イタリヤ
Cypus Rhodes

の領土となつた。

シリヤは面積約一
五萬方軒、人口約
二八〇萬
パレスチナは面積
約二萬六千方軒、
人口約一〇四萬

シリヤ・パレスチナ
Syria Palestine
Damasus

シリヤはフランスの委任統治地で、その中心
地のダマスキスは、隊商の多く集る處である。パレスチナはユダヤ國
建設の豫定地として建設され、英國が委任統治を行つてゐる。世界に
散在せるユダヤ人の故地で、近年歸着せる者が多い。首府エルサレム
Jerusalem

は、キリストの墳墓があるので、信徒の巡拜者が
Christ

多い。ヨルダンの河谷は、世界第一の低い陸面で、
Jordan

その最低所にある死海は、鹽分が濃厚な爲、生物
Dead Sea

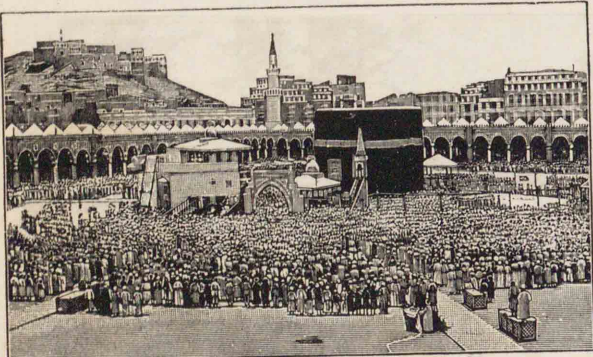
は棲息しない。この國の東にトランスヨルダニ
Trans-Jordan (トランスヨルダン國)

ヤが興り、英國の委任統治を受けてゐる。

アラビヤ半島
Arabia

世界最大の半島で、大部は沙
漠となつてゐるが、海岸や泉地からは棗椰子、珈
琲等を出す。土人は多く遊牧を營み、良馬を産す
る。域内は多くの酋長國に分れ、ネジドは最も勢力
を持つてゐる。メッカはマホメットの生れた處、メヂ
Mecca Mahomet Medina

【圖】メッカの大寺
院に群集せる信徒



アデンはペリム島と共に政治上印度帝國に屬してゐたが最近に本國の直屬となつた

シベリヤ平原の南部

面積 約一、二〇〇萬方
人口 約一〇〇〇萬
面積・人口共にヨーロッパに屬する部分を含まぬ



ナはその歿した處で、共に回教徒の參拜する者が多い。紅海の口に近いアデンは、英國に屬し、交通上軍事上の要地である。オマーンはイギリスの保護國で、棗椰子の産が多い。

第五章 北部アジア

第一節 シベリヤ

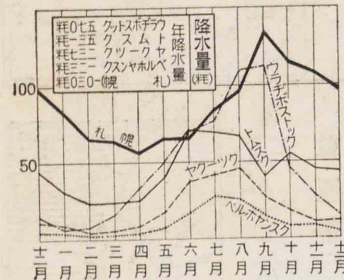
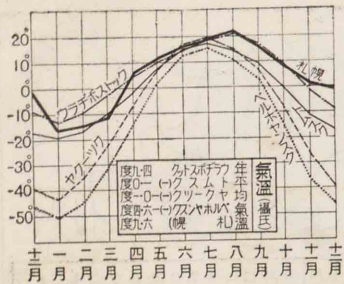
Siberia (西比利亞)

本洲の約三分の一を占める廣い地域で、ソビエト聯邦の一部である。大戰後政治區分に變動があつたが、本書は舊制により、シベリヤ・中央アジア・コーカシアの三區に分ける。

境域

シベリヤは、ソビエトロシアに直屬せるシベリヤ・極東・ウラル(一部はヨーロッパに屬する)の三地方と、ヤク

バイカル湖は地溝帯の一部を占め最深部は約一千三百六十五米に及び世界の湖水中で最も深い



氣候

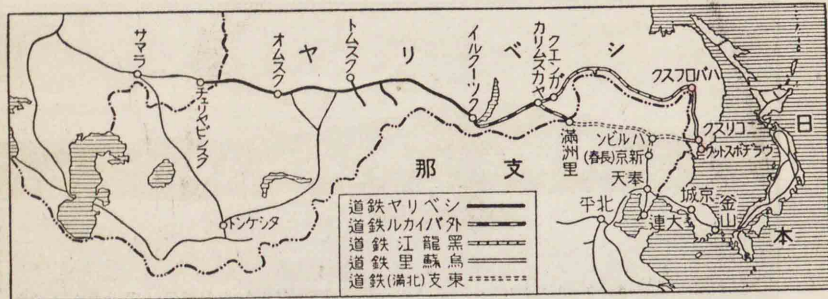
氣候は大陸性で、夏は短い、日照時間が長い爲に割合に暑く、冬は長く、寒氣が厳しく、レナ河流域の一部は、世界の寒極といはれる。この地方は地形・氣候・産物等の關係から、次の四帯に分れる。

イツク(自治共)ブリヤトモンゴル(自治)オイラト(自治)等に分ける。直屬地には移住ロシア人が多く住み、他は夫々民族主義によつて分けたものである。ロシアが領有した最初は、罪人の流謫地であつたが、自由移民の増加と共に、開拓が次第に進んで、今日に至つたものである。土人の種族は甚だ多いが、人口は極めて少く、尙原始的の生活を營んでゐる。

地形

東南部にはヤブロンイ山脈・スタノイ山脈等の高地が續いてゐるが、西北に緩斜してシベリヤ平原をなし、オビ・エニセー・レナ等の大河が此處を流れ、南部の黒龍江は、東流して滿洲との國境をなす。南境に近いバイカル湖は、水が深いので名高い。

車
圖
シベリヤの馬



屬し、土人が馴鹿を飼ひ、狩獵を行ふ外には、一部に舊象の牙を出すに過ぎない。

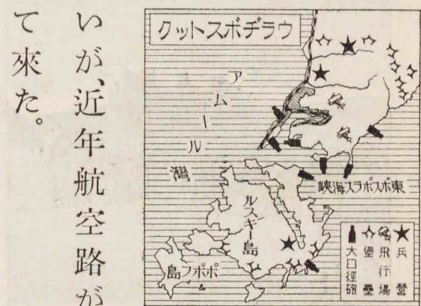
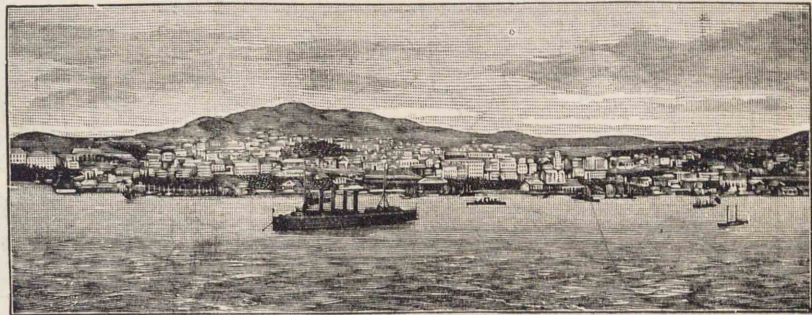
この他、東部の近海や河川は、鮭・鱈・鯨・蟹等の漁利に富み、邦人の出漁する者が多い。ニコライエフスク・ペトロパウロフスクは、共にその根據地で、コマンドル諸島は、臘納獸の保護地である。

此等の産物は、多く歐洲の製造品と交換されるが、外國貿易は餘り盛でない。

交通 凍結期が長い爲、河湖も利用の便が少く、鐵道沿線の外は、交通が概不便で、冬は橇、夏は馬車を多く用ひる。シベリヤ鐵道は政治上、軍事上の目的で敷設したものであるが、極東と

○ウラヂボストック、敦賀間の直通船は約四十時間、ウラヂボストック・モスコ間の汽車は約十一日を要する(北滿線經由)

圖 鮮ウラヂボストックの展望



いが、近年航空路が次第に開けて来た。
都邑 ウラヂボストックはシベリヤ第一の商港で、又軍港を兼ね、我が國との航路が頻繁であるが、冬は海面の凍る不便がある。黒龍江畔のハバロフスクは、交通の要地を占め、江口のニコライエフスクは、漁業の中心

コライエフスクは、漁業の中心



圖 鮮イルクーツクの市街

で、アレキサンドロフスクは、北樺太の主邑である。
 ブラゴエシチンズクの附近には、金の産地が多く、カリムスカヤは

鐵道の分岐點に位し、キヤフタは外蒙古との貿易が行はれる。

イルクーツクは、東西シベリヤの分岐點に立つて、商工業の要地を占め、ノボシビルスクは政治上經濟上の一中心である。トムスク・トボ

ルスクはオビ河沿岸の要市で、オムスクは農畜産の集散が多い。

第二節 中央アジア及びコーカシヤ

Central Asia

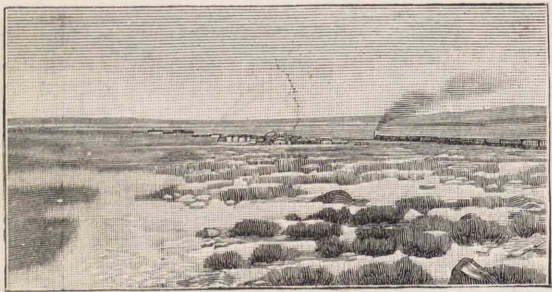
Caucasia(高加索)

中央アジア 氣候が乾燥して荒地が多く、裏海

を始め大小の鹹湖が散在し、アム河・シル河が此處を流れて、アラル海に注ぐ。住民は多く遊牧を営み、

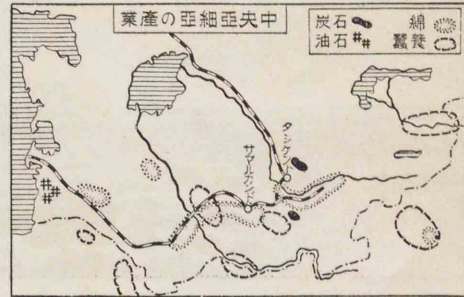
山麓河岸には穀物・綿等の耕作及び養蠶も行はれる。この地の北部は、カサック自治共和國に屬し、南部

圖 鮮草原地方の光景
 面積 約三五〇萬方呎
 人口 約一三〇〇萬



Cosack(Kaizak)

タシケント 四三萬
 サマルカンドには
 蒙古人の英雄とし
 て知られた帖木兒
 の墳墓がある
 面積 約四六萬方
 人口 約一二〇〇萬
 バクー 天萬
 チフリス 三萬

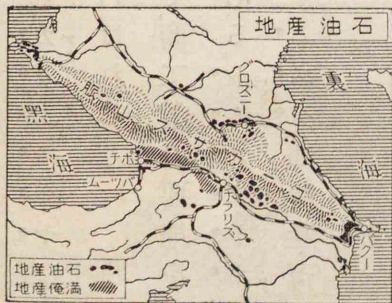


ある。南部にはアゼルバイジャン(首府はバク)とジョージア(首府はチフリス)の三共和国があつて、外コーカサス連邦を作り、チフリスは連邦の首府となつてゐる。

總説 (其二)

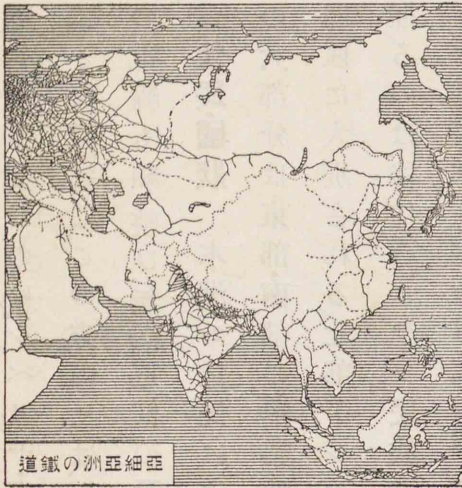
にはトルコメソポタミア(首府はバグダッド)とウズベク(首府はタシケント)とタジク(首府はドゥシャンベ)の三共和国がある。數條の大鐵道が此處を通じ、その沿線にタシケント・サマルカンド等の要市がある。

コーカサス コーカサス山脈が中央を横斷して、南北の二部に分れる。山北の大部は荒地であるが、山南は農耕養蠶が行はれ、又石油の世界的大産地、バクーは製油業の中心である。



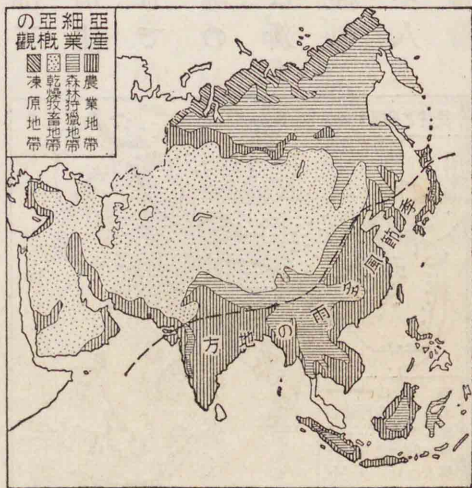
産業・交通

産業は農牧を主業とし、東部・南部の季節風帯は、米・綿・砂糖・茶・生絲、熱帯多雨地は、護謨・規那・コブラ等の世界的大産地で、印度の西部・北支那・シベリヤ等には、小麥等の穀産が多い。中部・西部の乾燥地帯では、牧畜を主業とし、東北



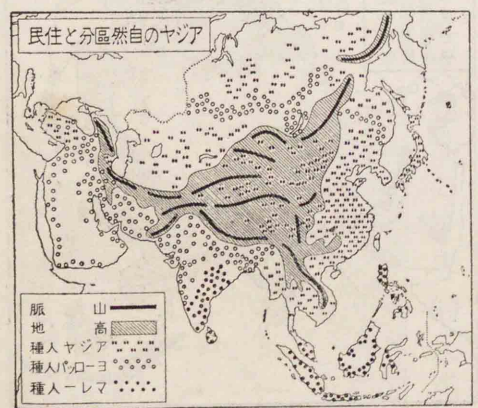
部の海上は、世界屈指の漁業地である。礦物の埋藏も少くないが、採掘は未だ盛でない。工業は一部に發達してゐるのみで、一般には尙原料の供給地、製品の需要地たる域を脱しない。

鐵道は日本・印度に稍密であるが、國



際的に重要なのは、シベリヤ・南滿洲の諸線等である。海運は東部と南部とに發達し、この方面には、世界的の大港も少くない。陸上及び海底の電線も頗る整ひ、無線電信の設備も次第に進んだ。

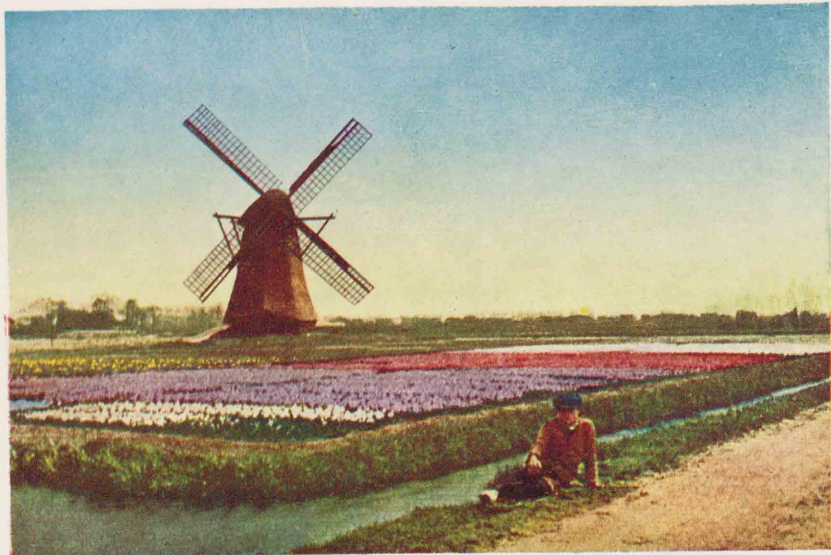
住民國狀 本洲の住民は十億を超えて、世界人口の過半を占め、その大部分は東部・南部の農業地方に住んでゐる。民族は地形によつて四區に大別される。北部アジアの原住民は、アジア種であるが、實權を握るのは、移住のスラブ民族である。東部アジアは東洋文化の中樞で、アジア人種が住み、南方の一部を除けば、自主獨立の地方である。南部にはアジア・マレー・ヨーロッパ等の諸人種が住んでゐるが、之を支配するは、新來の歐洲人である。西部には、アジア人種の新來の歐洲人であるが、大部はヨーロッパ人種に住地である。



アジア人種	
日本族 (日本内地)	朝鮮族 (朝鮮)
滿洲族 (滿洲・シベリヤ)	漢族 (支那本部・滿洲)
蒙古族 (蒙古・シベリヤ)	藏族 (西藏・青海)
苗族 (支那西南部)	印度支那族 (印度支那)
トルコ族 (小アジア・中央 アジア・新疆省)	
ヨーロッパ人種	
印度族 (印度)	イラン族 (イラン地方)
アラビヤ族 (アラビヤ)	スラブ族 (シベリヤ)
コーカサス族 (コーカシヤ)	マレー人種
	マレー族 (マレー地方)
	ドラビダ族 (印度)

がれてゐる。

日本との關係 本洲に國する日本が、特に關係の深いのはいふまでもない。本洲には早く文化の開けた處もあるが、今では土地人民の大半は歐洲人の治下に屬し、殘る獨立國も概々實力に乏しい。獨り日本は、國運が年と共に隆昌を加へ、現に東洋の盟主と仰



園 卉 花 の ダンラオ

い多が出輸の莖根し呈を觀美のふ鏡相妍百てし達發が藝園卉花



園 薔 薔 の ヤリガルブ

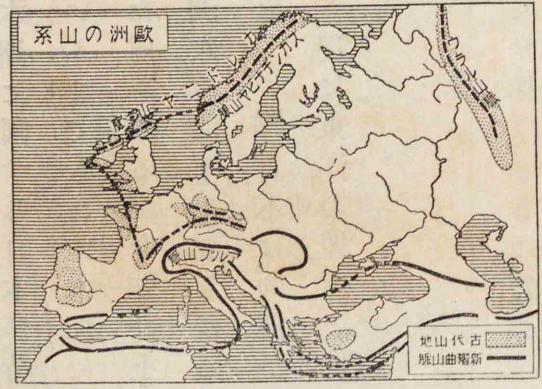
る造を油薔薔の産特てしと料原を之で景光る採摘を花るれ亂咲

第七篇 ヨーロッパ洲
Europe(歐羅巴)

總 說 (其一)

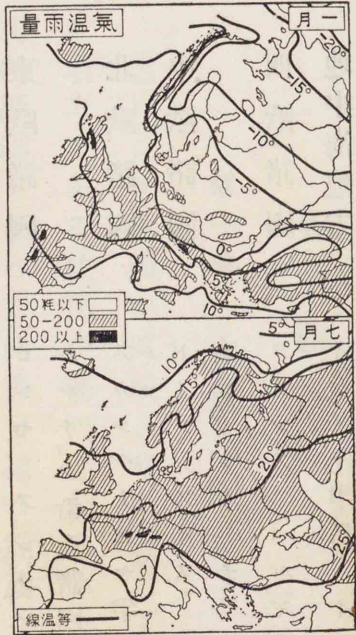
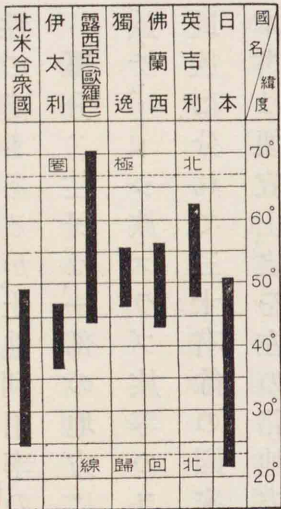
面積 約九五〇萬方呎
人口 約四八五〇〇萬

地形 ヨーロッパ洲は、ユーラシア大陸の西部を占める半島狀の地
域で、面積はアジア洲の四分の一よりも狭く、山脈・高原等の規模も亦
小さい。山脈は新舊の二系統に大別される。東
部のウラル山脈、北部のスカンディナヴィヤ山脈
等は、古代山地の主なるもので、何れも低く、南部
のアルプ山脈は、新しい褶曲山脈で、その餘脈
は渦狀を描いて、遠くアフリカ及びアジアに
延び、氣候上にも、人文上にも、天然の境界とな
つてゐる。東部は廣い平原で、多くの大河が流
れ、西部にも水量の多い河がある。此等は互に
運河によつて連絡され、水運の便が多い。



歐洲の西岸は殆ど
周年偏西風と呼ば
れる西風を受ける

西風が海上を吹き寄せ等、各種の關係により、緯度の割合に甚だ暖である。英國は我が樺太よりも北にあるが、その海岸には凍る處なく、北海

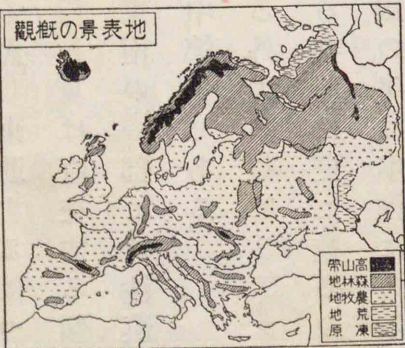


氣候 本洲の

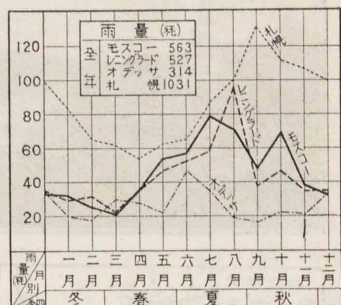
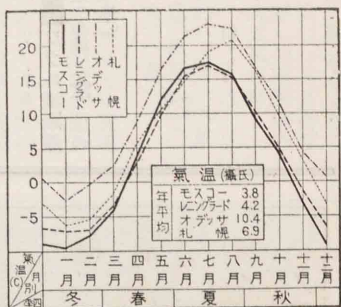
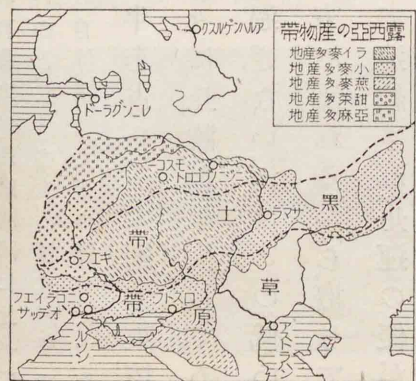
一因となつた。

大部分は温帯にあつて、西岸に近く暖流が流れ、偏

本洲は半島大陸である上に、更に數多の半島を出して海灣を作り、海岸線の發達は、遙に他の大陸に優れてゐる。従つて氣候交通等に大影響を及ぼし、この地の文化開發を促す有力な



圖解 森林地方(建物の壁も屋根も木材で出来てゐる)



毛の凍原であるが、その南に廣い森林帯・草野帯があるが、西歐への門戸に當るバルチック海は、白海と共に冬季は氷に鎖され、黒海は入口を他國に扼せられる不便がある。

氣候産業 本洲中では氣候が最も大陸性で、雨量も少く、裏海の沿岸は、本洲の最寡雨地である。氣候の關係から、北部の一帶は不

圖解 小麥の堆積

革命以來擾亂相次ぎ産額が急減して穀倉の住民も自己の糧に苦しむ状態であつたが政情の安定と共に着々復興して再び穀物の輸出國となつた

ある。

森林帯の主産物は木材であるが、近年開拓が進んで、麥類・甜菜・麻類・馬鈴薯等の耕作も行はれる。草野帯の中に、黒土帯と呼ばれる地方があり、地味が豊沃で、小麥・ライ麥・甜菜等の産額が甚だ多く、歐洲の穀倉と呼ばれる。ウクライナはその主部に當り、キエフ・ハルコフは重要な中心市場である。南部は馬・牛・羊等の牧畜を主業とし、アストラハンはその市場である。近年この地方は、人工灌漑によつて玉蜀黍・果實等の産額が著しく増加し、又河湖には鱒魚等



	年七和昭	年七和昭
國際合カキア	150	150
邦聯トピソ	100	100
ツイド	80	80
ダナカ	60	60
スラフ	40	40
邦聯トピソ	150	150
ツイド	100	100
ドノラーボ	80	80
ヤキウスコフ	60	60
國際合カキア	40	40

戦前には世界に於ける白金の大部をこの國から出した

穀物は輸出総額の四分の三を占める

主要都邑 人口(萬)
 モスコイ 二二八
 レニングラード 三三三
 ハルコフ 三三
 キエフ 三三
 オデッサ 三三

水産もある。鑛業はウラル山地の金、白金、銅、鐵、寶石等が最も高く、山麓にペルム(マグルニク)スウェルドロフスク(エカテリ)等の鑛業都市が発達し、中部・南部には石炭、鐵、石油、岩鹽等の産がある。

工業は家内工業を主とし、近年製鐵、製粉、紡績等の勃興を見たが、尙機械工業は、西歐諸國に比べると著しい遜色がある。貿易は主に穀類、木材、麻、皮革等を輸出して、綿、機械茶等を輸入し、レニングラード・オデッサは、海外取引の二大關門である。

ロシアの經濟組織は、共產主義を基礎とし、私有財産を禁止し、土地は國有とし、鑛山、森林、交通機關等も總て國營政策を採つて、處々に國營の大工場が起り、又農業も國營の大農場を計畫し、商業も國營とした爲、從來處々に開かれた定期市は、多く中止となつた。

都邑 首都モスコイは交通の大中心で、商工業の盛なことは國內第一である。スラブ都市の特色を示す、高い尖塔を持つ建物が多く、帝



— 洲パロヨ — 150



氷結した河
 冬のネバ河で氷結した河面に電車軌道を敷いてある圖はその停留所



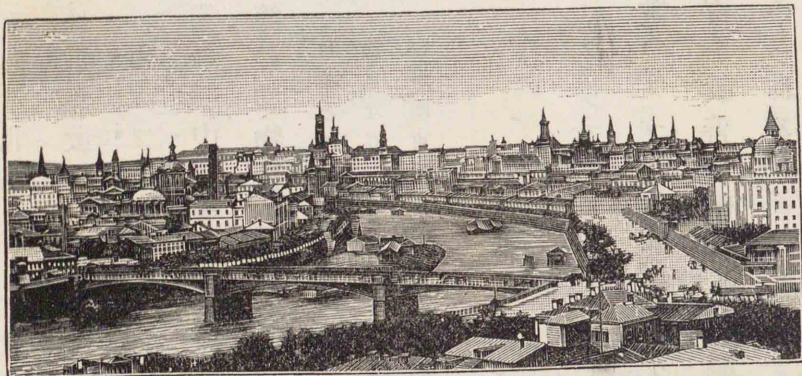
ニジニノブゴロド
 ボルガ河とオカ河との會流點に位し定期市の開催で名高い



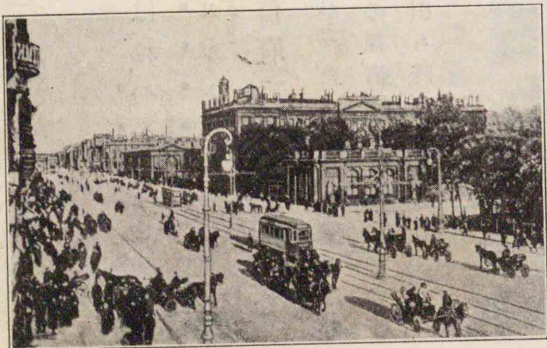
セバストポル
 クリミア戦争の爲に名高い地で、商港と軍港とを兼ねてゐる

【圖解】モスコーの中
央部

【圖解】レニングラー
下の市街



政時代に戴冠式の行はれたクレムリン宮は、
政廳となつてゐる。東部のニジニノブゴロド
(キル)は定期市の爲に知られてゐた處で、今は
自動車工業が興り、ボルガ河畔のスターリン
グラード(ツァリ)は、新興の工業市である。レニ
ングラードは、ネバ河の口
に跨り、本國第一の商港
である。永くロシヤの帝
都となつてゐた處で、舊
皇居を始め、壯大な建物
が多い。その外港クロン
スタットは、クリミヤ半島
のセバストポリ(アルヒ)と
共に、昔から重要な軍港



ヘルシングフォルス
フィンランドの首府と商港とを兼
ねた重要な近代式の港



リガ
ドーナ河に沿ふ港市でバルチック
海方面に於ける重要な商港の一



ロツの市街
多数の煙突が立並び明かに工業市
の光景が示されてゐる

面積
約三四萬方
人
約三七〇萬

である。北部のアル・ハンゲル・スクは、白海の要港で、ムル・マン・スク（ロマ）は、近年發達した不凍港である。

キエフはウクライナの首府で、農産加工が行はれ、ハルコフも農工業の中心である。黒海岸にはオデッサを始め、ヘルソン、ニコライエフ等の穀物積出港が多い。ミンスクは白ロシアの首府である。

日本との關係、帝政ロシアとは、幕末以來係争が絶えなかつたが、日露戦役の後親善となり、今は大使を交換してゐる。我が國と歐洲本土との經濟關係は、未だ密でないが、極東に於いては漁業、林業、鑛業等の利權を得、貿易取引も將來有望である。

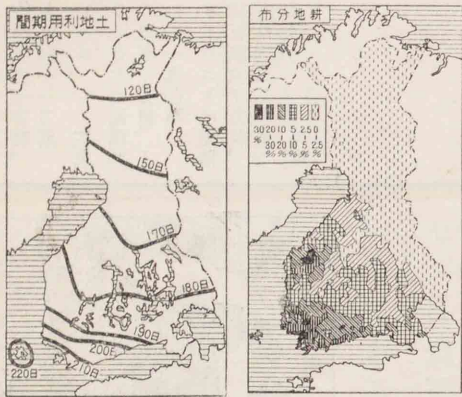
第二節 フィンランド

フィンランドは、ロシアの革命後に獨立した共和國である。住民は少數のラップ族の外、概ねアジヤ種のフィン族で、夙に西歐の文化を入れて教育を改善し、體育を奨励し、大戰後の新興諸國中、堅實なものの一に數へられる。

國の全部は、地質時代に著しく氷河の侵蝕を受けた處で、堆石が波

圖解 森林帯と湖水

ヘルシングフォル
ス 一四萬



狀をなして、その間に無数の湖水を造り、其等の落差を發電に利用してゐる。

氣候が寒く、土

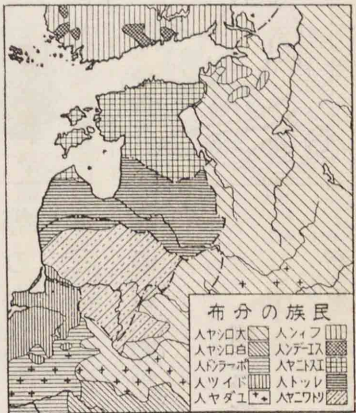


地の大部は森林帯に屬し、自然の環境は極めて不遇であるが、國民の勵精により、木材、バルプの外、麥類、亞麻、馬鈴薯等の農産を出し、又牛の牧畜が行はれる。ヘルシングフォルス（ヘルシ）はこの國の首府で、西岸のオーボと共に、林産、畜産の取引が盛に行はれる。

第三節 バルチック沿海諸國

バルチック海の東岸に沿ふ地方には、各種の民族が住ん

エストニアは面積約四萬五千方呎、人口約一二二萬、レバル 一三萬、ラトビヤは面積約六萬五千方呎、人口約一九〇萬、リトワニヤは面積約五萬六千方呎、人口約二二〇萬、リガ 三萬



でみたが、民族自決主義によつて獨立し、**エストニア** (主としてエストニア人でレ) **ラトビヤ** (主としてラトビヤ人でリ) **リトワニヤ** (主としてリトワニヤ人でガを首府とする) **リトワニヤ** (コブノ(カウナス)を首府とする) 等の共和國が起つた。何れも弱小で大都會は少いが、リガはロシヤの帝政時代から主要な商港である。

第四節 ポーランド

Poland(波蘭)

附 ダンチヒ Danzig

面積 約三九萬方呎
人口 約三一九三萬
天然の國境を缺くことはこの國の興廢と大關係がある
ウイリッカの鹽層は四百米に及ぶ處があり岩鹽層中に地下都市がある

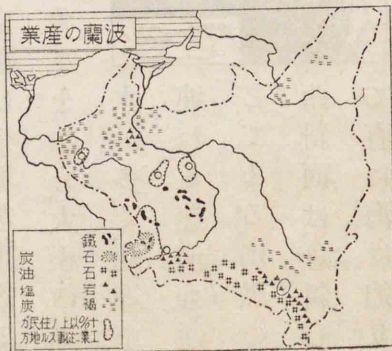
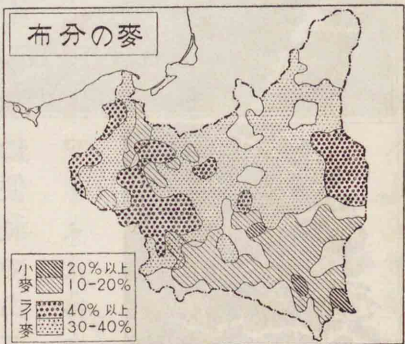
大戰後に再興した共和國で、住民はスラブ族のポーランド人である。往時は一大王國であつたが、露獨塊の三國に分割せられ、爾來久しく強國の壓制に服してゐたが、終に舊領の大部を復して獨立するに至つた。南境には高峻なカルパチヤ山脈が連つてゐるが、大部分は平野で、ウイストラ河が此處を流れ、麥類、馬鈴薯、甜菜等を産し、林業、牧畜も行はれる。南部は石炭、岩鹽、石油、鐵等の鑛産に富み、クラカウに近いウイ

主要都邑 人口(萬)
ワルソー 一六
ロヅ 六
レンベルヒ 三

ダンチヒ自由市は面積約一八九〇方呎、人口約四〇萬

・**ウイリッカ**は、岩鹽の大産地である。工業は紡績、機業等が頗る盛で、**ロヅ**はその中心である。首府**ワルソー**は、ウイストラ河に跨り、交通、商業の要地で、**ポズナ**は農産物取引の中心である。

ダンチヒ 大戰講和の結果、ドイツから離れて獨立の自由市となり、その一部はポーランドの海口として使用されてゐる。



第二章 北歐諸國

スカンヂナビヤ、ユトランドの兩半島と、附近の島嶼とを占め、スウェーデン、ノルウェー及びデンマークの三國に分れる。この三國は、嘗て一

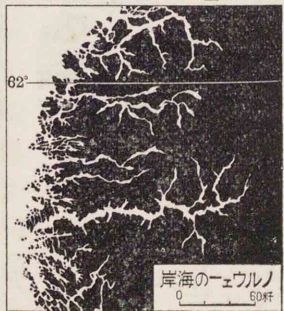
大國を形成したこともあり、民族は等しく、風習も殆ど似てゐる。

第一節 スカンディナヴィヤ半島

Scandinavia

地形

半島はスウェーデン・ノルウェーの二國に分れ、スカンディナヴィヤ山脈が、殆どその境界となつてゐる。この山脈は、カレドニヤ山地の一部で、概ね高臺性をなし、東斜面には多くの河が並行して、中流に細長い湖水を造り、臺地を離れる處は、急流・瀑布となつてゐるので、水力の利用に便利である。南部は平地が稍、廣く、ウーネル・ウニテルを始め、大小の湖水が多く、此等を連ねる運河も通じてゐる。山脈の西斜面は、急斜して直に海に迫り、



ウーネル・ウニテルを始め、大小の湖水が多く、此等を連ねる運河も通じてゐる。山脈の西斜面は、急斜して直に海に迫り、

圖解 峽灣の光景

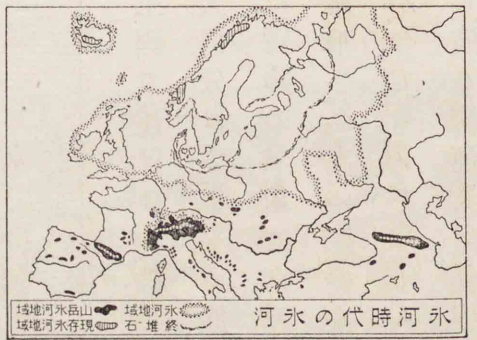
スウェーデン
面積 約四一萬方呎
人口 約六一四萬
ノルウェー
面積 約三二萬方呎
人口 約二八一萬

錯雜した多くの峽灣が此處に彎入し、又無數の小島が近海に羅列してゐる。

峽灣は、氷河の侵蝕を受けた深谷が沈水した爲に生じたもので、ソーネ峽灣は長さ百八十呎、水深一千二百米に及び、兩側には一千米にも達する絶壁があつて、風光が雄大を極める。

氣候

西岸は雨雪が多く、割合に溫暖で海面の凍ることなく、北緯七十度の地に、ハンメルフェストの漁港がある。東岸は寒氣が強く、ボスニヤ灣は、冬季數月間凍結する。極北地方の夏は、晝が數月に互つて、夜半に太陽を仰ぎ、冬は夜が長く續くが、深夜でも暗くはない。



河水の代時河永

産業 スウェーデンは一部に農業が開けて、麥類、甜菜等を出し、又ダンネモラ、ゲリバラ等の鐵

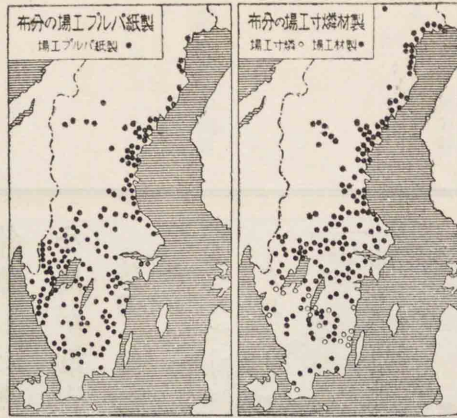


圖解 世界最北の都 邑ハンメルフェスト

ゲリバラの鐵鑛は夏はルレオから冬はノルウェーのナルビクから英國等へ輸出する

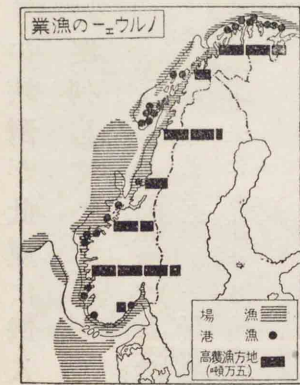
ノルウェー式捕鯨は世界の模範で我が國でも之を應用してゐる

北極海のスピッツベルゲン島は最近ノルウェーの所屬となりスバルバードと改稱された

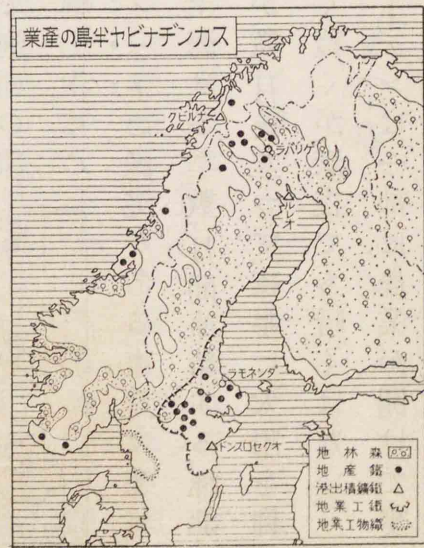


鑛産地があり、近年製鐵も行はれるが、第一の産業は林業で、製材の外、紙パルプ・マッチ等の林産加工が盛に行はれる。ノルウェーにも森林はあるが、最も主要なのは水産で、鯨、鯆、鯨等の漁利が多く、近海は世界三大漁場の一つに數へられ、ベルゲンはその大中心である。

住民政治



この二國は、共に立憲王國で、住民は少數のラップ族の外、大部分はチュートン族である。國民は冒險の氣象に富み、夙に海上に雄飛し、名高い探検家も多く出たが、今でもノルウェー人は海事に長じ、廣く海運業に従事



してゐる。

都邑

スウェーデンの首府ストックホルムは、メーラル湖の口に臨み、景色が極めてよく、ゲテボログは國內第一の商工都市である。ノルウェーの首府オスロ(舊名クリス)は、峽灣の奥に發達した港市である。

主要都邑 人口(萬)

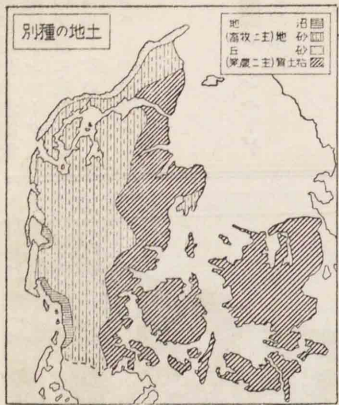
ストックホルム 五二
ゲテボログ 三三
オスロ 三三

面積

約四萬三千方軒

人口 約三五五萬

輸出額の大部は畜産で殊に牛酪は過半を占める



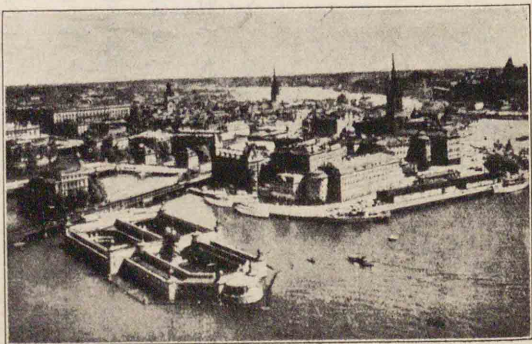
第二節

デンマーク

Denmark (丹麥) 附 アイスランド (冰島) Iceland (冰島)

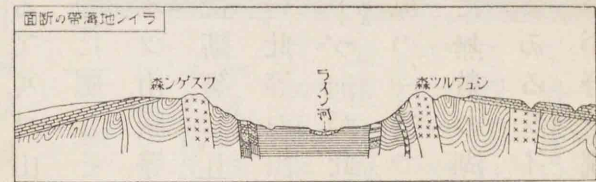
デンマークは、一大半島と多くの島々から成る。大部が低平で、西部には砂丘や沼澤が連つてゐる。氣候が濕潤で夏は霧が多い。土地の利用が進み、農村組織がよく整つて、農業、牧畜が盛に行はれ、家畜牛酪、煉乳等の輸出が甚だ多い。

政治は立憲王制で、昔は北歐に覇を稱へたことがあり、



一定面積の森林から得るこの國の收益は日本の三十倍乃至五十倍に上るといはれる

レイプの採集
ドイツの水力は餘り多くはないが利用率の大きいことは世界第一である



く、河畔に良港が多い。

ライン河の上流は、有名な地溝帯を流れ、中流は峡谷をなして、河畔に数多の古城址が聳え、詩的の風景を作つてゐる。この流域は産業がよく開け、殊に下流地方は、世界的大工業地帯の一で、沿岸に数多の河港市が發達してゐる。

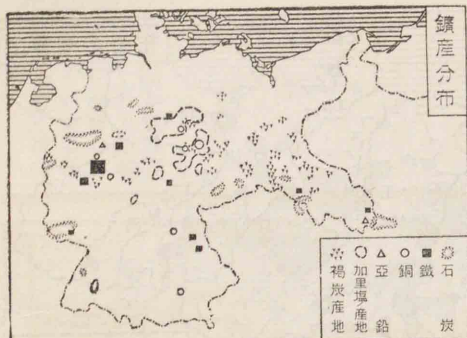
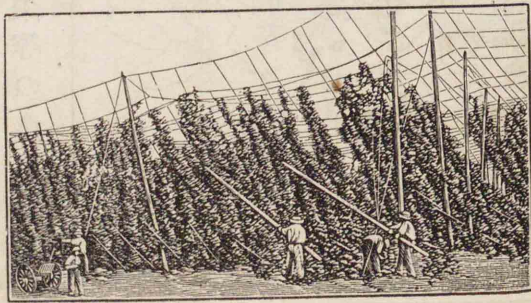
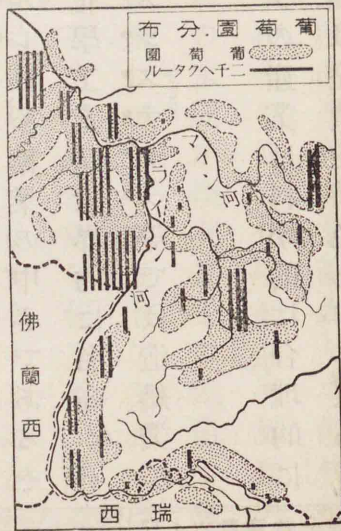
氣候 南部は土地が高く、北部は低

く且海に臨むから、南北の氣温には著しい差はないが、東部に進むにつれて大陸性に傾き、ライン河谷と北海沿岸とが、最も溫和である。

産業 産業地帯も南北に分れる。南部の山地、盆地には、廣い森林があつて、その經營は世界の模範と稱せられ、山麓には牛、山羊等を多く飼つてゐる。

盆地は小麥、ホップ、煙草等の農産に富み、バワリヤの

ビール醸造は、世界獨歩といはれ、ミン・ヘンはその中心地である。ライン河谷には葡萄園が多い。

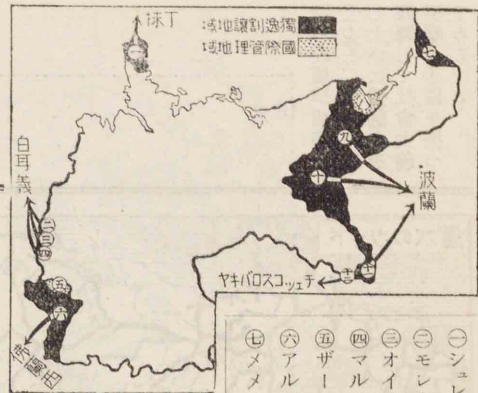


鑛産は大戦の結果、鐵(上シレンヤ)、石炭(ルザ)

の大産地を失つたが、尙其等の豊富な産地(石炭、ライン流域、シレジャの鐵等)があり、岩鹽、加里等と

共に、工業上重要なものである。その他褐炭は到る處に産し、銅、亞鉛等の産額も少くない。

鑛産の豊富と、教育の進歩とは、著しく工業を發達せしめた。ライン河流域とサクソニヤ地方とは、この國の二大工業地帯で、殊にルール河の流域は、ラインの心臓部と稱せられ、クルップ



- ① シュレスウイヒ(予抹)
- ② モレネ
- ③ オイベン (白耳海)
- ④ マルメヂー
- ⑤ ザール河流域(國際聯盟管理)
- ⑥ アルサス・ローレン(佛蘭西)
- ⑦ メメル地方(聯合國管理となり今はリトワニヤ)
- ⑧ ダンチヒ(自由市となる)
- ⑨ 西プロシヤ大部
- ⑩ ポーゼン
- ⑪ 上シレシヤ一部 (波蘭)
- ⑫ 同右(テウモスコロバキヤ)

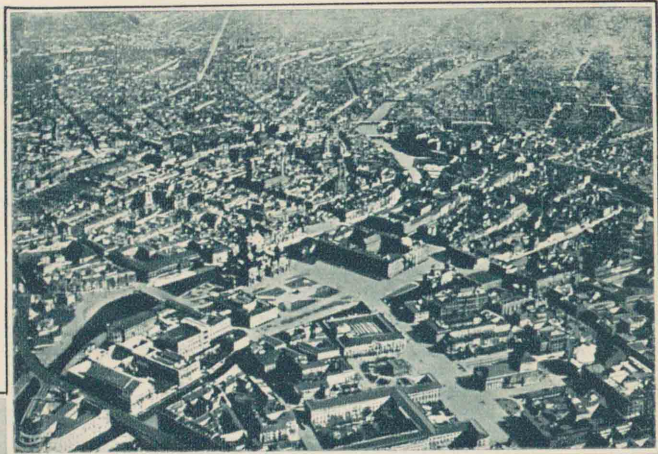
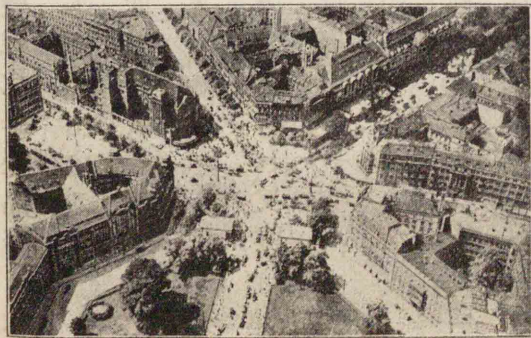
領土とを失ひ、東プロシヤは飛地として残され、軍備は制限せられ、莫大の賠償金を課せられる等、大打撃を受けたが、不撓の國民性を發揮し、國運は次第に復興に向つてゐる。

ドイツは大戦前まで、プロシヤを中心として聯邦制の帝國を組織し、海外にも廣い領土を有してゐたが、戦後は帝政を廢して共和國とし、海外領土の全部と本國に於ける七萬方軒餘の

圖解ベルリン市の中央部
 主要都邑 人口(萬人)
 ベルリン 四六
 ハンブルグ 二三
 ケルン 一三
 ミュンヘン 一〇
 ライプチヒ 九
 エッセン 八
 ドレスデン 七
 ブレスラウ 六
 フランクフルト 五

都邑

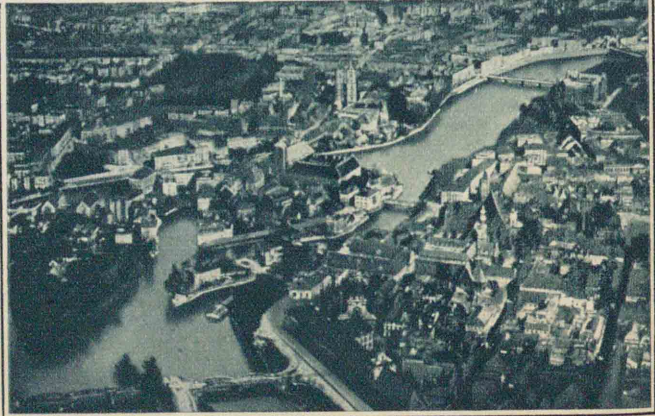
ベルリンはプロシヤの首府で、又聯邦の首都である。政治經濟及び交通等の大中心をなし、大陸第一の都會である。街衢は極めて莊重で、名高い大學があり、世界學術の府と呼ばれる。エルベ河畔のハンブルグは、ブレーメン、リューベックと共に自由市である。ハンブルグは世界的



ベルリンの中心部に大寺院や壯大な建物が多し、中央の流れはスプリー河で、河畔



大寺院と舊王宮。右方の最も壯大なのは大寺院、その左の角に舊王宮が見える。

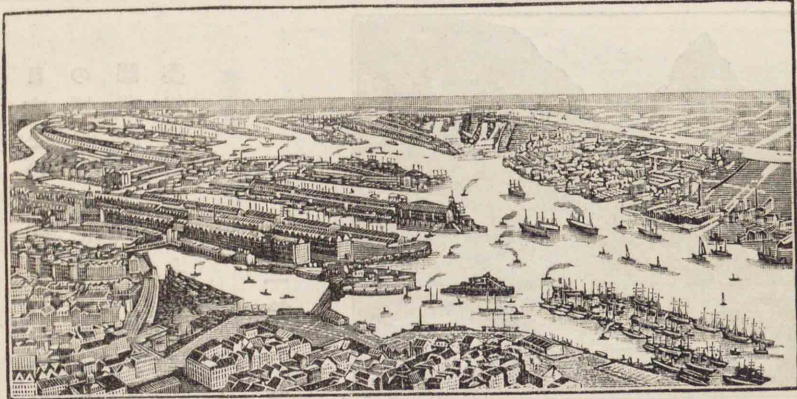


ブレスラウ。オーデル河が中部を貫流し、シレシヤ商業の大中心である。

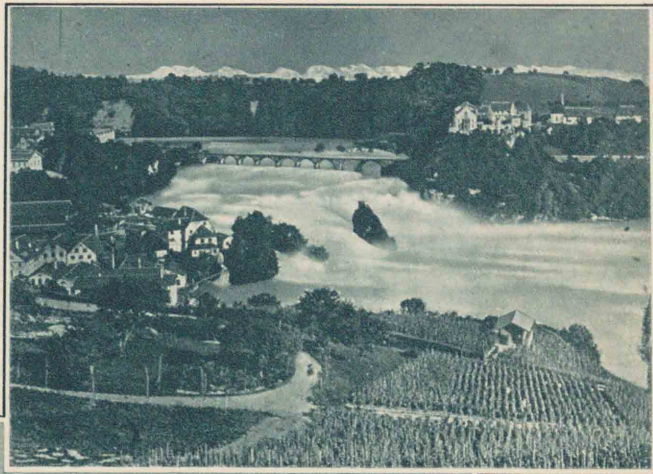
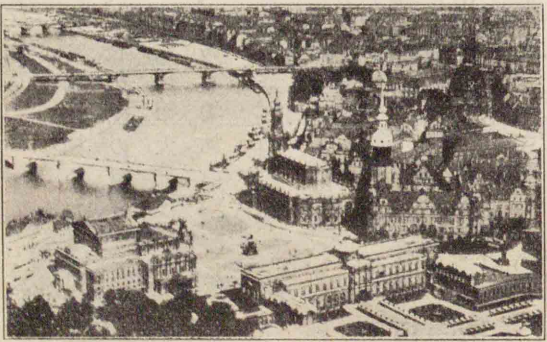
デュッセルドルフ 四
 ハンノフェル 四
 ニュールンベル 四
 スツットガルト 元
 ケムニツ 三
 マグデブルグ 三
 プレームン 元
 ケーニヒスベル 元
 ヒテチン 三
 キール 二

埠頭
 圖録
 ハンブルグの

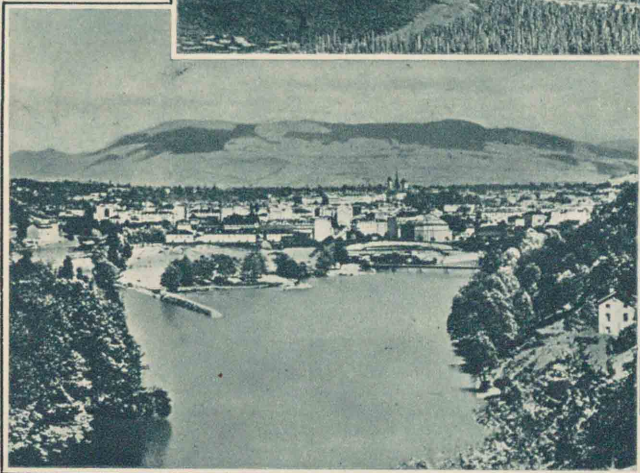
市街
 圖録
 ドレスデンの



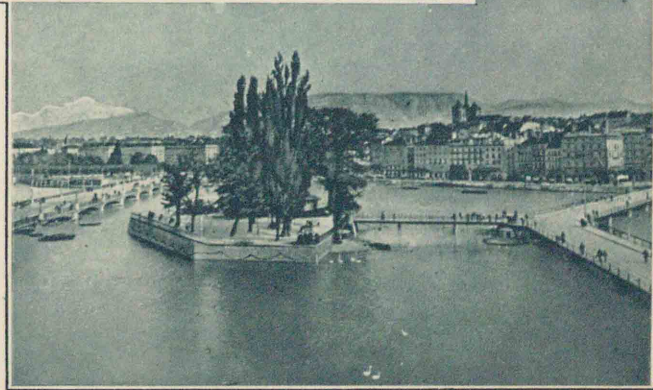
商港で、築港の設備は世界の模範といはれ、
 レーメンは之に次ぐ商港である。
 ライン河の沿岸には、重要な港市が多い。ケ
 ルン^{Köln}は軍事交通の要地で、洋航船の終點に當
 り、エッセン^{Essen}・フランクフルト^{Frankfurt am Main}等と共に、主要な商
 工都市である。ウルテン^{Wurttemberg}
 ベルヒの首府スツットガ^{Stuttgart}ガ
 ルトは、樂器の産に著れ、
 バワリヤの首府ミンヘ^{München}ンへ
 ンには、名高い大學があ
 る。サクソニヤの首府ド
 レスデン^{Dresden}は、風景の秀麗
 と美術工藝の發達とで
 名高い。オーデル河上流



ライン瀧
 シュフハウゼン附近の光景で、別荘
 が多く近景は葡萄園である



ジュネーブ
 ローヌ河とアルプ河との會點から
 東方に市街を見た光景

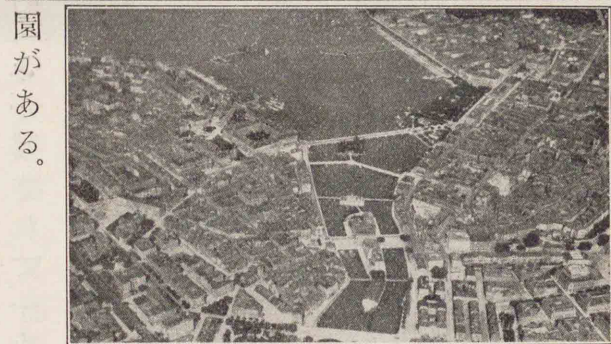
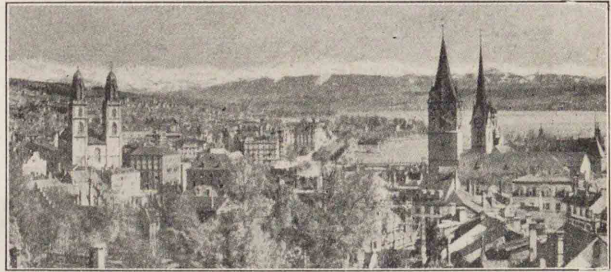


モンブラン橋
 ジュネーブ湖の落口に架けてある
 橋で遙に白雪を戴くはモンブラン

主要都邑 人口(萬)

チューリヒ	三五
バーゼル	二四
ジュネーブ	二四
ベルン	二

圖解 チューリヒの市街(上)とジュネーブの下瞰(下)



園がある。

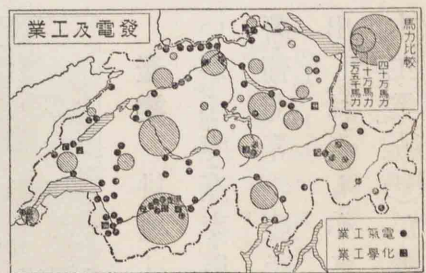
面積
約八萬四千方呎
人口
約六七二萬

第三節 オーストリア

附 Austria (操地利) リヒテンシュタイン Liechtenstein

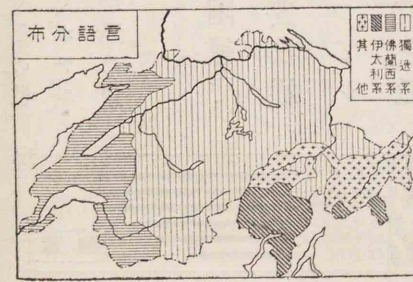
大部はアルプ山地に屬する山國で、産物は少く、馬鈴薯、葡萄、木材、鐵等が稍著しく、牧牛も行はれる。この國は近時まで、ハンガリーと聯合

都邑 首府ベルン Bern はアール河に沿ひ、萬國聯合郵便電信事務局がある。ジュネーブは同名の湖に臨み、國際聯盟本部、赤十字社本部、國際勞働事務局等がある。バーゼルはリボン、藥品等を産し、東北のチューリヒは國內第一の都會で、機業が盛に行はれる。ツルンは風景がよく、氷河公



してゐる。山腹や谷地には、牛、羊等の牧畜が行はれて、牛酪、煉乳その他乳製品の産出が多い。工業も水力を利用して盛に行はれるが、地形の關係上、輸送に便利な精巧品を主眼とし、織物(メリッサ、モスリ)、化學製品、金屬製品等を出す。殊に時計の製造は世界に

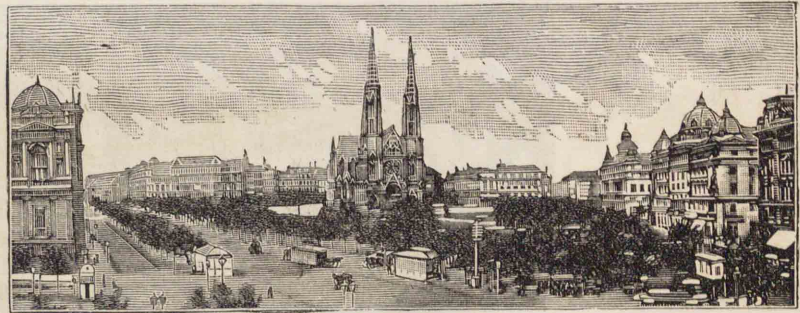
卓越し、ジュネーブはその集散の中心地である。住民政治 住民の大部はチートン族のドイツ人であるが、フランス人、イタリア人も多いため、公用にこの三國語が併用される。教育はよく普及して、勤勉力行の美風に富む。この國は列強間の緩衝地帯として、夙に局外中立地となり、國際事業の中心となることが多い。政治は聯邦共和制で、軍備の要は殆どない。



ウィーン 一七萬

街 魏因の市

リヒテンスタイン
は面積一五九方
人口約一萬

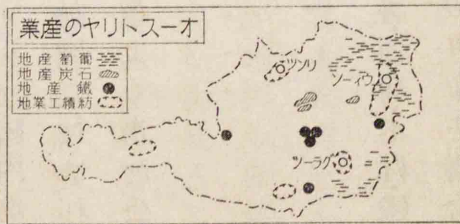


して一大帝國を建て、中歐の重鎮であつたが、大戦中に革命が起り、域内に住む各民族が、或は獨立し、或は他國に合し、今はチエートン族の住地のみが残されて、一小共和國となり、面積人口共に舊時の八分の一に減じた。首府ウィーンは、水陸交通の要地に發達した古い都會で、市街の壯麗、風俗の華美なことは、フランスのパリ、に比べられ、織物・美術品等を産する。

リヒテンスタイン オーストリアとスイスとの間に挟まる獨立の小侯國である。

第四節 ハンガリー

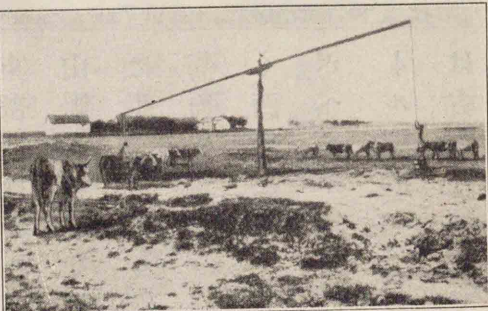
(Hungary(匈牙利))



面積
約九萬三千方
人口
約八六九萬

光景 圖 普斯塔地方の

圖 普斯塔と
ダニューブ河
ブダペスト 100萬



大戦前までは、オーストリアと聯合して共同の君主を戴いてゐたが、大戦中の革命によつて、異民族の住地を失ひ、マジヤール族(ヤジ)の住地のみから出来た一小王國で、大部はハンガリー平原をなしてゐる。雨量が少く、一部はプスタと呼ぶ草原になつてゐるが、夏は雷雨があつて、玉蜀黍・麥類等の農産が多く、又葡萄・甜菜等を出し、プスタ地方では、馬・牛・羊等の牧畜が盛である。首府ブダペストは、交通商業の中心地で、製粉・屠畜等が行はれる。

第五節 チェッコスロバキヤ

(Czechoslovakia)

面積 約一四萬方呎
人口 約一四七三萬
舊ドイツ領の一小部分をも含む

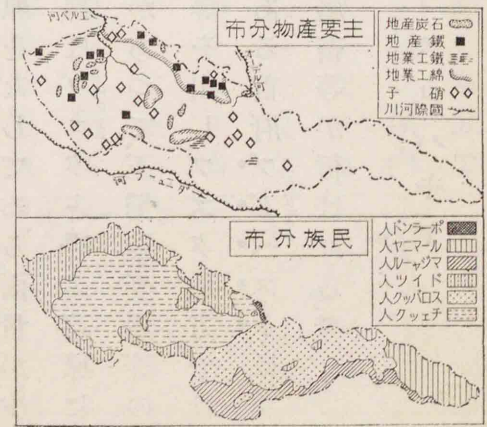
主要都市 人口(萬)
ブライグ 八五
ブリュン 三六

主要都市 人口(萬)
ブライグ 八五
ブリュン 三六

この地は近時まで、奥洪國の一部であったが、大戦後に獨立して共和國となつた。住民の大部分は、スラブ族のチェク人とスロバック人とである。



國の西部には、ボヘミヤ盆地があつて、エルベ河が此處を流れ、東部にはカルパチヤ山脈が連つて、その麓に平野がある。氣候は稍、寒いが、麥類馬鈴薯甜菜、葡萄ホップ等の農産に富み、石炭鐵等の産出が多く、西部にはラヂウム鑛を出す處がある。工業はボヘミヤ地方に盛で、紡織(ブリュンが中心)製鐵製糖ビール製造(ピルゼンが中心)等が行はれる。首府ブライグは古雅な都會で、風景もよく、この地を中心とし



て、硝子・陶器等の精巧品を出す。西部には温泉が多く、カールスバードは著名な温泉都市である。

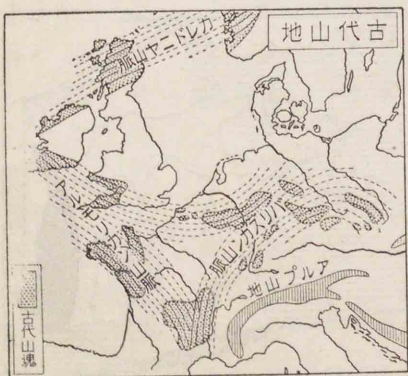
第四章 西歐諸國

大陸と大西洋との接觸點に當る英・佛・蘭・白の四國を含み、古代山地の錯雜する地域であるが、南部の外には高峻な山地はない。氣候はよく、良港は多く、且その大部は、天然資源に富む等の自然的條件に恵まれ、經濟活動の甚だ盛な地方である。

第一節 フランス

France (佛蘭西) 附 モナコ Monaco

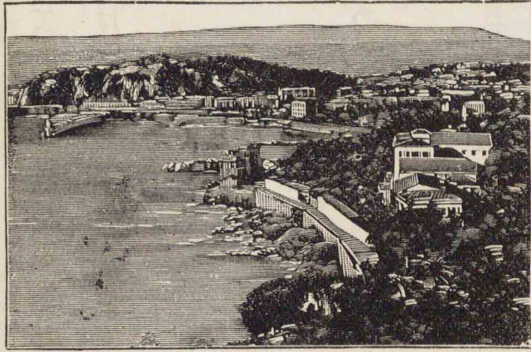
地形 この國の輪廓は略、六角形をなし、その三面は海に臨み、三面は他國と境を接する。東南境にはアルプ山脈が連つて、モンブランを始め高山が多く、その北にユラ山脈がある。



面積 約五五萬方呎
人口 約四二〇〇萬

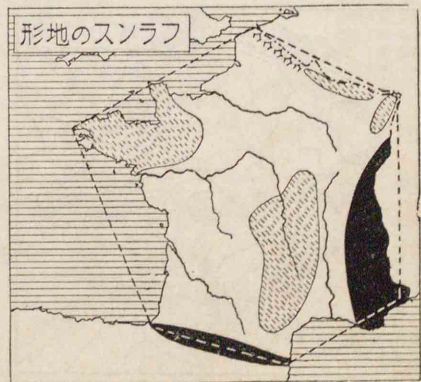
【圖解】ニースの光景

コルシカ島はナポレオン一世の生地
でイタリヤ語が用
ひられてゐる



西南境にも、高峻なピレネー山脈が連つてゐるが、東北部には天然の障壁がない。

内部には、稍南に偏して、中央臺地と呼ばれる古代山地の残塊があつて、多くの休火山を戴き、その東側は急斜して、ローヌ河の谷となり、東北に斷續して、數多の地塊を作る。西北は著しく削剝されて、半島部に丘陵を残す外、大部は平野となり、ガロンヌ・ロアール・セーヌ等の河川が此處を流れ、セーヌ河の流域はパリ盆地を造る。



形地のスラフ

海岸は單調で、北部のノルマンディー・ブルターニュの兩半島と、地中海面のリオン灣とが稍著しく、東南の海上にコルシカ島がある。

氣候 西部は暖流の影響を受け、溫和で雨量

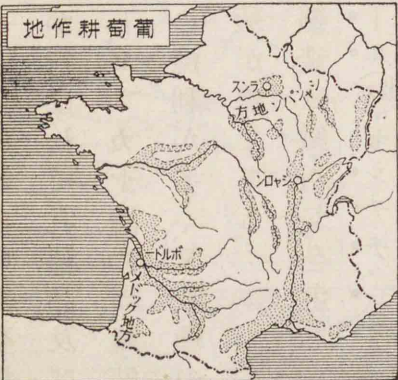
地中海式氣候は夏季乾燥して冬季に雨量が多く溫暖なのを特色とする

が多い。地中海岸は地中海式氣候で、一層暖く、冬も霜雪を見ない。殊に背後に山を負ふ處は、避寒地として名高く、ニースやモナコは、冬の歡樂郷となつてゐる。

産業

農業はよく發達し、北部は麥類・馬鈴薯・甜菜等を出し、南部は玉蜀黍の主産地で、地中海岸には、オリーブ・柑橘類を出す。葡萄園は北方の一部を除いて殆ど全國に擴がり、葡萄酒の醸造が甚だ盛で、品質

【圖解】南フランスの葡萄園
絹絲産額は今は少く
なり多く輸入に
仰ぐ

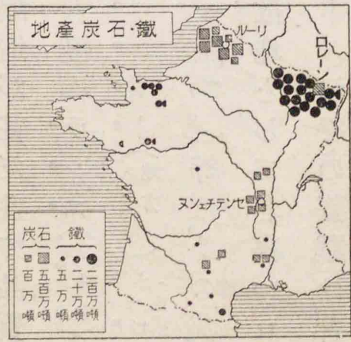


も優れ、ランス(シャンパ)・ポルドー(メダック)・シャロ(ロイヌ)等は、その集散地として名高い。ロアール河谷の養蠶は、昔の如く盛でないが、リヨンの絹織物は歐洲

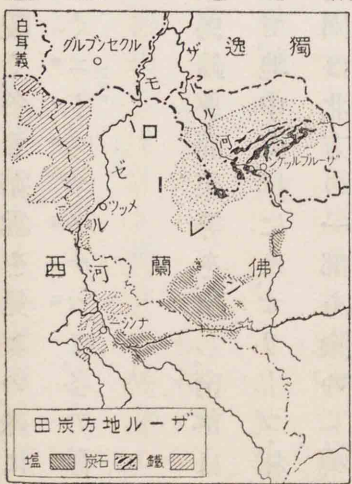


第一といはれる。中央臺地及び北部地方では、牧畜が行はれて、乳製品及びフランス革の名産を出し、ビスカヤ灣には、鯷鱈等の漁利が多く、又牡蠣の養殖が盛である。

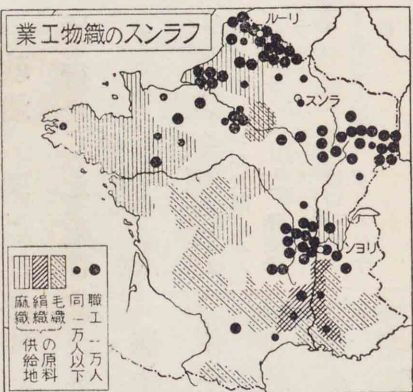
鑛産は鐵・石炭を主とし、リール(炭石)・センテチエヌ(石鐵)等はその主産地であつ



果、ロレインの鐵山及びザール(Saar)の石炭を得て、産額が益々増加した。此等の石炭産地に近く工業市が開け、リール(Lille)の織物(毛織物等)・ランス(Lens)の織物(綿織物)・リヨン(Lyon)の織物(絹織物)等は、その重要なものである。美術工藝は本國の特色



工業は未だ英・獨白等に及ばな

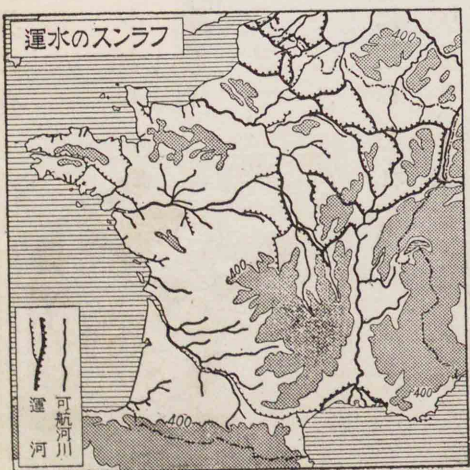
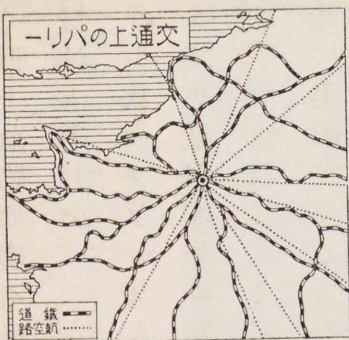


で、又化粧品・裝身具等は、世界流行の魁をなし、パリがその中心である。貿易は各種の織物・毛絲・葡萄酒等を輸出して、原料品・食糧品を輸入し、マルセイユ・ポルドール・アーブルは本國の三大商港である。我が商品の主要な輸入國で、我が國は生絲羽二重等を賣り、毛絲・葡萄

葡萄酒等を買入れる。

交通 鐵道網が

よく發達し、パリは歐洲に於ける大幹線の集中點となつてゐる。河川は大小の運河と共に、交



最近二回の人口調査期間に於いて毎年平均一千人中五・四人の減少を示した

主 要 領 土
(包含を地治統任委・地護保)

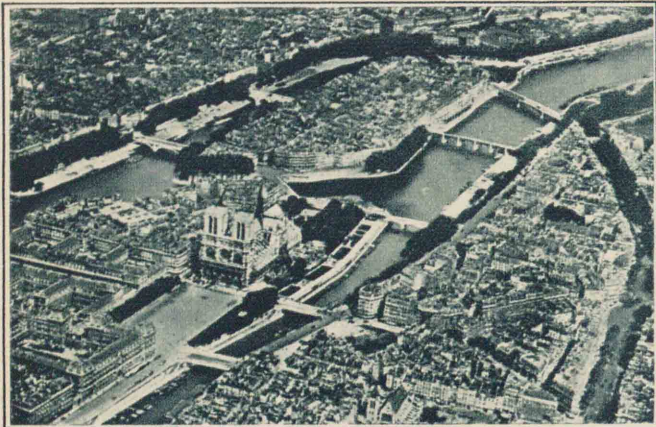
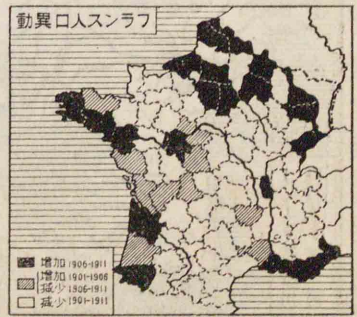
アジヤ	佛領印度支那 佛領印度 廣州 (租借地) シリヤ地方
アフリカ	アルゼリヤ チュニス モロッコ サハラ及びスダンの大部 カメルン(部) トーゴ(部) 佛領赤道アフリカ マダガスカル
アメリカ大洋洲	ギヤナの一部 西印度の一部 ニューカレドニア ポリネシヤの一部

通の便が極めてよく、海上航路は廣く世界の要地と通じ、航空路の發達も著しい。

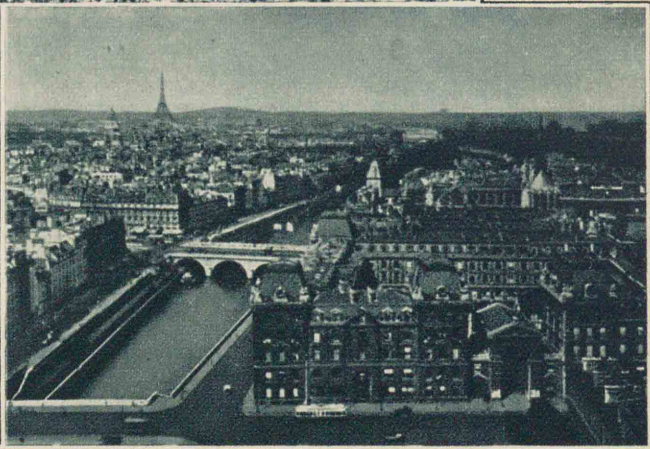
住民 住民はラテン族のフランス人を主とし、一部にはチートン族や原住のケルト族も住み、一般に國民の増加率が低い。多くは舊教徒で、文化の程度が高く、殊に美術・文藝に長じてゐる。言語は極めて優雅で、廣く社交上・外交上に用ひられる。

政治 國民は熱情に驅られ、理想に走り易く、昔から國體の變革が屢行はれたが、普佛戰爭以後共和制を採り、今日に及んでゐる。軍備は

海陸共に頗る強勢で、空軍は殊に傑出してゐる。海外領土が甚だ廣く、本國の二十三倍に達し、更に大戰の結果、前に失つたアルサス・ロレーンを回復し、又ドイツ・トルコ等の舊領土中、この國の委任統治地となつた處も多い。然し堅實味を缺ける國民性と



パリ市の下瞰
市の心核であるセーヌ河中の島で
ノートルダム寺院が人目を惹く

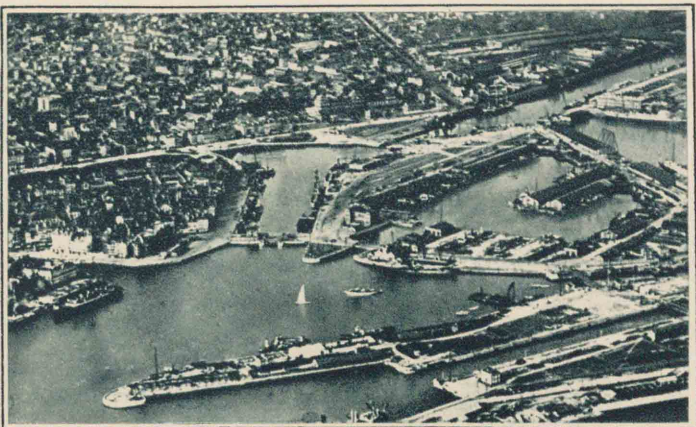


パリーの展望
壯麗な建物に埋められ遙にエッフェル塔が峙つてゐる



パリーの市街
市内で最も清潔なシャンゼリゼー
街の光景

ルアーブル港
セーヌ河の河口に位しパリ盆地の門戸として繁盛を極める



マルセーユの埠頭
壮大な棧橋に多数の船が輻輳し地中海の大港たる面目が現れてゐる



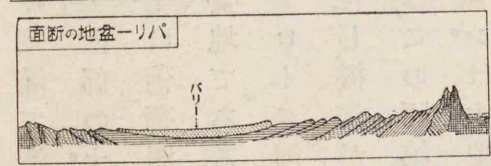
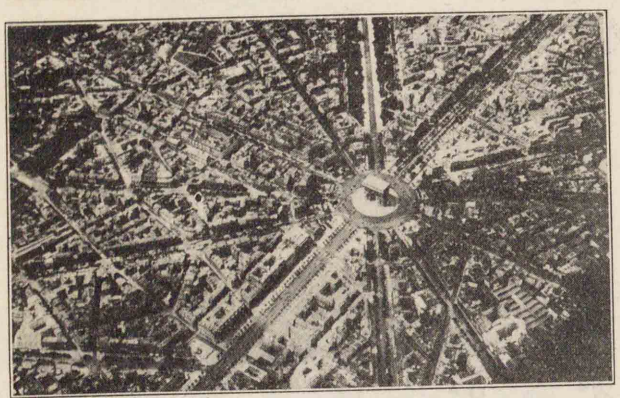
リヨンの下敷
ガロンヌ河が市内を貫流し鐵道と水運との便を兼ねてゐる

主要都邑 人口(萬)

パリ	三九
マルセーユ	二六
リヨン	一八
ボルドー	一三
リール	一〇

もと周圍に城壁を繞らしてゐたが最近に之を撤去した

圖解 上空から見たパリ(中央は凱旋門)



して、植民政策には餘り成功してゐない。

都邑 首府パリ(Paris)はパリ盆地の中心に位し、セーヌ河に跨つて政治交通及び商工業の要地を占め、大陸第二の大都會である。もと防備に便利な河中の島を中心として、發達膨脹したもので、道路の整備は、都市計畫の模範とされる。ノートルダム寺院、エッフェル塔、ルーブル博物館、劇場等の壯大な建物が多く、市街の華麗は世界無比といはれる。市に近いベルサイユには、名高い宮殿があり、對獨平和條約は、此處で調印された。ルーアンは繁盛な河港で、今は綿工業の中心となり、河口のルアーブルは、東北のダンケルクと共に、主要な商港である。西南のシェルブル、ブレストは、共

は、都市計畫の模範とされる。ノートルダム寺院、エッフェル塔、ルーブル博物館、劇場等の壯大な建物が多く、市街の華麗は世界無比といはれる。市に近いベルサイユには、名高い宮殿があり、對獨平和條約は、此處で調印された。ルーアンは繁盛な河港で、今は綿工業の中心となり、河口のルアーブルは、東北のダンケルクと共に、主要な商港である。西南のシェルブル、ブレストは、共

頭 圖 博 ルドーの埠



メッツの附近から
岩鹽を出す
セダンは大戦の古
戰場として名高い

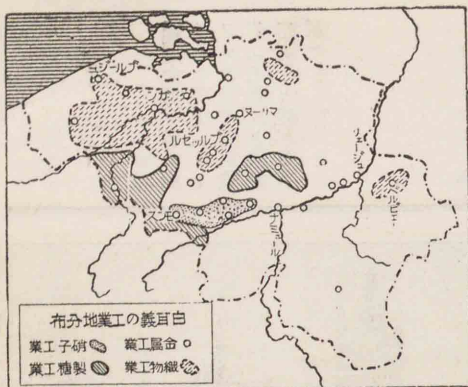
は鐵の大産地で、この附近には、メツ、ベルダン、ナンシー等の、國防上に重要な都市が多い。

日本との關係 明治維新後に於ける我が軍事・法律・學藝等の進歩は、この國に負ふ所が頗る多く、今も學藝殊に美術研究の爲に、我が國から留學する者は少くない。
モナコ フランスの東南海岸に位し、極めて小さい獨立の侯國である。一種の賭博

に軍港で、造船が行はれる。
西部のナントは、砂糖の取引が行はれ、ボルドーは葡萄酒の輸出が多く、ツールーズは交通の要地である。
ローヌ河畔のリヨンは、内地交通の大中心に位し、機業が盛に行はれ、地中海岸のマルセイユは、この國第一の商港で、盛に石鹼を製出し、ツールンは主要な軍港である。
アルサス地方には農産が多く、工業も亦盛で、ストラスブールはその中心市である。ロレーン
Strasbourg Metz Verdun Nancy
Toulon

モナコの面積は二十一
一方糶半、人口二
萬餘に過ぎない
が自國發行の貨幣
や郵便切手がある

面積
約三萬方糶
人口
約八〇〇萬
圖 鮮牛乳賣の女



布分地業工の業百白
業工子研 業工鑛金
業工糖製 業工物織

を公許し、その税金で國費を支辨してゐる。氣候が溫和で、風光も明媚な爲、保養・遊樂の地として知られ、又有名な海洋博物館がある。

第二節 ベルギー

Belgium (白耳義) 附
Luxembourg

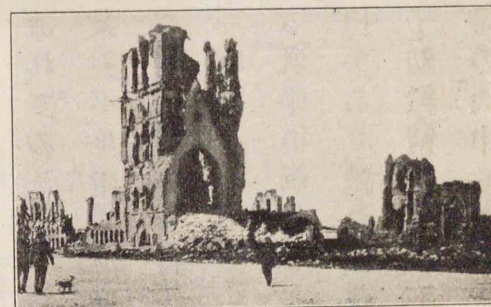
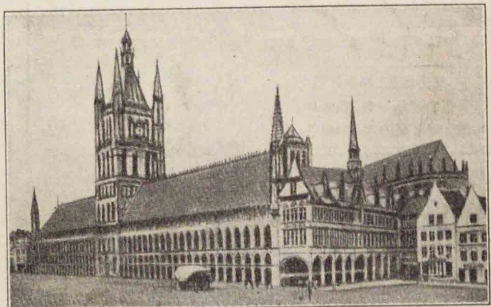
地形 地形は極めて單調で、東南の一部は臺地であるが、他は殆ど平野で、マース・シエルトの兩河が此處を流れてゐる。
Maastricht Scheldt

氣候産業 不生産地が少い上に、氣候も溫和で、耕作がよく行届き、麥類・馬鈴薯・甜菜・亞麻等の産が多く、收穫率の高いことは、世界第一といはれる。乳牛の飼養も亦盛で、乳製品の出産が多い。東部には大炭田があり、鐵の埋藏も豊富なので、此處に製鐵製鋼を始め、硝子・紡織・精糖等の工業が盛に行はれ、リエージュはこの工業地帯の大中心である。西部のガンも機業の一中心を



の工業地帯の大中心である。西部のガンも機業の一中心を

國大戦の爲に荒
された市街(イー
ブルの公會堂が戦
前(上圖)と戦後
(下圖)と變れる有
様)



なし、ブルッセルのレースは、家内工業として世界獨歩である。貿易も極めて盛で、主として鐵石炭、板硝子等を輸出し、食糧品原料品を輸入する。河川、運河の水が便利な上に、鐵道の密度は世界第一であるが、海運は多く外國船による。

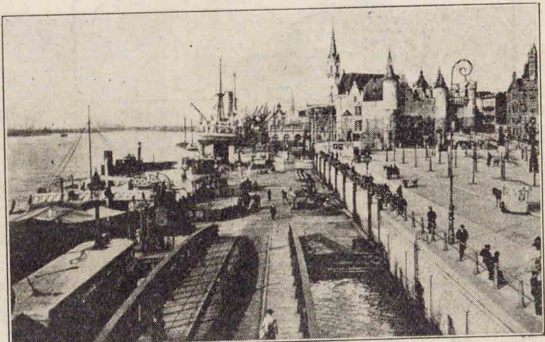
北部にはフレミッシュ語を話すフレンシグ人(チュートン系)南部には佛語を用ひるワールン人(ラテン系)が多い

住民政治 この地は、チュートン族とラテン族との接觸地で、南部とは民族が違ひ、言語も異なるから、公用には兩語(語と佛語)を用するが、宗教は共に舊教を奉ずる。人口密度は世界第一で、殆ど我が國の二倍に當る。

この國は、強國の間に挟まれて、古來屢、戰場となり、ナポレオン一世の敗戦地として名高いワールテルロも此處にある。世界大戦にも、ド

コンゴはもとベルギー王の管理に屬する獨立國であつたが明治四十一年に之を本國に合併した

圖 安ベルスの埠頭



イツ軍に蹂躪されたが、講和の結果、國境を東方(モレネ・オイベ)に擴げ、アフリカの一部を委任統治地とし、又戦前までの局外中立を脱して、完全な獨立の立憲王國となつた。アフリカのコンゴは、以前からこの國の領土である。

都邑 首府ブルッセルは、市街が麗しく、小パリ、Brussels ーと呼ばれる。リエージュは製鐵工業の中心地で、Lige 機械兵器等を産し、Antwerpen 安ベルスは西歐の大門口である。

ルクセンブルグ 獨佛、白の三國間に挟まる大公國で、同名の首府がある。域内に鐵の産が多い。

第三節 オランダ Holland (Netherlands) (和蘭)

地形 國の殆ど全部が平野で、海岸地方の大部分は、土地が海面よりも低いから、天然の砂丘と人工の堤防とで、海水の浸入、河水の氾濫を

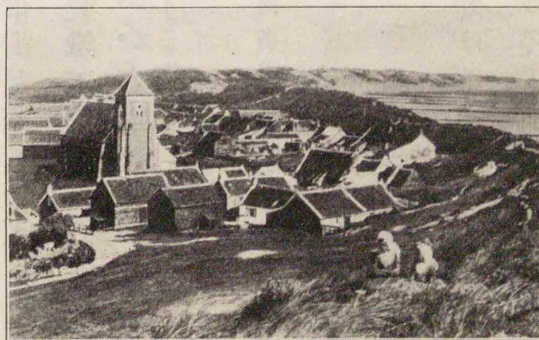
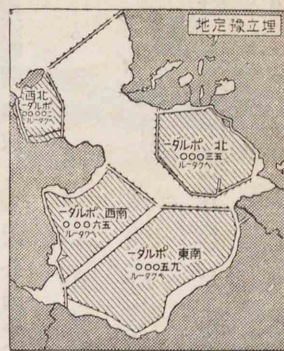
面積 約三萬三千方軒
人口 約八〇九萬
オランダの別名ネーデルランデンは低地の意である

ルクセンブルグは面積約二五九〇方軒、人口約三〇萬

主要都邑 人口(萬)
ブルッセル 三
安ベルス 二

圖 砂丘の陰にある海岸の村落

防ぎ、風車や蒸氣機關で水を排出してゐる。又海面の埋立が盛に行はれ、ゾイデル海は年々面積を縮小する。ライン・マース・シエルト等の河が、數多に分れて此處を流れ、縦横の運河、排水渠が之と交錯して、交通の便が極めてよい。



氣候産業 灣流の影響で、氣候は概^ニ溫和であるが、霧が多く、快晴の日は極めて少い。東北部は冬の寒氣が稍強^ク、無數の運河は、凍結して糧道となる。農業の發達と、收穫率の高いことはベルギーに次ぎ、麥類・馬鈴薯等の産が多い。牛・羊等の牧畜も盛に行

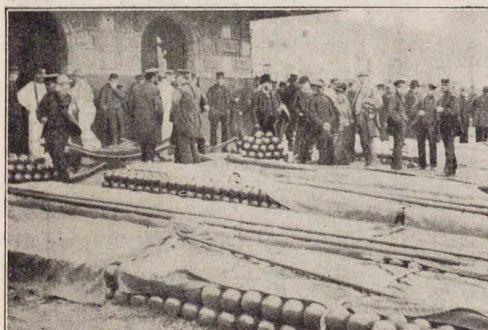
はれて、牛酪・乾酪等の輸出が多く、綠深き牧場が、紅紫嬋娟たる花卉園と交錯して、調和の妙を極めてゐる。鐵を缺き、石炭に乏^シく、水力利用にも不便な爲、工業には適しないが、製糖・釀造等が行はれ、又造船は國民性と相待つて頗^ニ盛である。

この國はラインの河口を扼して、中歐諸國の門戸となり、通過貿易が甚だ盛で、人口の割合に貿易額の多いことは、世界第一である。

住民政治 住民の多數は

チエートン族で、概^ニ新教を奉じ、勤儉の美風がある。早く海事思想が發達し、廣く東西に雄飛して、一時は世界の海上權を握るに至つた。今は昔の勢はないが、尙その領土は本國の六十倍に餘り、立憲王制を

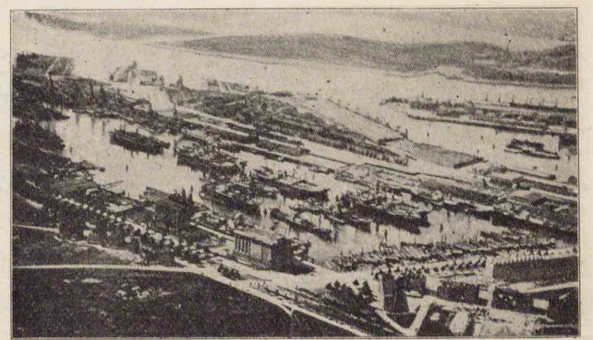
圖 群集せる温室を上空から見た光景



主要都市 人口(萬)
 アムステルダム 七〇
 ロッテルダム 五五
 ハーグ 三〇
 圖 羅ッテルダム
 の埠頭

徳川時代の初期に
 紅毛人といったの
 はオランダ人のこ
 とである

面積
 約三一萬方
 約四九〇〇萬
 右の内アイルラ
 ン自由國は面積約
 七萬方人口約三
 〇〇萬



採り、女王を戴いてゐる。

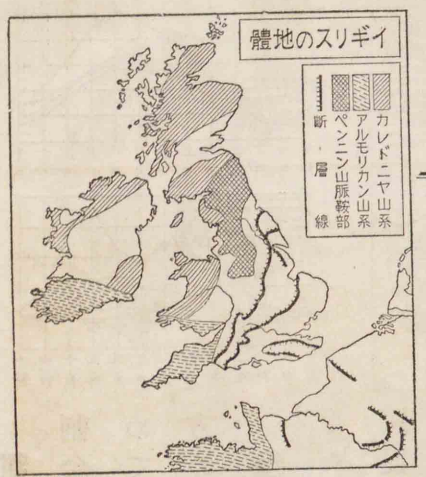
都邑 ハーグは、海岸に近い閑雅な都會で、國王は此處に住し、又萬國仲裁裁判の開かれる平和殿がある。アムステルダムは北海運河に臨み、名義上本國の首府で、金剛石細工と造船とで名高く、ロッテルダムは國內第一の商港である。

日本との關係 我が國とは、徳川幕府の初期から通商を開き、鎖國時代にも、泰西の事情を紹介し、博物、醫學等の進歩を促した。されば往時、唐といふ語が外國を意味したやうに、一時オランダといふ語は、西洋の意味に用ひられるに至つたが、現時の關係は深くない。

第四節 イギリス
 England (British Isles) (英吉利)

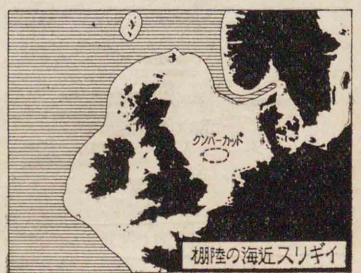
地形 イギリスは、地質上の近代に歐洲大陸から分離したもので、浅い陸棚の上に位し、大ブリテン・アイルランドの二大島と、數多の屬

スカンデナヴィヤか
 らスコットランド
 に至る山脈をカレ
 ドニヤ山脈といふ
 ことがある



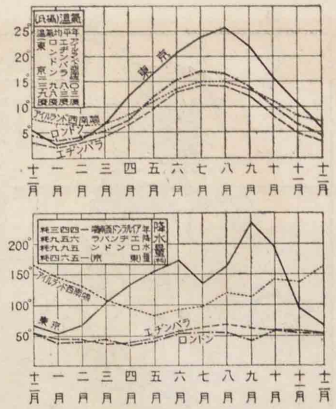
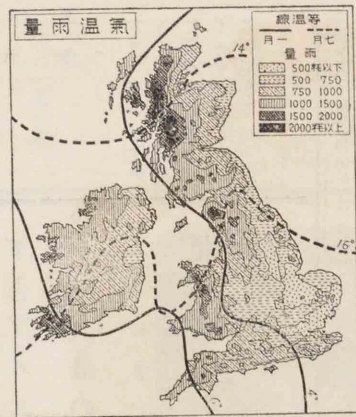
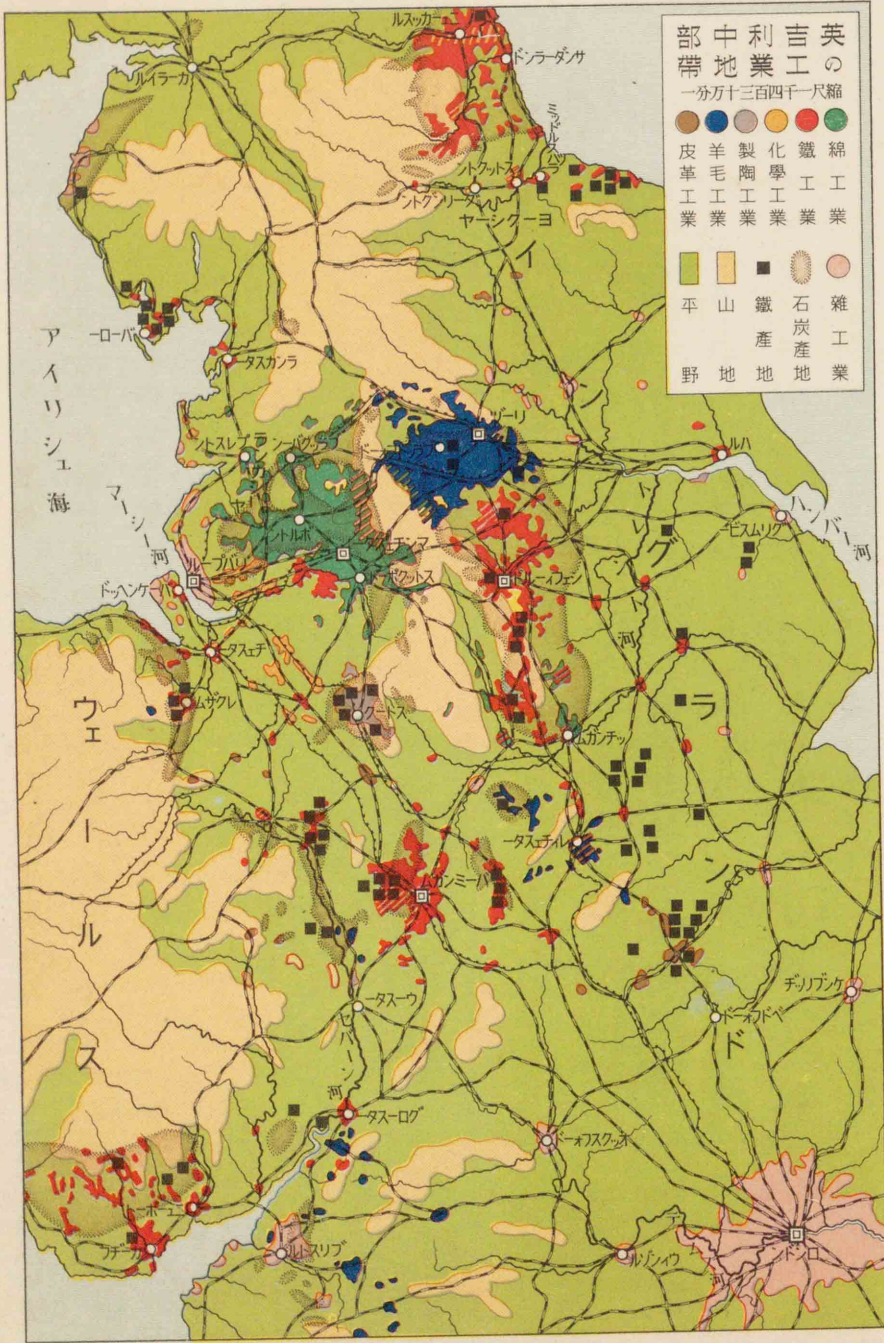
島から成る。大ブリテン島は、イングランド・ウェールズ・スコットランドに分れ、アイルランドは、北アイルランドとアイルランド自由國とに分れる。

二大島の南北には、古代山地に屬する高地が連る。スコットランドでは、それが帶狀の中央低地によつて、北部高地と南部臺地とに分れる。イングランドの西部には、ペンニン山脈が連つてゐるが、東南部は、佛白に連絡せる波



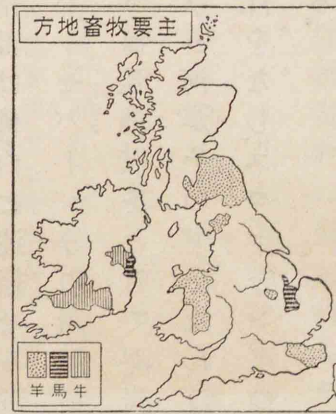
状の平野で、テムス・ハンバー・セバトン等の諸川が此處を流れる。アイルランドは盆地狀をなして泥炭に富む沼澤地が多く、シャンノン河がその中を流れる。海岸は大小の河口が三角江をなし、スコットランドの西岸には、多數の峽灣がある。

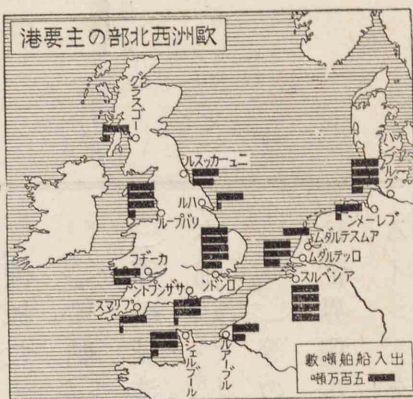
高山は殆どなく、第一の高峯ベンネビス山も一千三百四十餘米に過ぎない。スコットランド、アイルランドには、氷蝕による湖沼が散在して、秀麗な風景を作つてゐる。



氣候 緯度は高いが、湾流・風向等の影響により、気候は割合に溫和である。一般に濕潤で霧が多く、快晴の日は極めて稀であるが、雨量は西岸地方の外概して少い。

産業 往時は盛に農業も行はれたが、商工業の繁盛につれ、國民は農園を捨てて都市に集中し、沃野は荒廢して牧場と化し、僅に麥類・馬鈴薯根菜類等を出すに過ぎない。羊・牛等の牧畜は稍、盛に行はれるが、食糧品は多く海外から供給を仰いでゐる。アイルランドは今でも農牧を主業とし、その産物を大ブリテンに送る。北海にはド





リバプール・マン
チェスター間の鐵
道は世界最古のも
のである

英國の商船噸數は
世界總噸數の約三
五%に當る

部は、大小の工業市が群集し、煤煙が常に天を掩うて黒郷
と呼ばれる。
工業が盛大な上に、廣い植民地を持ち、通商上便利な位
置を占め、海運業も盛であるから、貿易は大いに發達し、盛
に綿布、鐵機械、石炭、毛織物等を輸出して、穀物、綿、羊毛、木材
等を輸入し、ロンドン、リバプールは、その二大
中心である。我が國へも鐵材、毛織物、機械等の
輸出が頗る多く、我が國より生絲、銅、絹織物等を輸入する。

交通 世界で始めて鐵道を設けたのはこの國で、今も
その密度が極めて大である。河川運河の水運も亦便利で、
マンチェスター運河は殊に著名である。大陸との連絡は、ロ
ンドンとオスタンド、(ギール)ドーバーとカレー、(フランス)との間
に最も繁く、海運は世界第一の商船國で、廣く各地と通じ、リ
バプール、コーク、サザンプトン等は、航路の焦點となつて

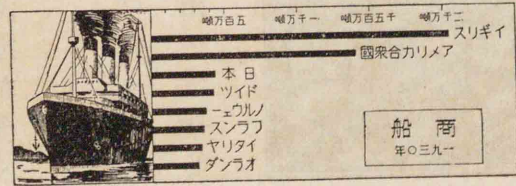
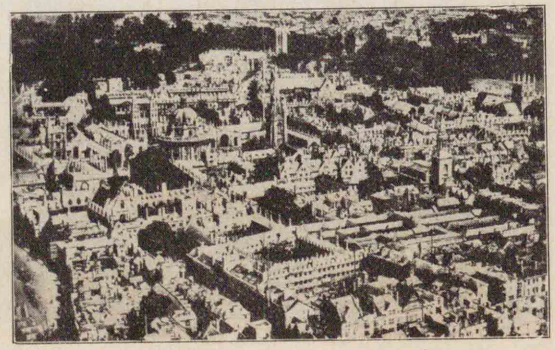


圖 英國の商船噸數は世界總噸數の約三五%に當る

土 領 要 主	
(む 含 を 地 治 統 任 委 地 護 保)	
南	アジヤ
北	大洋洲
米	アフリカ
米	ヨーロッパ
	南アフリカ
	ケニア
	タンガン
	イカ
	南西アフリカ(南阿聯)
	ギネヤ
	地方數ヶ所
	スダン一部
	カナダ
	ニーフランド
	英領ホンデラス
	ジャマイカ
	バハマ諸島
	ギヤナ一部
	フオー克蘭ド諸島

住民 住民の大部分はチーントン族であるが、
西部及び山地には原住のケルト族も住んであ
る。チーントン族は新教を奉じ、教育がよく普及し
て、名高い大學が多く、オックスフォード、ケンブリッヂ
Oxford Cambridge



は特に知られてゐる。教育
の方針は、品性の修養に意
を用ひ、勤勉、着實で秩序を
守り、道義を重んずる所謂
紳士たることを主眼とする。人口密度は世界の
第三位を占め、海外に移住する者が甚だ多い。
政治 この國は、早く憲法の基礎を定めて内
政を整へ、海外に植民地を擴めて、十九世紀には
全陸地の四分の一を領し、その版圖内には、太陽

圖解
アイ
ル
ラ
ン
ド
の
村
落



の没する時がないといはれてゐたが、更に大戦の結果、ドイツ・トルコ等の舊領土中、この國又はその植民地政府に、統治を委任された處が少くない。この全領土を大英帝國と稱へ、英國王は即ちその皇帝である。陸軍常備兵は割合に少いが、斯る廣大な植民帝國の統治に、強大な海軍を要するのは當然のこと、海軍力は米國と共に世界の首位を占め、ポーツマス、プリマス等は、その重要な根據地である。
Plymouth

アイ
ル
ラ
ン
ド
に
住
む
ケ
ル
ト
族
は、言
語、宗
教
を
異
に
し、永
く
英
國
地
主
の
壓
迫
を
受
け、悲
慘
な
生
活
を
續
け
て
來
た
が、獨
立
運
動
が
盛
と
な
り、一
九
二
一
年、南
部
は
自
治
を
許
さ
れ
て、ア
イ
ル
ラ
ン
ド
自
由
國
と
な
つ
た。北
部
は
ス
コ
ッ
ト
ラ
ン
ド
か
ら
の
移
民
が
多
く、本
國
と
の
關
係
が
密
な
爲、北
ア
イ
ル
ラ
ン
ド
と
稱
へ、
王
國
の
一
部
と
し
て
自
治
を
許
さ
れ
て
ゐ
る。従
つ
て
現
在
の
イ
ギ
リ
ス
は、國
號
を
大
ブ
リ
テ
ン
北
ア
イ
ル
ラ
ン
ド
合
衆
王
國
と
呼
ぶ。領
土
の
大
を
誇
り
と
し
た
英
國
も、今
は
領
土
統
一
の
煩
に
苦
し
む
狀
態
で
あ
る。



ロ
ン
ド
ン
市
の
下
瞰
中
央
を
流
れ
る
の
は
テ
ィ
ム
ス
河
で、
近
く
タ
ワ
ー
橋
が
架
つ
て
ゐ
る



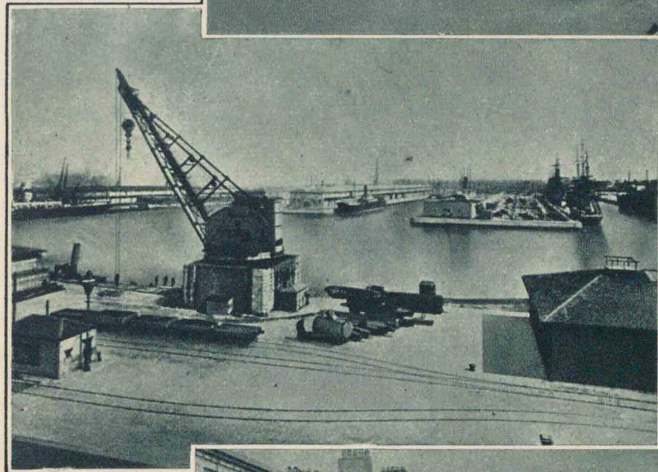
ロ
ン
ド
ン
の
市
中
英
蘭
銀
行
前
の
光
景
で、往
來
が
熱
鬧
を
極
め
る



ロ
ン
ド
ン
の
國
會
議
事
堂
國
會
議
事
堂
の
左
方
に
ウ
ェ
ス
ト
ミ
ン
ス
タ
ー
寺
の
一
部
が
見
え
る



サザンプトンの埠頭
大西洋通船の重要な根據地で、
大な棧橋が長く出てゐる



グラスゴウの河岸
クライド河の西部方面を示したも
ので大小の船渠が列んでゐる

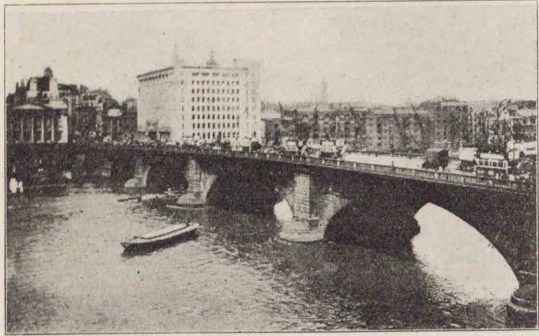


ダブリンの市街
大學前から議事堂へ通ずる大街道
で、市内で最も繁華な處

主要都邑 人口(萬)

ロンドン	四〇〇
グラスゴウ	一〇〇
バーミンガム	一〇〇
リバプール	八六
マンチェスター	七
シェフィールド	五
リーズ	四
エジンバラ	四
ベルファスト	四
ダブリン	四
プリストル	三
ハル	三
ブラッドフォード	三
ニューカッスル	二
ボーツマス	二
カーヂフ	三
プリマス	三

大ロンドン人口は八二〇萬である



都邑 首府ロンドン(London)は、テムス河に跨り、歐洲第一、世界第三の大都會である。商業・交通及び經濟上の大中心で、船舶の輻輳、車馬の混雜、貿易の盛大なことは、ニューヨークと東西の覇を競つてゐる。市内には、バッキンガム宮殿・國會議事堂・博物館・英蘭銀行・ウェストミンスター寺・ロンドン塔・グリニチ天文臺等の名高い建物が多く、煤煙と濃霧とは市の名物で、往々白晝にも點燈を要することがある。イギリス海峡に臨むサザンプトンは、大西洋航路の集點に當り、ウエールズのカーヂフは、石炭の輸出港として名高い。

イングランドの中部には、バーミンガム(工業)・マンチェスター(工業)等を始め、盛大な工業市(シェフィールド、ラッドフォード等)が多く、リバプールは、この大工業地帯の門戸に當る大商港である。東岸にもニューカッスル(工業)・ミッドルズバラ(工業)等の大工業都市が多い。



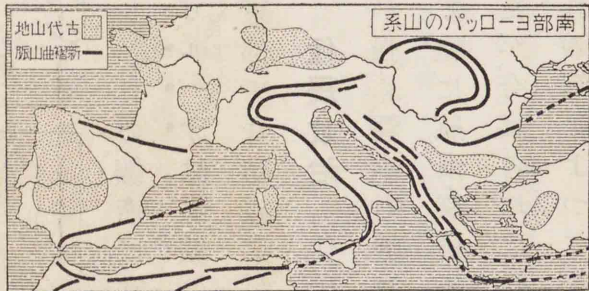
スコットランドのエジンバラは、學術・文藝上の中心市で、出版業が盛に行はれ、クライド河畔のグラスゴーは、この國第二の都會で、造船その他工業が盛である。
ベルファストは北アイルランドの主邑で、盛にリンネルを産し、ダブリンはアイルランド自由國の首府で、醸造業が行はれる。

日本との關係 我が國がアジア大陸の東邊にある如く、英國は歐洲大陸の西邊にあつて、兩國の大陸に對する關係が似てゐるので、日本は屢、東洋の英國と呼ばれること亦少くないが、その植民地との經濟關係は、更に一層密接なものである。

第五章 地中海地方

イベリヤ・イタリヤ・バルカンの三半島と、附近の島嶼とを含む。地中海

イスパニヤ
面積 約五〇萬方軒
人口 約二三八〇萬
ポルトガル
面積 約九萬三千方軒
人口 約六七〇萬
カンタブリア山脈の西端は海岸が特殊の出入をなしイスパニヤ語で之をリヤ(Ciudad)と呼ぶリヤス式海岸の名稱は之に由來する

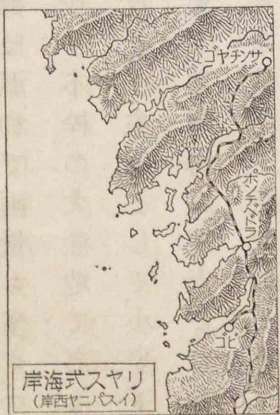


海は、ユーラシヤとアフリカとを分ける一大内海で、アルプ山脈を盟主とする新しい褶曲山脈に抱かれ、アペニン・アトラス(リアフ・シエラネバダ等の山脈は、西地中海を圍み、ジナルアルプ・ピンダス等の山脈は、東地中海の北縁をなして、小アジアの山地と連絡する。此等の間には、古い地塊が、高原や島となつて處々に残つてゐる。

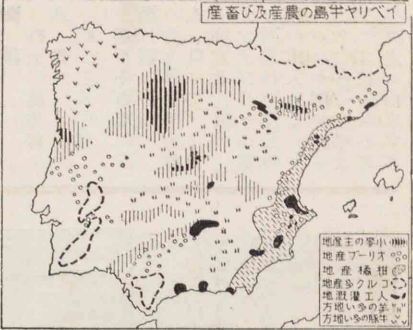
第一節 イベリヤ半島

地形 イスパニヤ・ポ

ルトガルの二國を含む。大體は一大高原であるが、河川の侵蝕により、並行した山脈状をなしてゐる。海岸は西北の一部がリヤス式をなす外は、極めて單調である。



イベリア半島の畜産及び畜産



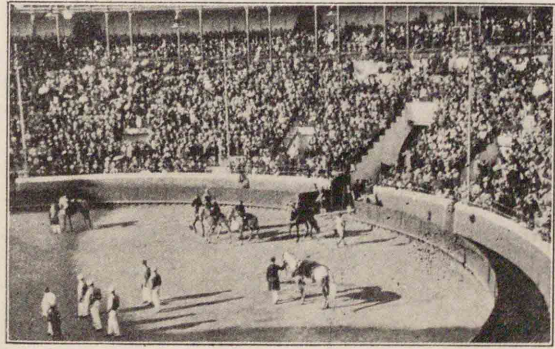
イベリア半島の工業



の産に富むも、概ね外人の経営に属する。

ビルバオは鐵鑛の積出港で、近年製鐵も行はれ、東部では紡織業が稍盛である。

住民政治 住民の多くはラテン族で、射倖心が強く、闘牛の戯に熱狂する風がある。二國は嘗て盛に航海探検を行ひ、世界に勢力を振つてゐたが、今は各地に残る小領土や、言語の廣く行はれる等によつて、昔の強勢を偲ぶに過ぎない。政



— ヨーロッパ — 198

【圖】闘牛場の光景
イスパニヤ語は領地の外マレー諸島の一部北米の南部及び南米の大部に又ポルトガル語はブラジルに行はれる

海外領土	アフリカ	カナリヤ諸島	ギネヤ灣岸地方
		リオデオロ	モロッコの一部
	ポルトガル	澳門	葡領印度
		アソレス諸島	マデイラ諸島
		アンゴラ	東アフリカ
		岬諸島	ギネヤ灣岸地方

等の輸出が多い。

日本との關係 この兩國は、歐米諸國の中、最早、我が國に來航して、鐵砲宗教等を始め、西洋文物輸入の前驅をなし、この國の言葉が、我が國語に轉訛して残つてゐるものもあるが、現時の關係は深くない。

ジブラルタル 半島の南部にある英國の領土で、地中海の西門を扼し、軍港と商港とを兼ねてゐる。

アンドラ ピレネー山中にある小共和國で、佛西兩國の保護を受けてゐる。

主要都邑 人口(萬)
 バルセロナ 九
 マドリド 七
 リスボン 五
 バレンシヤ 三
 オポルト 三

西岸のオポルトは世界的に名高いポルトワインの産地である

面積 約三一萬方呎
 人口 約四一〇〇萬

第二節

イタリヤ

地形 イタリヤ半島及び大陸の一部と、シシリー・サルヂニヤ等の

Italy(伊太利) 附 バチカン Vatican サンマリノ San Marino マルタ Malta
 Sicily Sardinia

アルプ山地にはガ
ルグ・コモ・マツジ
レ等の湖水が多く
景色がよい

【圖解】コモ湖の景觀



島々から成る。北境にはアルプ山脈が横はり、山麓に景色のよい湖水が多い。半島部にはアペニン山脈が連り、之に沿ふ火山帯には、ベスビヤス・エトナ等の名高い火山がある。平地は割合に少いが、北部のロンバルディア平原は稍、廣く、ポー河が此處を流れてゐる。

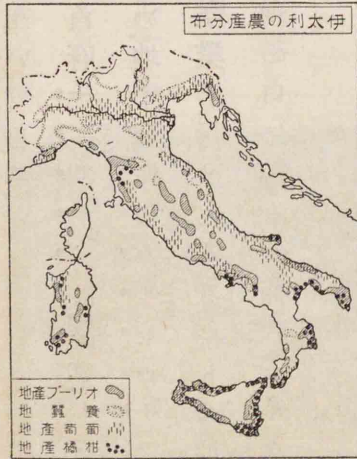
氣候産業

氣候は概ね溫和であるが、南部には暑い不健康地もある。小麦・玉蜀黍・米・葡萄等の農産が多く、小麦を原料とせるマカロニは、この國の特産である。養蠶も頗る盛で、生絲の産額は歐洲第一位に位し、ミラン・チユリ等には絹織業が行はれる。半島及び島嶼は、葡萄・オリーブ・柑橘類等の果樹を植ゑて、葡萄酒・オリーブ

蠶絲は世界第三位の産額がある

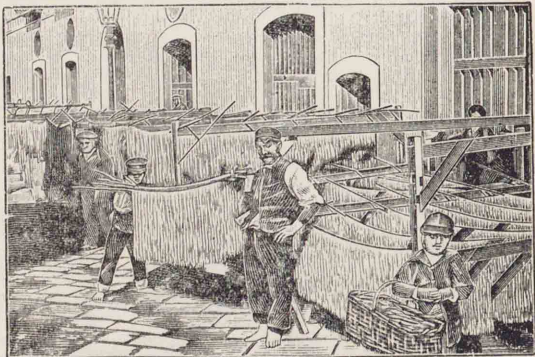
料とせるマカロニは、この國の特産である。養蠶も頗る盛で、生絲の産額は歐洲第一位に位し、ミラン・チユリ等には絹織業が行はれる。半島及び島嶼は、葡萄・オリーブ・柑橘類等の果樹を植ゑて、葡萄酒・オリーブ

伊太利の農産分布



小麦
玉蜀黍
米
葡萄
柑橘

【圖解】マカロニの製造
珊瑚細工の原料は主として日本から輸入する



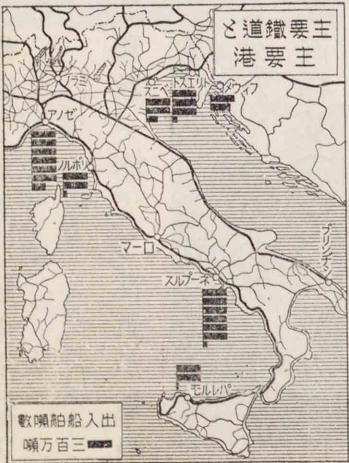
油等を産し、羊の牧場も處々にある。鑛産は火山地方の硫黄、カララの大理石等が稍、著れてゐる。古來美術工藝に秀でた國で、古代ローマの彫刻繪畫は、世界の模範となり、今も珊瑚細工(ルネーブ)硝子器(スベニ)等の工藝品を出す。近年水力の利用が進んで、綿

伊太利の電力所分布



絲・羊毛・人絹等の新工業が勃興した。其等は、絹織・葡萄酒等と共に、主要な輸出品で、輸入品は綿穀物・石炭・機械等が多い。
交通 位置が地中海の中部にあつて、多數の航路が集り、中歐と連絡せるアル

主要の鐵道と主要の港



輸入船噸數
三萬噸

アフリカ洲に於ける領土はエリトリア・ソマリランド及びトリポリ等である

圖發掘されたポンペイの市街

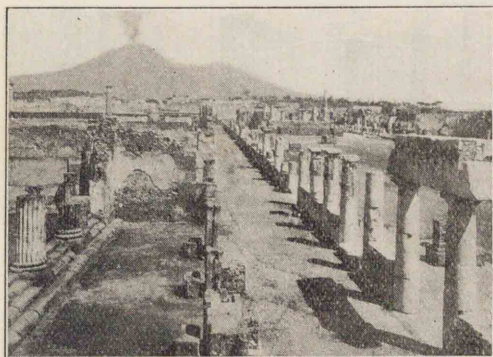
主要都邑 人口(萬)
 ローマ 一〇〇
 ミラン 九〇
 ネーブルス 八〇
 ゼノア 七〇
 チェリン 六〇
 バレルモ 五〇
 フロレンス 四〇
 トリエスト 三〇
 ネーブルスに名高い臨海實驗所がある

ブ横斷鐵道は、二條の幹線となつて國內を縦貫する等、水陸の交通が頗る便利で、中歐の内陸國に對する主要な門戸である。

住民政治 國民の大多數はラテン族で、舊教を奉ずる。性質が極めて優雅で、美術・文藝に長じ、又音樂を得意とする。この地は古のローマ帝國の中心地で、その滅亡後、數多の小國に分れてゐたが、凡そ七十年前に統一して、現在の立憲王國となり、近年國粹黨(トナツス)が勢力を握

り、國運の發展が著しい。大戰の結果、舊埃洪領の一部を版圖に加へ、又アフリカ洲に廣い領土を有する。

都邑 首府ローマは、タイバー河の下流に跨り、昔ローマ帝國の首都であつたから、當時の遺跡に富み、遊覽の客が常に多く、ネーブルス(リポ)は近くベスピヤス火山と對し、風光明媚な良港で、附近に近年發掘されたポンペイ市の遺跡が



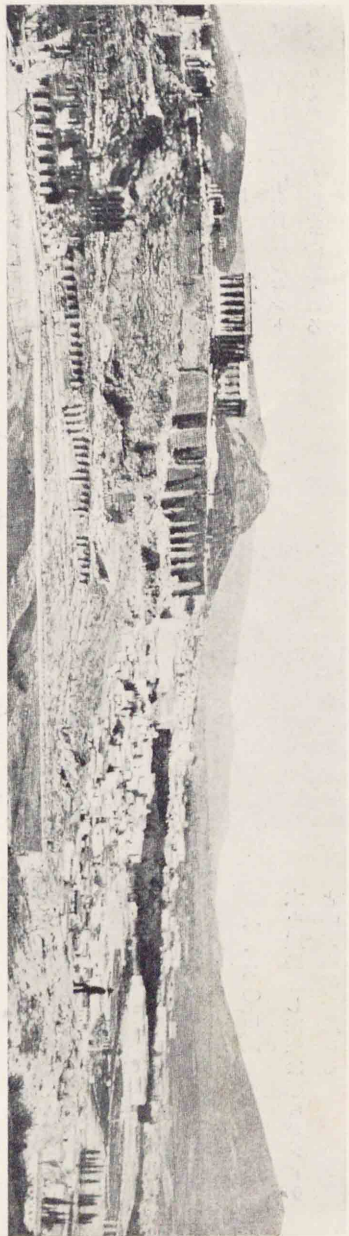
ローマ市の下瞰
 タイバー河が市中を貫流しセントペテロ寺が高く人目を惹いてゐる



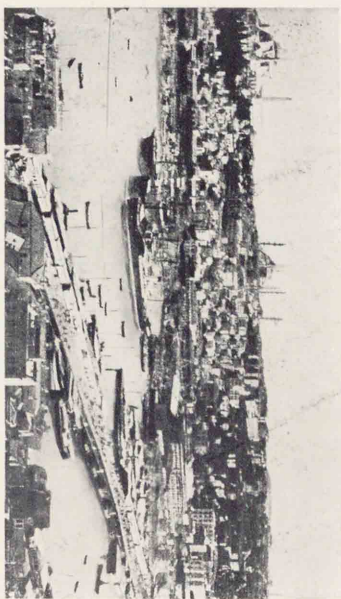
ネーブルス市
 清き海面を隔ててベスピヤスの活火山を望み風景美に聞えてゐる



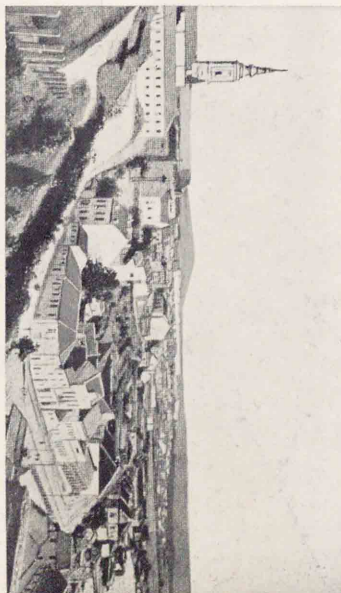
ベニス市の街
 水を通路とし往來は専らゴンドラと呼ぶ小船を用ひる



望遠のシエナ
 るめてつ連が街市はに方右り残が址の堂殿るせと誇の明文代古で殿丘スリボロクアは方左



ルツノチンタスニコ
 い多が院寺な大壯に内市らか係關の上史歴



ピラグルベ
 地要の上通交し位に點流會の河兩アサ・ブーニニダ

ある。フ・ロ・レン・ス（フ・イ・ツ）は美術の中心で、古今の名畫を集藏し、ピ・サは斜塔があるので名高い。
 Florencia (Firenze)

ロンバルヂヤ平原には、ミ・ラン（ミ・ラ）チ・ユ・リ・ン（トリ）等の工業都市がある。共に鐵道の要地に當り、ミ・ランには著名な大寺院がある。ゼ・ノ・アは
 Milan (Milano) Turin (Torino)

重要な商港で、又機業が行はれる。東岸のベ・ニス（ベ・ネ）は、數多の島に跨り、水上の都と謳はれる處
 Genova Venezia (Venezia)

で、硝子器・寶石細工等を出す。對岸のトリ・エ・ストとフ・イ・ウ・メとは、共に新に得た良港である。
 Trieste

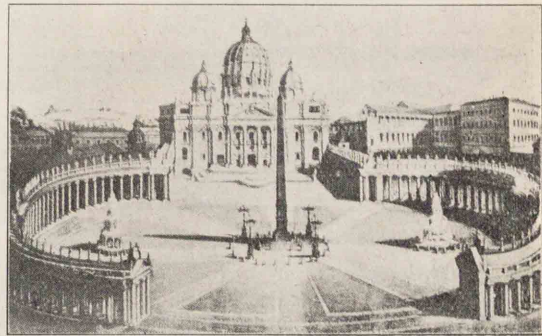
シ・ン・リ・ー・島には、パ・レ・ル・モの要港があり、エル・バ島はナポレオン一世の配所として名高い。
 Palermo Elba

日本との關係 イタリアは、細長い地形が我が國に似てゐる外、歐洲の火山國・地震國で、溫泉・名勝・古跡が多く、米生絲等の産物を出し、國民が手藝に長ずる等總ての方面に似てゐる點が多いが、貿易は我が國から多少の屑絲や、工藝原料として珊瑚を送る外、餘り盛ではない。



ベニス
 上空から見た

バチカンは面積
○・四四方軒、人口
約一〇〇〇〇
バチカンの使節が
日本へも来てゐる
が日本からは未だ
派遣してゐない
聖セントペテロ
寺
サンマリノは面積
約六一方軒、人口
約一萬四千



マルタ島 英國の領土で、港
市をバ・レ・ッタといひ、英國地中海
艦隊の根據地である。
バチカン ローマの市内に
介在し、法王廳に屬する獨立の
小地域で、セントペテロ寺、バチカン宮等が此處
にある。

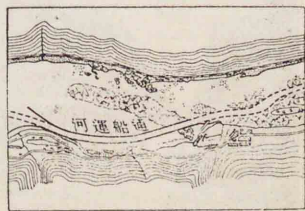
サンマリノ 半島の中部にあつて、建國の古い獨立共和
國である。

第三節 バルカン半島

バルカン半島は、地中海の東部に位し、ダルダネル・ボスポロスの二
海峡を隔てて、アジア洲と相對してゐる。海岸線が極めて錯雜し、殊に
エーゲ海は、大小の島嶼が散在して、多島海と呼ばれる。一體に山勝ち
であるが、ダニユーブ河の下流には廣い平原がある。この
河道に鐵門の急流があるが、運河を設けて交通を便に
した。

多島海は陸地の陥
没によつて生じた
ものである

鐵門の急流
(通船運河の部分
を示したもの)



南部は氣候が概々溫和で、歐洲の果樹帯に屬し、葡萄、無
花果、オリブ、油等の産が多く、養蠶、牧畜も行はれる。北
部は大陸性で雨量は乏しいが、小麥、玉蜀黍の主産地で、西歐に對する
穀倉の一に數へられる。

この地方は民族が複雑して、互に融和を
缺き、且形勝の地を占める爲に、列強の干涉
も加つて、絶えず紛争が起り、歐洲禍亂の源
といはれてゐたが、世界大戰も、その端はこ
の地から起つた。今はこの狭い區域が、六國
に分れてゐる。

ギリシヤ 古代に文明が著しく進み、歐

面積
約一三萬方軒
人口
約六二〇萬



東部の島半島
森 森林
山 山地
川 河川
海 海洋
市 都市
島 島嶼

アテネ 聖萬
 圖解アテネの市街
 (中央はアクロポリス丘で古代建築の遺物が多い)
 サロニキの一部はユーゴスラビヤの爲に自由地域となつた

面積 約四萬五千方呎
 人口 約一〇〇萬
 チラナ 三萬

圖解コリント運河
 面積 約二五萬方呎
 人口 約一三九〇萬

ベルグラード二萬

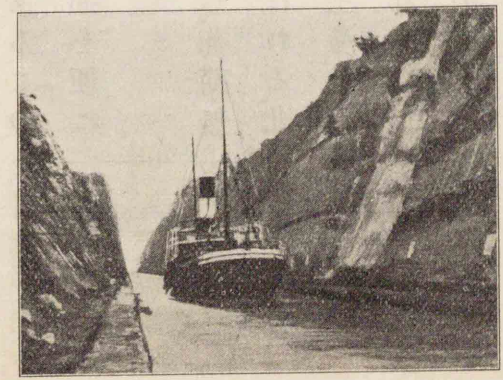


洲文化の源となつた地方で、今は共和國である。住民の大部はギリシヤ族で、農を業とし、又海上貿易に従事する者も少くない。首府アテネは著名な史蹟が多く、ピレウスはその門戸である。コリントは同名の運河に沿ひ、サロニキは鐵道幹線の一端に當る。

アルバニヤ 一小王国で、アルバニヤ人が多く、牧畜を主業とする。チ

ラナはこの國の首府である。
 Tirana

ユーゴスラビヤ 南スラブ族に屬する諸民族の住地で、セルビヤ・モンテネグロ等の獨立國があつたが、大戰の結果、同族の住地を統一して立憲王國となつた。首府ベルグラード



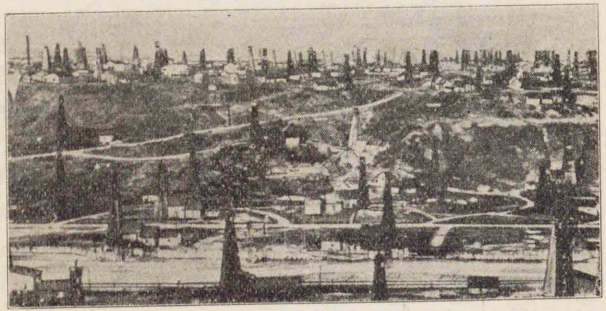
Belgrade

面積 約二九萬方呎
 人口 約一八〇〇萬

ブカレスト 三萬
 圖解ルーマニヤの油田

面積 約一〇萬方呎
 人口 約六〇七萬

ソフィヤ 三萬
 面積 約二萬四千方呎
 人口 約一〇四萬
 コンスタンチノブル 充萬
 トルコ人の間ではコンスタンチノブルをスタンブールと呼ぶ



は交通の要地に當り、バルカンの鍵と呼ばれる處である。

ルーマニヤ ラテン族によつて建てられた立憲王國で、大戰の結果、殆ど舊時に倍する大國となつた。域内に沃野が廣く穀産に富み、山麓地方からは石油岩鹽等を出す。首府ブカレストは穀物の集散が盛に行はれ、ガラツは重要な河港である。

ブルガリヤ スラブ族のブルガリヤ人によつて建てられた立憲王國で、薔薇油の特産がある。首府ソフィヤは中央ヨーロッパと鐵道の便がある。

トルコ(一部) もと半島の大部分を領有してゐたが、次第に領土を失ひ、今では僅に一小部を残すのみとなつた。住民の大部分は回教徒のトルコ族である。コンスタンチノブル(イスタンブル)は、ボスポロス海峽の要地を占め、最近までトルコ帝國の首府であつたが、今は首府をアジ

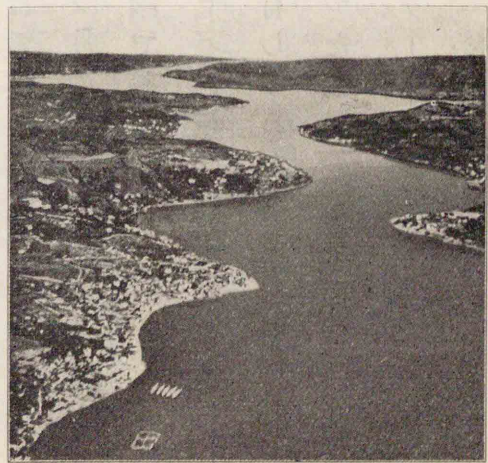
ボスボロス海峡は長さ約三十軒に及ぶも幅の狭い處は約七百米に過ぎない水深が甚だ大で巨艦の航行が自由である

ボスボロス海峡は長さ約三十軒に及ぶも幅の狭い處は約七百米に過ぎない水深が甚だ大で巨艦の航行が自由である

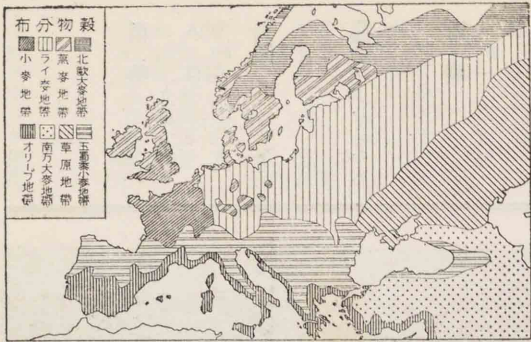
ボスボロス海峡は長さ約三十軒に及ぶも幅の狭い處は約七百米に過ぎない水深が甚だ大で巨艦の航行が自由である

總説 (其二)

産業交通 土地が廣く利用されて、農業は到る處に行はれるが、人口が稠密な爲、東歐の一部を除けば、食糧品は他から仰がねばならぬ。牧畜は主として肉乳を目的とし、羊毛は輸入が多い。中部以西は、石炭鐵に富んで、工業が著しく發達し、之に要する原料の輸入及び製品の輸出が盛で、通商は廣く世界の各地と營まれ、産業上にも、經濟上にも、世界的中心となつてゐる。



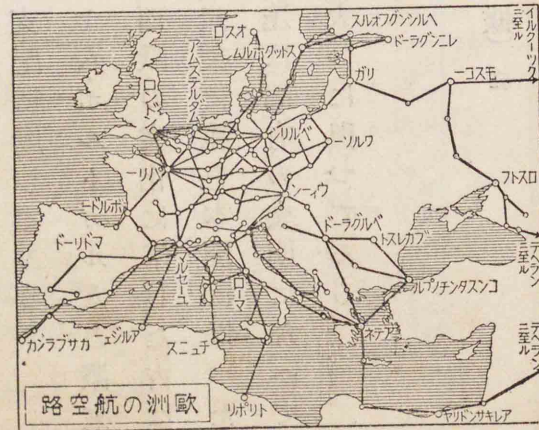
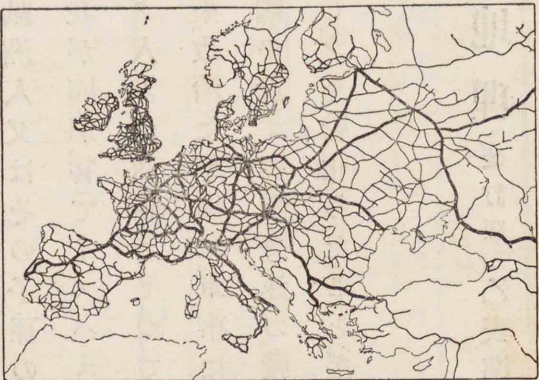
— 洲パロヨ — 208



ボスボロス海峡は長さ約三十軒に及ぶも幅の狭い處は約七百米に過ぎない水深が甚だ大で巨艦の航行が自由である

歐洲の鐵道網を示す(太いのは大幹線)

交通は水陸共に便利である。鐵道は延長に於いて北米に劣るも、鐵道網の密度は、六大洲中第一である。水運は南



ヨーロッパ人種	ギリシヤ族
ラテン族	イタリヤ・フランス・イベリヤ半島・ルーマニヤ等
チユートン族	スウェーデン・ノルウェー・デンマーク・ドイツ・イギリスの大部等
スラブ族	ソビエト聯邦・ブルガリヤ・ポーランド・チェコスロバキヤ・ユーゴスラビヤ
ケルト族	フランス・イギリス等の西部
アジヤ人種	トルコ族
フィン族	フィンランド
ラップ族	スカンディナビヤ・フィンランド等の北部

北に二大内海があり、多くの河川運河は海灣と内陸とを連れ、又北大西洋航路には、世界海洋船舶の過半を集めてゐる。この他航空路網や、海底電線無線電信等の設備も殆ど完備してゐる。

人口密度(二方村)

ベルギー 二六六
オランダ 二四三
日本(内地) 一六九
イギリス 一五〇
ドイツ 一三三
イタリア 一三三
チリ 一〇五
スイス 九〇
ハンガリー 八五
デンマーク 八三
ポーランド 八三
オーストリア 八三
フランス 八三

度は諸大洲中第一である。住民の最多数はヨーロッパ人種で、その中ラテン・チュートン・スラブの三大民族が約九割を占め、東南部にはアジア種の民族も少くない。

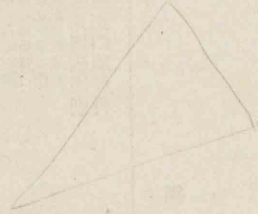
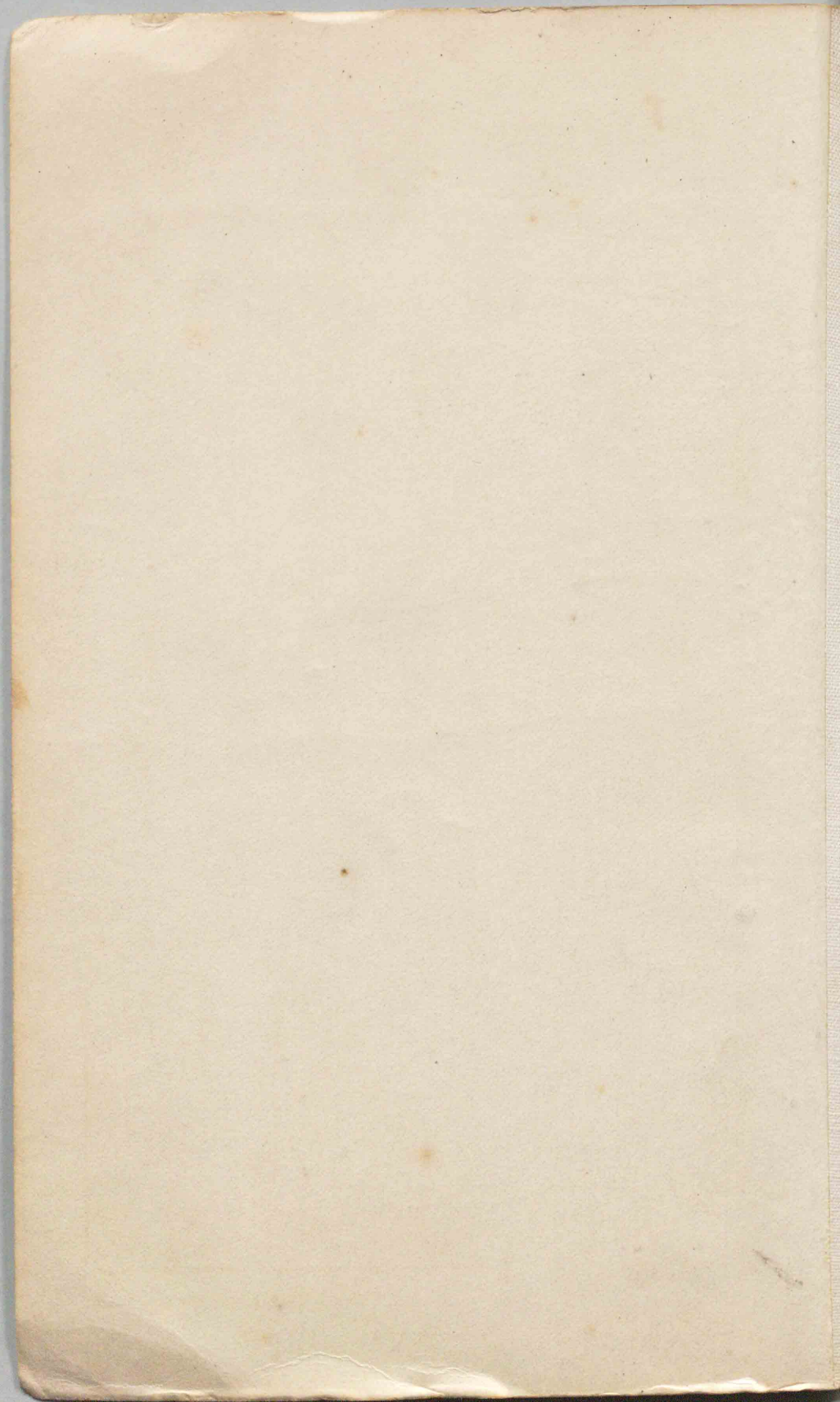
本洲には約三十の獨立國があり、ソビエト聯邦の外は、悉く我が國よりも狭いが、國勢の強大なものが多く、世界に於ける陸地の大部分と、人民の過半とは、歐洲人又はその子孫の支配に屬してゐる。

日本との關係 我が國が嘗てイスパニヤ人・ポルトガル人の渡來により、或はオランダ人との通商によつて、西歐の文化に浴した古は暫く措くも、開國以來、政治に、學術に、軍事に、産業に、範を本洲に採つたものが頗る多い。我が國の驚くべき急速の發達は、固有の文明に加へて、本洲の文明を採用し、之を善化したことが大いに與つてゐる。

最新最近世界地理 改訂版(乙表準據) 終

日本帝國在外公館一覽表

北		洲カリメア南					洲カリファ			洲洋大		國名地名	大使館 公使館 ○大使館	總領事館 領事館 ○總領事館 *分館	
キ	パ	ペ	コ	チ	アル	ウ	ブ	南	英	エ	オ				ハ
ユ	ナ	ル	ロン	ビ	ゼン	ル	ラ	アフリ	領東	ジ	オ	ワイ			
バ	マ	リ	ビ	リ	ン	グ	ジ	カ	ア	プ	スト	諸			
		ボ	ヤ	チ	チ	ア	ル	聯	フリ	ト	ラ	島			
		ゴ	リ	ヤ	ン	イ	ラ	邦	カ		リ				
		タ	マ	ゴ	ン	イ	カ		リ		ヤ				
		マ		マ	チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ヤ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				
					ン	イ	カ		カ		ヤ				
					チ	イ	カ		カ		ヤ				



山口縣立安下庄中學校
大石正勝

広島大学図書

2000053168



庫
5
8